

令和5年度

全国体力・運動能力，運動習慣等調査

鹿児島県結果分析



鹿児島県教育委員会



令和5年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査について

1 調査の目的

全国体力・運動能力，運動習慣等調査は，子どもの体力等の状況に鑑み，全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより，子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，そのような取組を通じて，子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的にスポーツ庁が実施しているものです。

2 調査の結果について

本調査結果は，実技調査8項目，及び運動習慣等の質問紙調査による体力等の特定の一部を示したものです。

また，学校の教育活動は，多面的，総合的に行われるものであり，調査結果は，あくまで学校における教育活動の一側面であるので，御留意ください。

目 次

○ 県全体の調査結果(公立)	1
1 実技に関する調査結果概要	2
2 運動習慣等に関する調査結果概要	5
3 生活習慣等に対する調査結果概要	7
4 運動やスポーツ，体育・保健体育の授業に関する調査結果概要	9
5 学校における体力向上のための取組に関する調査結果概要	16
6 全体考察	18
7 改善のポイント	20

県全体の調査結果〔公立〕

本県の調査実施状況

1 調査の期間

令和5年4月～7月末

2 調査の概要

- 調査方法：悉皆調査
- 対象学年：小学校第5学年，特別支援学校小学部第5学年
中学校第2学年，特別支援学校中学部第2学年
※ 小・中学校にはそれぞれ義務教育学校を含む。
- 調査事項
 - 児童生徒に関する調査
 - ・ 実技に関する調査：小・中学校ともに8項目の実技調査
① 握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横とび
⑤ 20mシャトルラン（中学校は持久走との選択）
⑥ 50m走 ⑦立ち幅とび ⑧ ボール投げ
 - ・ 運動習慣や生活習慣，運動への興味・関心等に関する調査
 - 学校に対する質問紙調査
 - ・ 子どもの体力・運動能力，運動習慣等の向上に係る取組等に関する調査

3 本県調査参加校及び参加児童生徒数

- 小 学 校：477校 14,154人
- 中 学 校：212校 13,041人
- 計 689校 27,195人

※ 小学校，中学校にはそれぞれ義務教育学校，特別支援学校を含む。

1 実技に関する調査結果概要

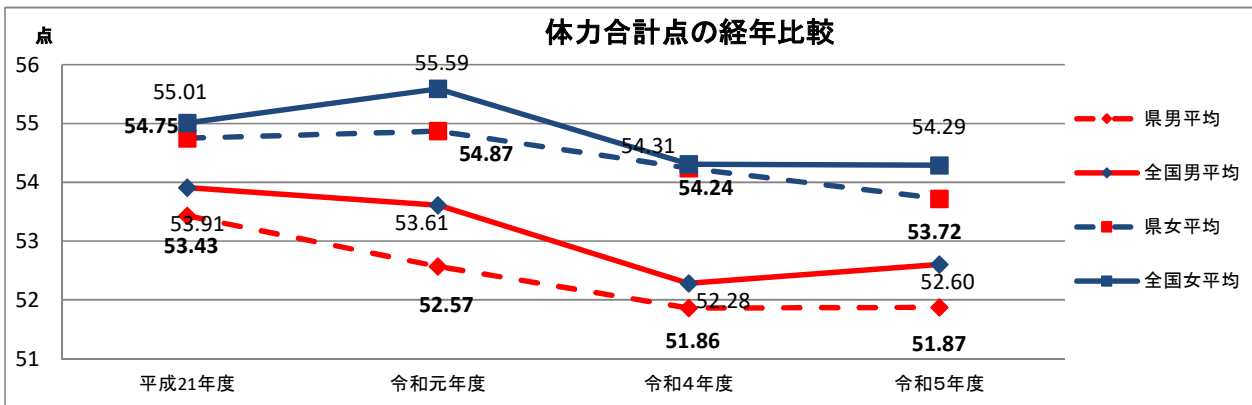
(1) 本県の体力合計点に関する調査の結果

ア【小学校】

小学校		平成21年度			令和元年度(コロナ前)			令和4年度			令和5年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
小学校	5年男子	53.43	53.91	-0.48	52.57	53.61	-1.04	51.86	52.28	-0.42	51.87	52.60	-0.73
	5年女子	54.75	55.01	-0.26	54.87	55.59	-0.72	54.24	54.31	-0.07	53.72	54.29	-0.57

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)

±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない



〈現状〉

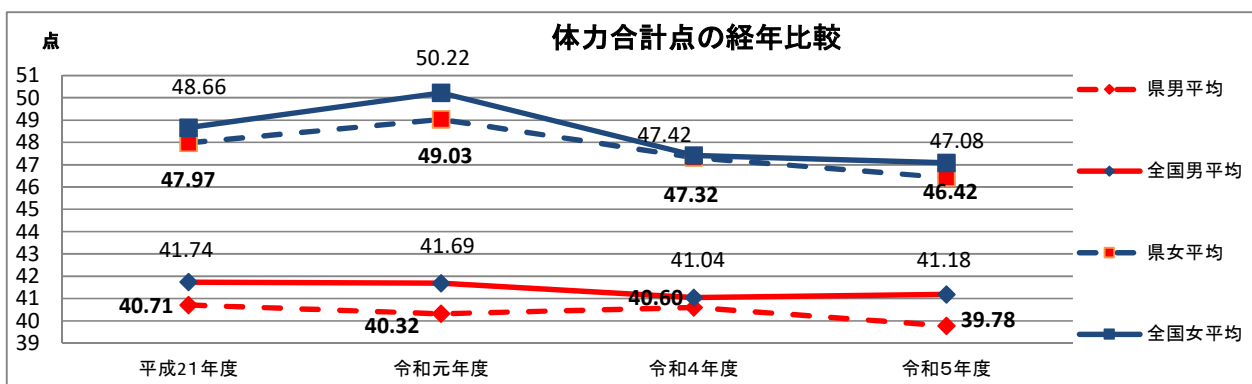
- 全国平均と比較すると、男子は「低い」、女子は「わずかに低い」結果となった。
- 令和4年度との比較において、県男子は、変化がなく、県女子は低くなった。全国男子は高くなり、全国的女子は変わらなかった。
- 本県は女子が、調査開始以降、最も低い数値となった。

イ【中学校】

中学校		平成21年度			令和元年度(コロナ前)			令和4年度			令和5年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
中学校	2年男子	40.71	41.74	-1.03	40.32	41.69	-1.37	40.60	41.04	-0.44	39.78	41.18	-1.40
	2年女子	47.97	48.66	-0.69	49.03	50.22	-1.19	47.32	47.42	-0.10	46.42	47.08	-0.66

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)

±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない



〈現状〉

- 全国平均と比較すると、男子は「低い」、女子は「わずかに低い」結果となった。
- 令和4年度との比較において、県男女とも低くなり、全国男子は、高くなり、全国女子は低くなった。
- 本県は男女ともに調査開始以降最も低い数値となった。
- 県平均と全国平均との差については、男女ともに令和4年度より広がっている。

(2) 体力合計点の度数分布

体力合計点の度数分布のグラフについて

※ 体力合計点の総合評価は、実技項目(8項目)の記録を、1点から10点に得点化し、その8項目の合計点をA、B、C、D、Eの段階に区分したものです。

○小学校 A:65以上 B:58~64 C:50~57 D:42~49 E:41以下

○中学校 A:57以上 B:47~56 C:37~46 D:27~36 E:26以下

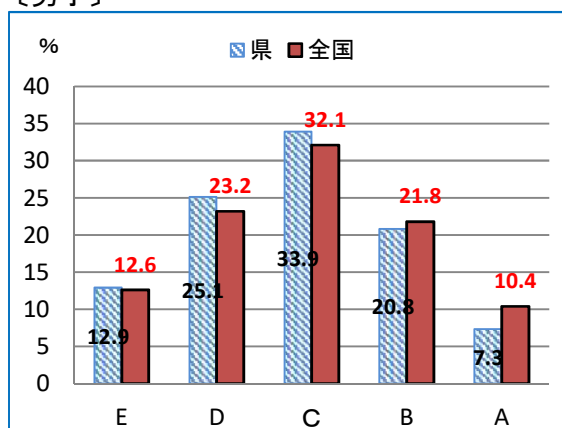
※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示しています。

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)

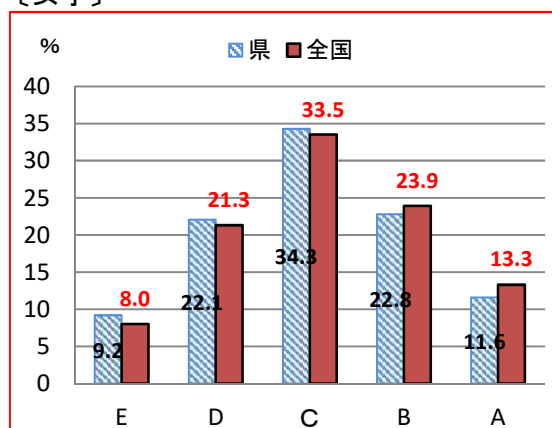
±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない

ア【小学校】

[男子]



[女子]



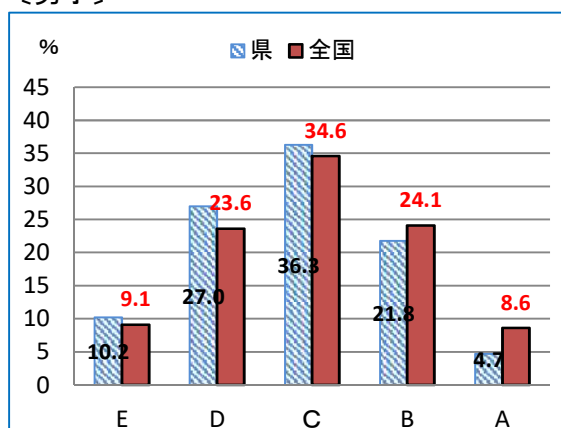
〈現状〉

○ 男子は、C、Dの割合が全国よりも高く、Aの割合が全国より低い。

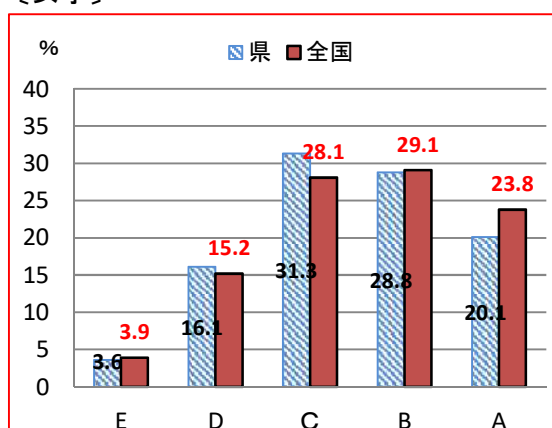
○ 女子は、Eの割合が高く、A、Bの割合が全国より低い。

イ【中学校】

[男子]



[女子]



〈現状〉

○ 男子は、C、D、Eの割合が全国よりも高く、A、Bの割合が全国より低い。

○ 女子は、C、Dの割合が全国よりも高く、A、Bの割合が全国より低い。

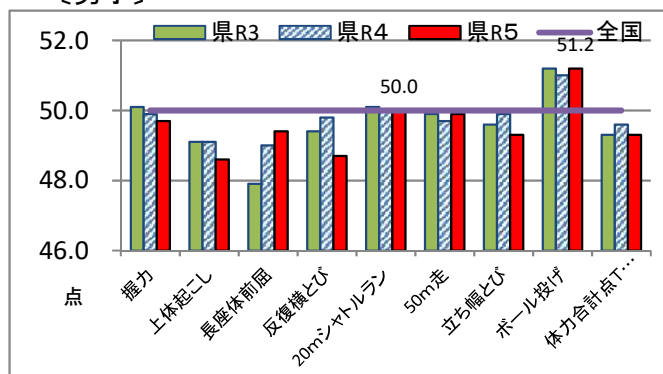
(3) 各実技調査項目のT得点結果について

各実技調査項目のグラフについて

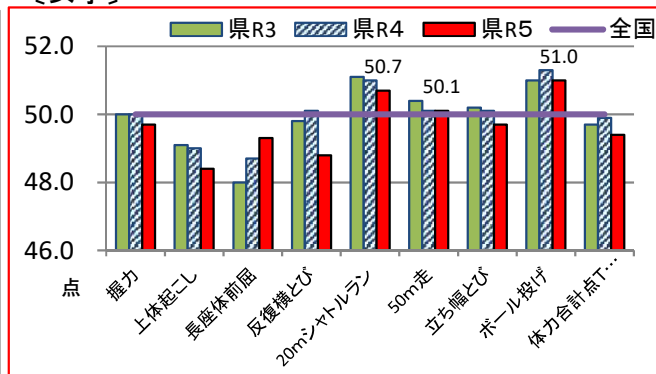
- ※ 実技調査項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(中学校は、持久走との選択)、50m走、立ち幅とび、ボール投げの8項目、及び体力合計点のT得点を示したものです。
- ※ T得点とは、全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較するものです。平均値50点、標準偏差10点の標準得点。「T得点=50+10×(調査結果-平均値)/標準偏差」で算出します。
- ※ グラフ上の50.0の目盛り線は、全国のT得点を表しています。

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

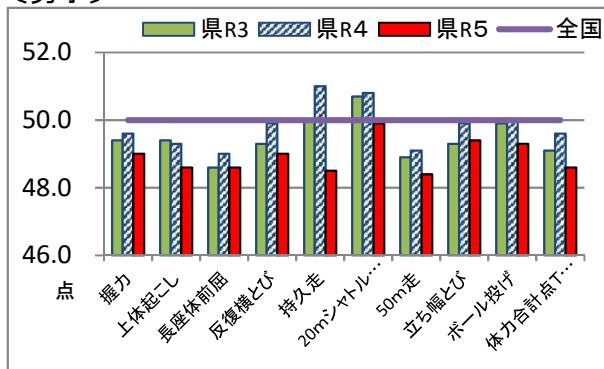


〈現状及び課題〉

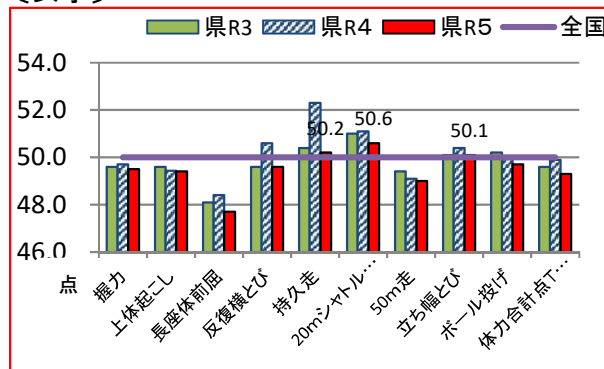
- T得点50以上の項目は、20mシャトルラン(男女)、ボール投げ(男女)、50m走(女子)である。
- 令和4年度より向上した項目数は、男子は3項目、女子は1項目である。
- T得点49以下の項目については、男子が2項目、女子が2項目である。上体起こしと反復横跳びに課題がある。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

- T得点50以上の項目は、持久走(女)、20mシャトルラン(女)、立ち幅跳び(女)である。
- 令和4年度より向上した項目数は、なかった。
- 長座体前屈のT得点は、男女ともに7年連続して49以下であり、柔軟性に課題がある。
- 男子のT得点の49以下が4項目ある。

2 運動習慣等に関する調査結果概要

運動時間(曜日別)グラフについて

※ 運動時間は、学校の体育の授業(保健体育)の授業以外で運動(体を動かす遊びを含む※注)やスポーツをした時間です。

※ 注(体を動かす遊びを含む)の文言は、平成26年度の質問から追加されたものです。

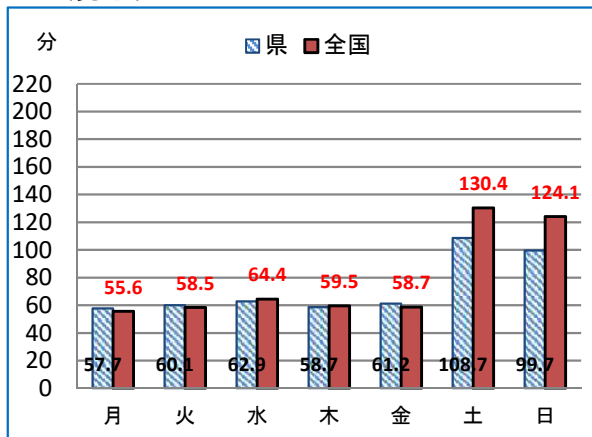
※ グラフの横軸は、曜日を示しています。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動時間(分)を示しています。

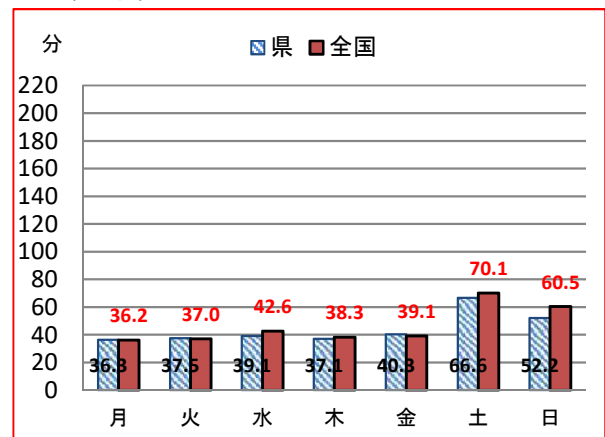
(1) 1週間の運動時間に関する調査結果

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

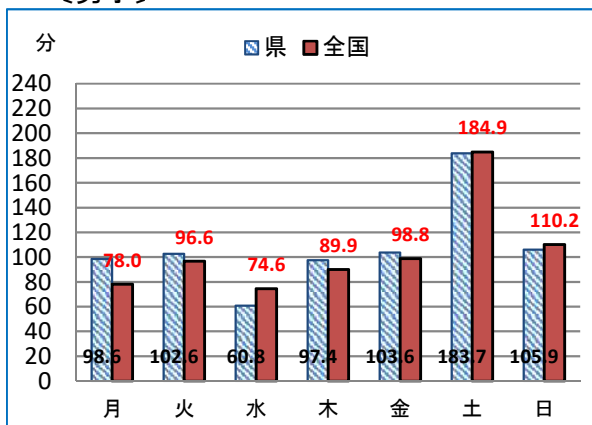


〈現状〉

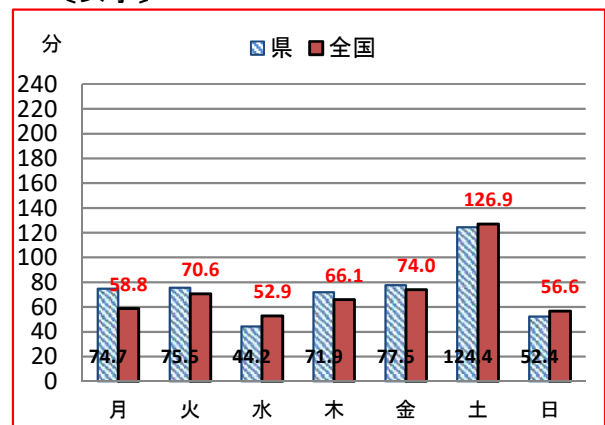
- 男女ともに平日は、全国よりも長いかわほとんど差が見られない。
- 土・日曜日は全国より短い。特に、男子の差が大きい。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕

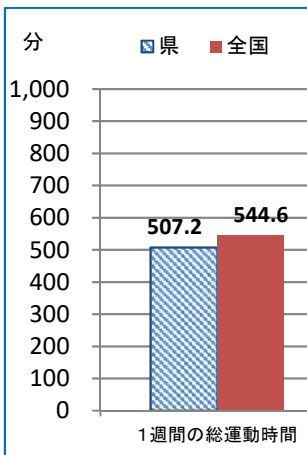


〈現状〉

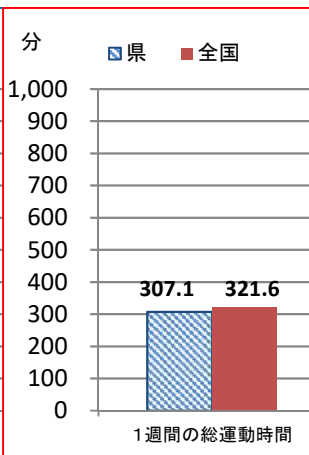
- 男女ともに平日の水曜日以外は、全国よりも長いかわほとんど差が見られない。
- 男女ともに水曜日については、全国より短い。
- 土・日曜日については、男女とも全国とほとんど差が見られない。

(2) 1週間の総運動時間に関する調査の結果

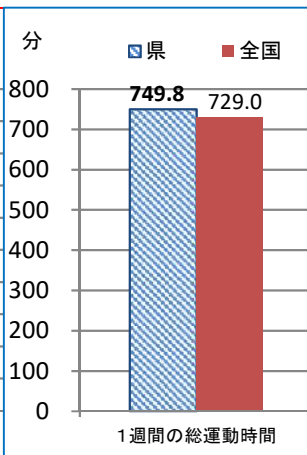
ア 【小学校】
〔男子〕



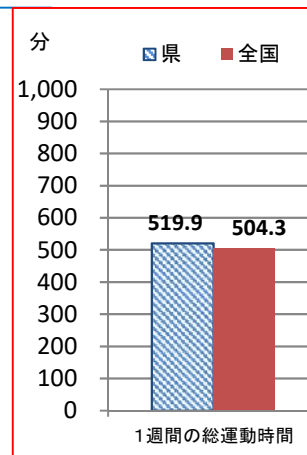
〔女子〕



イ 【中学校】
〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

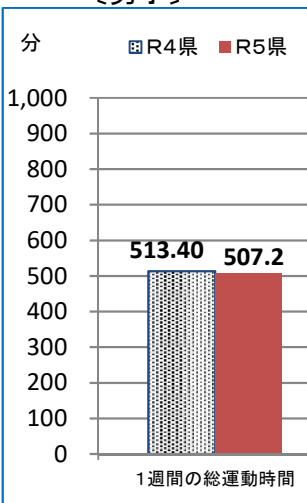
- 小学校男子は、全国より短く、小学校女子は全国とほとんど差がない。
- 中学校男子は、全国よりわずかに長く、中学校女子は全国とほとんど差がない。

※ 1週間の総運動時間(分)の考察コメント(スポーツ庁)

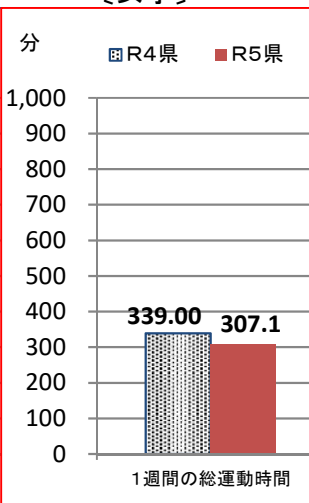
±35分以上:長(短)い ±21分~±35分未満:わずかに長(短)い ±21分未満:ほとんど差がない

(3) 1週間の総運動時間に関する調査の結果(令和4年度との比較)

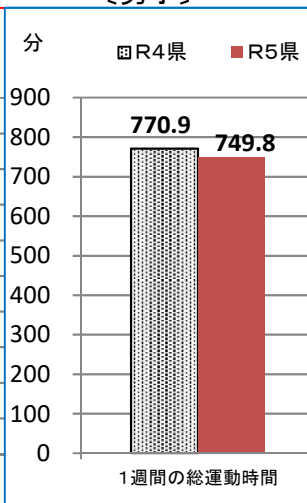
ア 【小学校】
〔男子〕



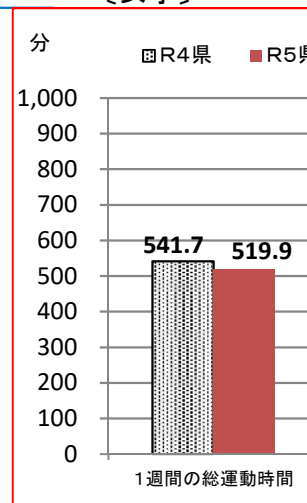
〔女子〕



イ 【中学校】
〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

- 令和4年度と比較すると、小学校男女ともに短くなっている。
- 令和4年度と比較すると、中学校男女ともに短くなっている。

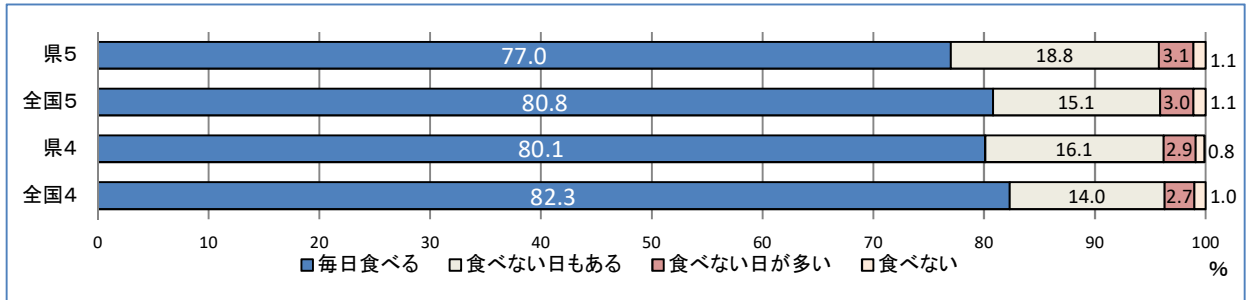
3 生活習慣等に関する調査結果概要

(1) 朝食の摂取状況(学校が休みの日も含める)に関する調査の結果

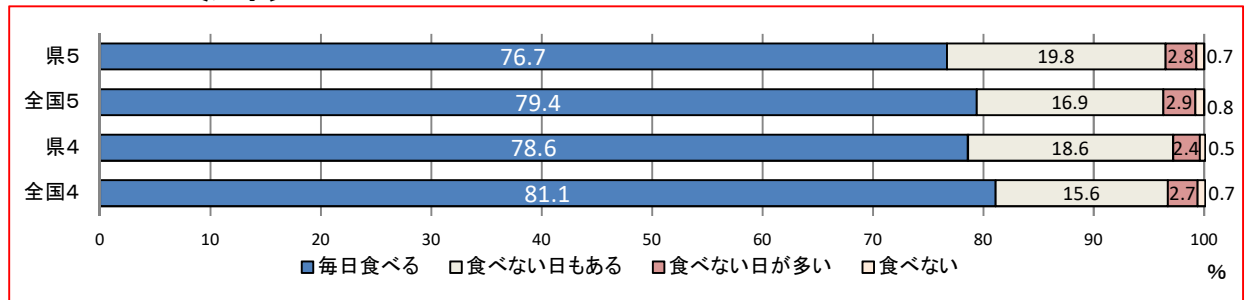
※ 質問紙調査考察コメントの基準(スポーツ庁)

±2%以上:高(低)い ±1%~±2%未満:わずかに高(低)い ±1%未満:ほとんど差がない

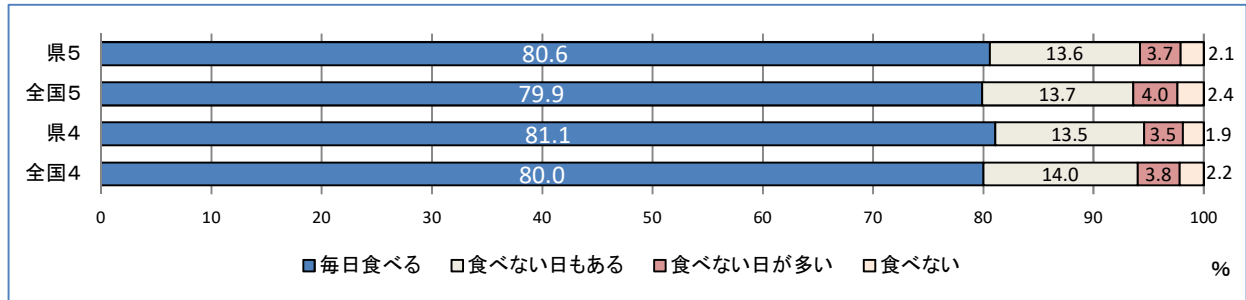
ア 【小学校】[男子]



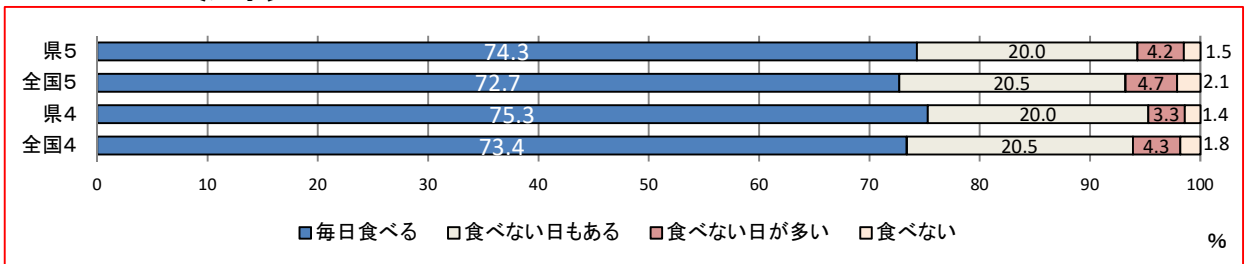
[女子]



イ 【中学校】[男子]



[女子]



〈現状〉

【小学校】

- 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女とも低い。
- 県の令和4年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合は、男子は低く、女子はほとんど差がない。

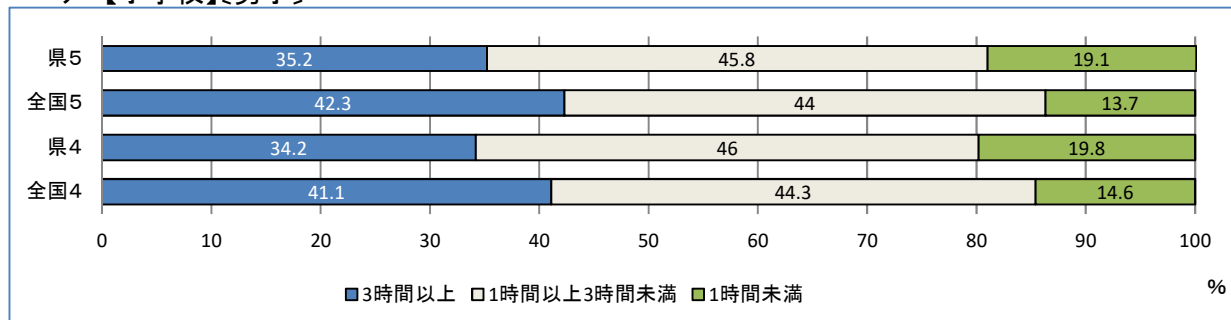
【中学校】

- 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、女子がわずかに高い。
- 県の令和4年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに低くなっている。

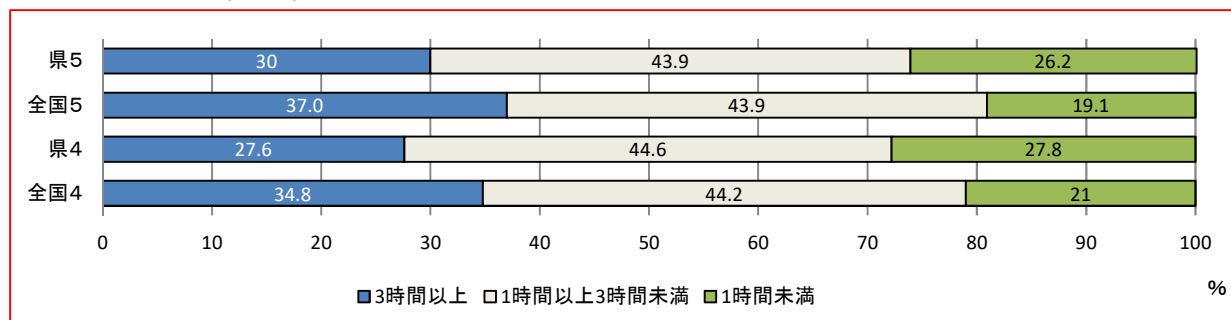
(2) 平日のスクリーンタイムに関する調査の結果

※ スクリーンタイム…平日1日あたりのテレビ, スマートフォン, ゲーム機等による映像の視聴時間

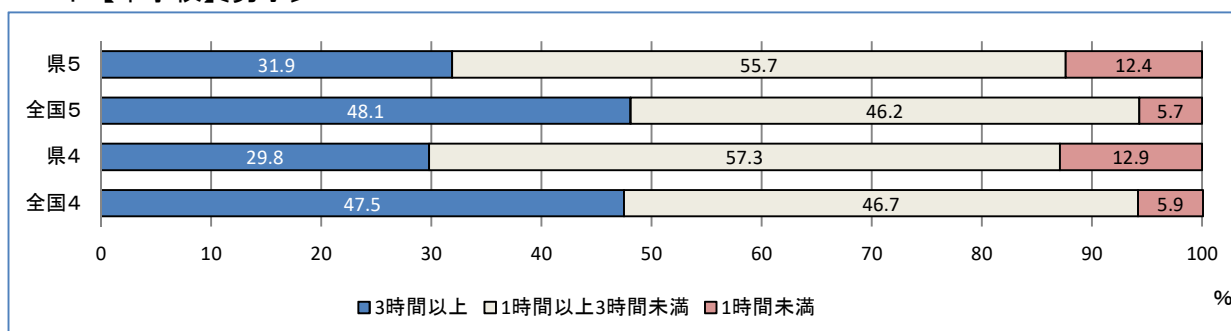
ア 【小学校】〔男子〕



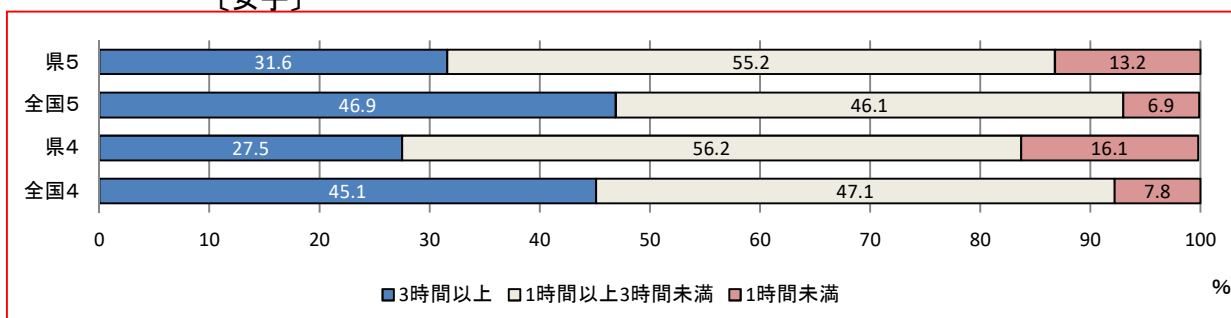
〔女子〕



イ 【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

- スクリーンタイムが「3時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると, 男女ともに低い。
- 県の令和4年度平均と比較すると, 「3時間以上」と回答した割合は, 男子はわずかに高く, 女子は高くなっている。

【中学校】

- スクリーンタイムが「3時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると, 男女ともに低い。
- 県の令和4年度平均と比較すると, 「3時間以上」と回答した割合は, 男女ともに高くなっている。

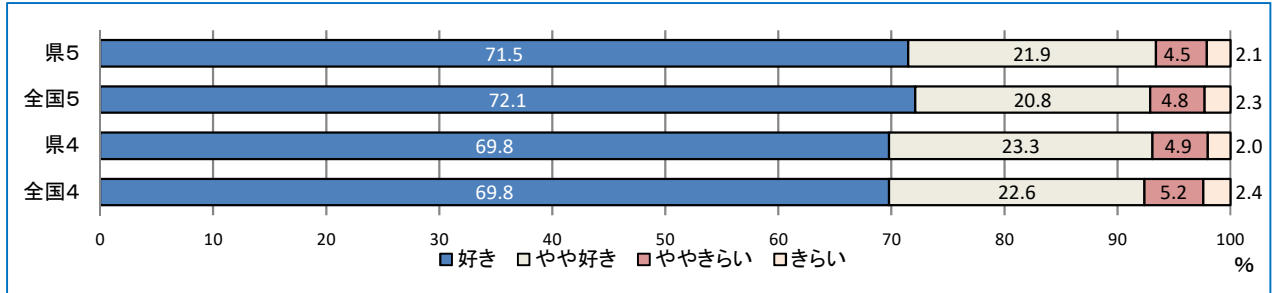
4 運動やスポーツ, 体育・保健体育の授業に関する調査結果概要

(1) 調査項目「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好き・きらい。」に関する調査の結果

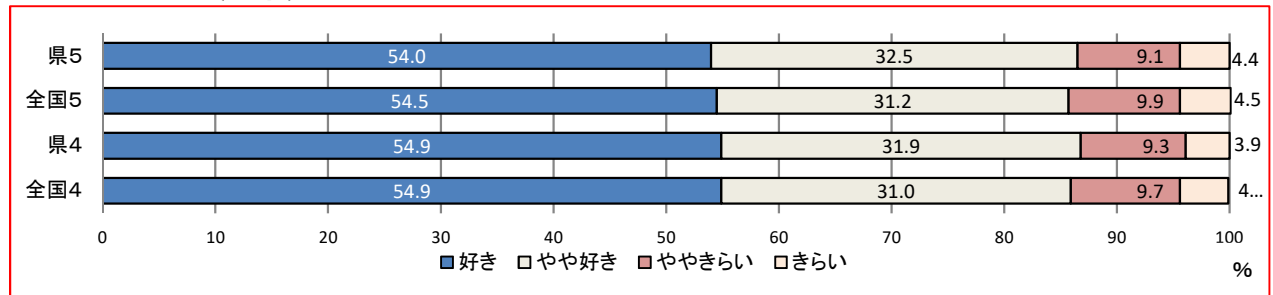
※ 質問紙調査考察コメントの基準(スポーツ庁)

±2%以上:高(低)い ±1%~±2%未満:わずかに高(低)い ±1%未満:ほとんど差がない

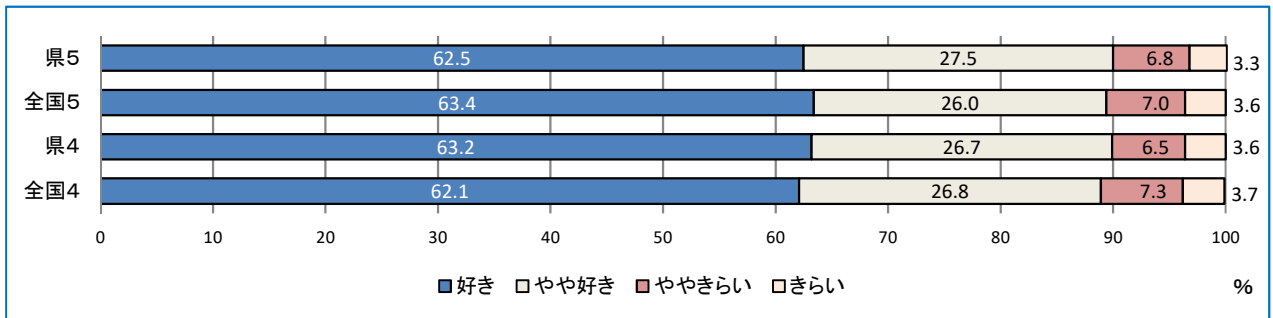
ア【小学校】〔男子〕



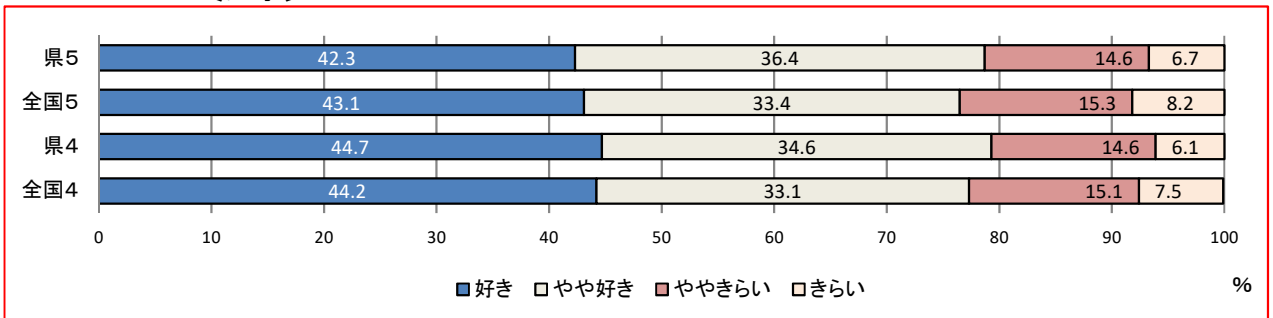
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕

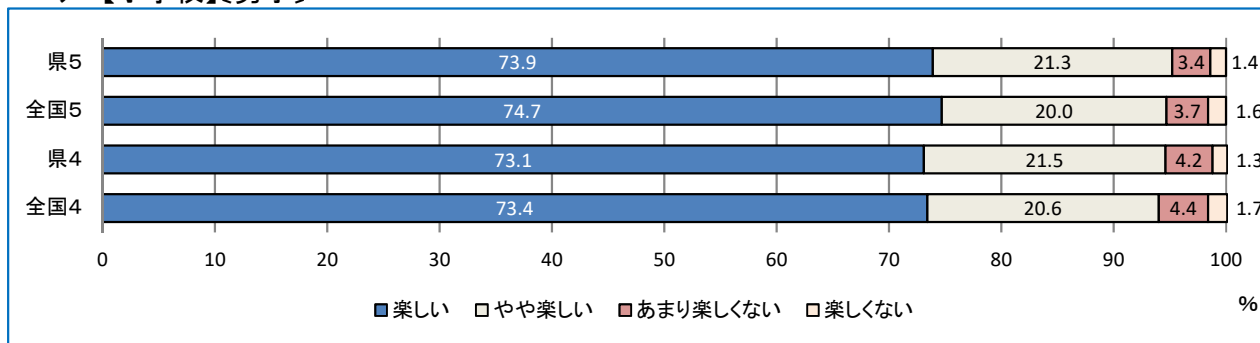


〈現状〉

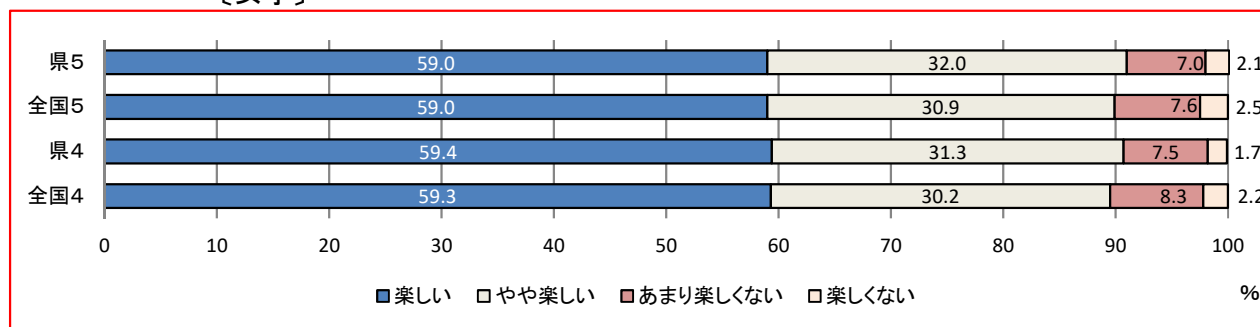
- 運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合を全国平均と比較すると、ほとんど差がない。
- 県の令和4年度平均と比較すると、運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合は、小学校男子は、わずかに高く、小学校女子、中学校男子はほとんど差がない。中学校女子は低くなっている。

(2) 調査項目「体育の授業は楽しいか。」に関する調査の結果

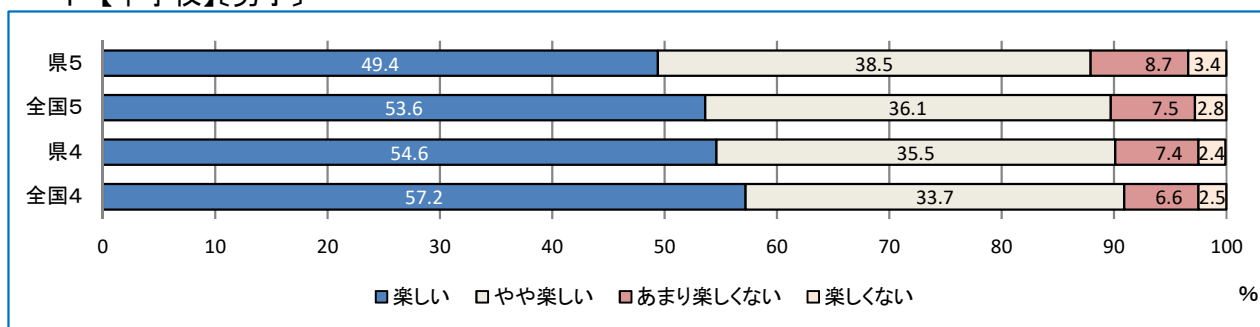
ア【小学校】〔男子〕



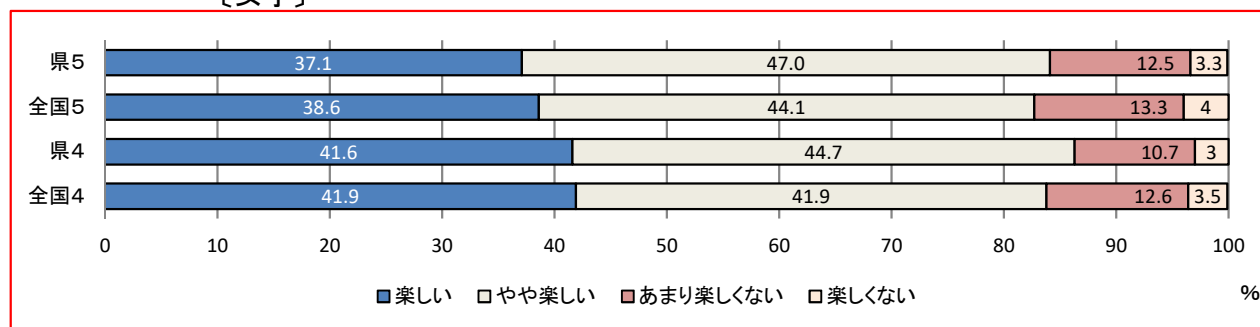
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

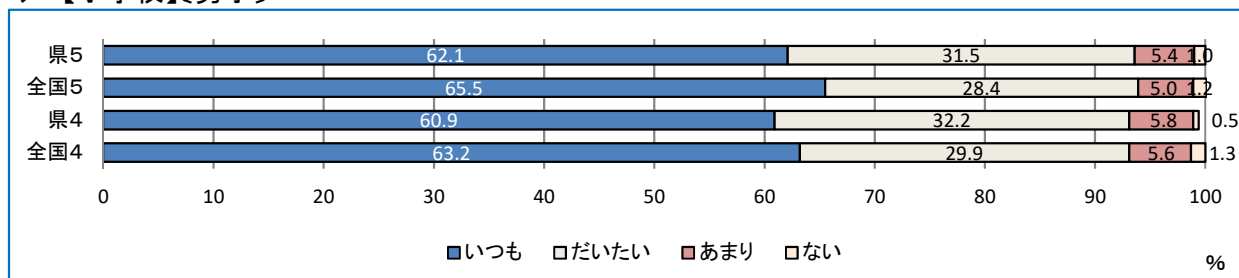
- 体育の授業が「楽しい」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともにほとんど差がない。
- 県の令和4年度平均と比較すると、体育の授業が「楽しい」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。

【中学校】

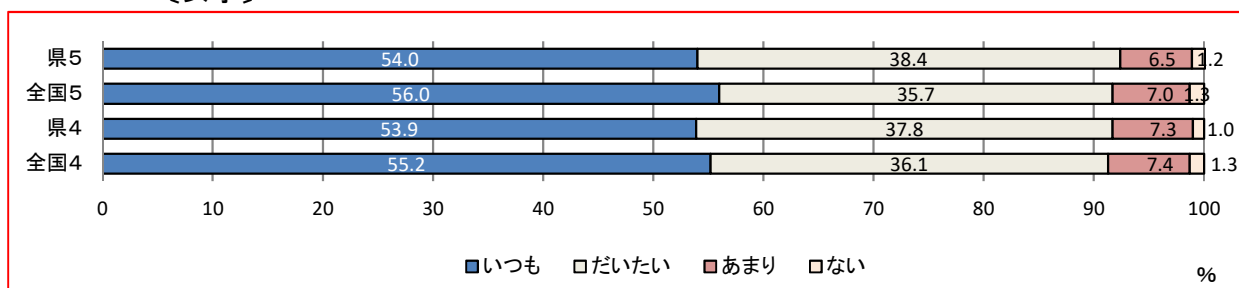
- 保健体育の授業が「楽しい」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子は低く、女子はわずかに低い。
- 県の令和4年度平均と比較すると、体育の授業が「楽しい」と回答した割合は、男女ともに低くなっている。

(3) 調査項目「体育の授業に進んで参加しているか。」に関する調査の結果

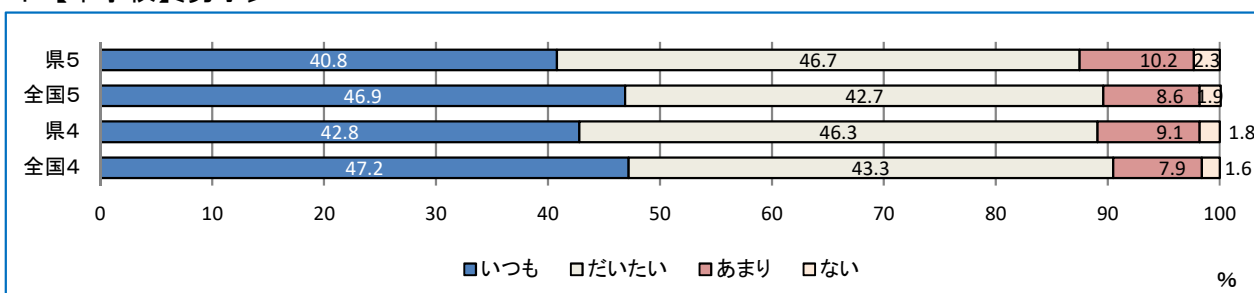
ア 【小学校】[男子]



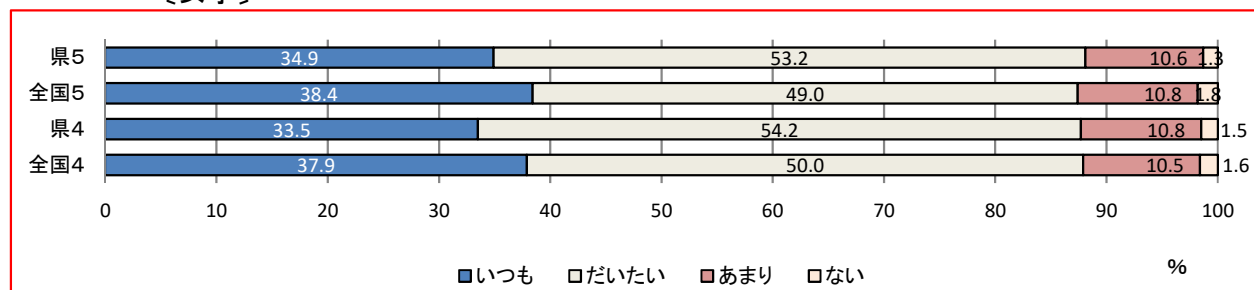
[女子]



イ 【中学校】[男子]



[女子]



〈現状〉

【小学校】

○ 全国平均と比較すると、体育の授業に「いつも進んで学習している」と回答した割合は男女ともに低い。「あまり進んで学習していない」「進んで学習することはない」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。

○ 令和4年度と比較すると、体育の授業に「いつも進んで学習している」と回答した割合は男子がわずかに高く、女子はほとんど差がない。

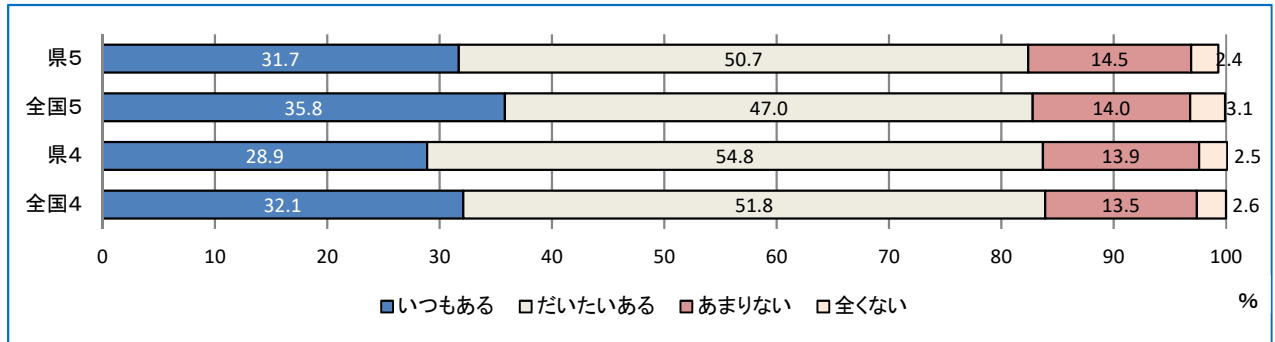
【中学校】

○ 全国平均と比較すると、体育の授業に「いつも進んで学習している」と回答した割合は男女ともに低い。「あまり進んで学習していない」「進んで学習することはない」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。

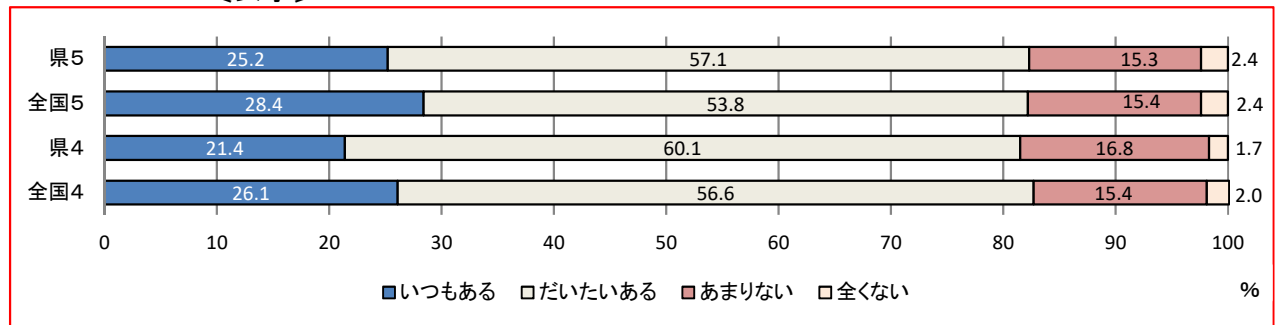
○ 令和4年度と比較すると、体育の授業に「いつも進んで学習している」と回答した割合は、男子は低く、女子はほとんど差がない。

(4) 調査項目「体育の授業で、目標(ねらい・めあて)を意識して学習することで、『できたり・わかったり』することがあるか。」に関する調査の結果

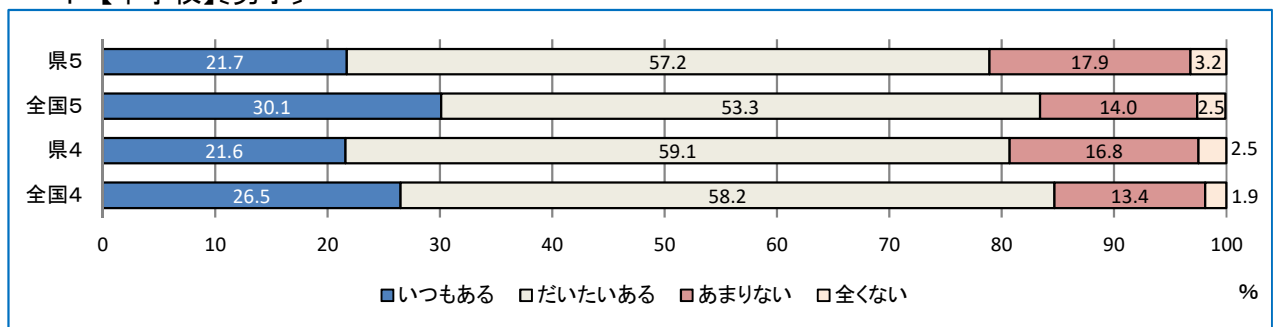
ア 【小学校】〔男子〕



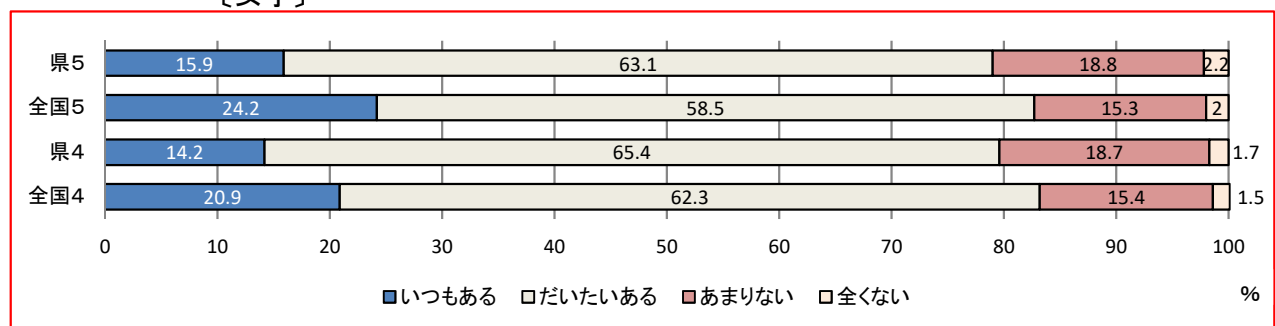
〔女子〕



イ 【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

○ 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男子はわずかに高く、女子はほとんど差がない。

○ 令和4年度と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに高くなった。

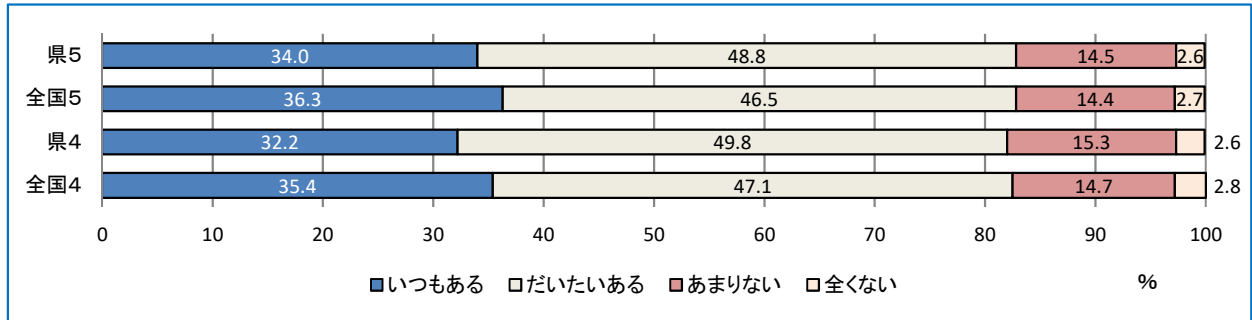
【中学校】

○ 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男女ともに高い。

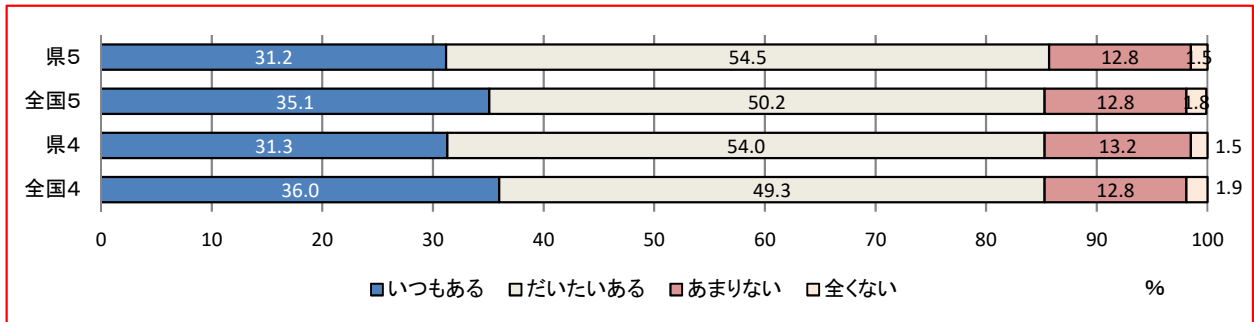
○ 令和4年度と比較すると、「いつもある」と回答した割合は、ほとんど変わらない。

(5) 体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり・わかったり」することがあるか。

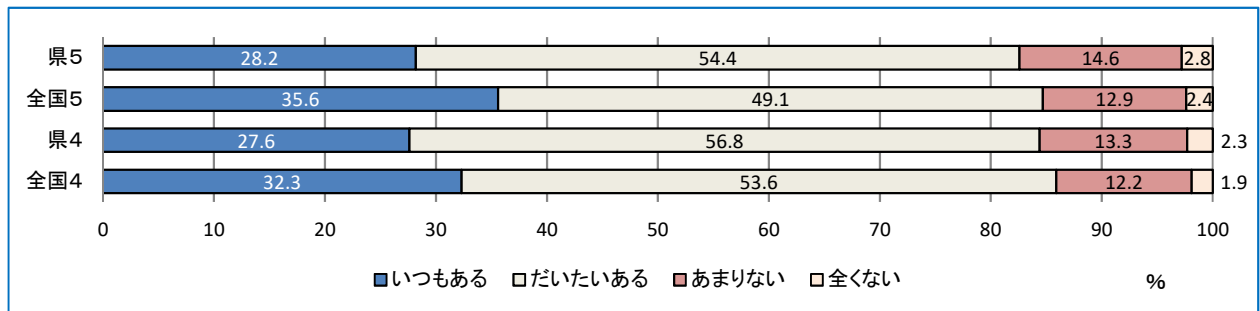
ア【小学校】〔男子〕



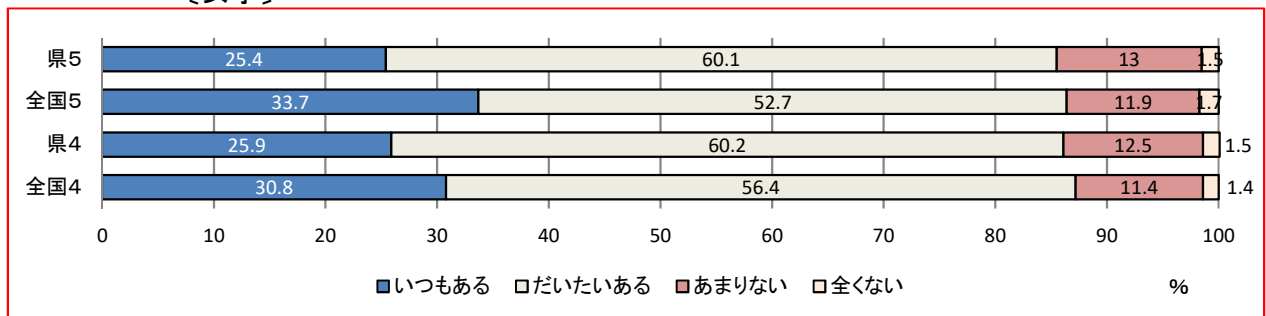
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

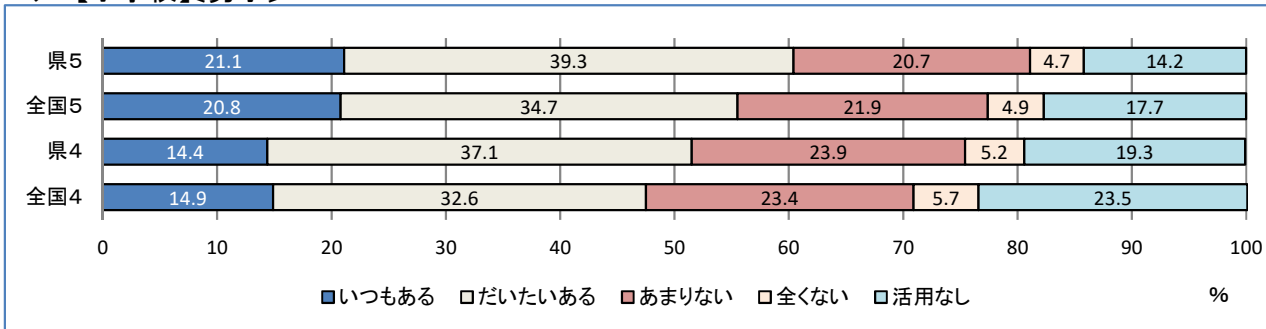
- 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。
- 令和4年度と比較すると、「いつもある」と回答した割合は、ほとんど差がない。

【中学校】

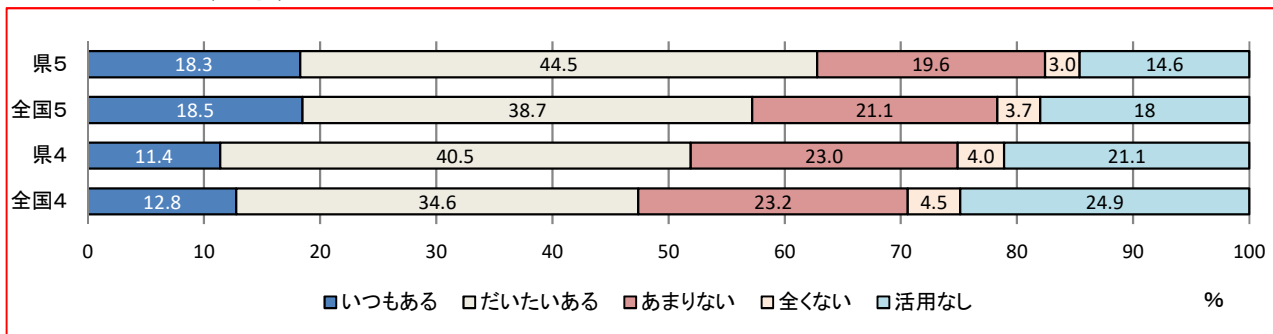
- 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。
- 令和4年度と比較すると、「いつもある」と回答した割合は、ほとんど差がない。

(6) 調査項目「体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、『できたり・わかったり』することがあるか。」に関する調査の結果

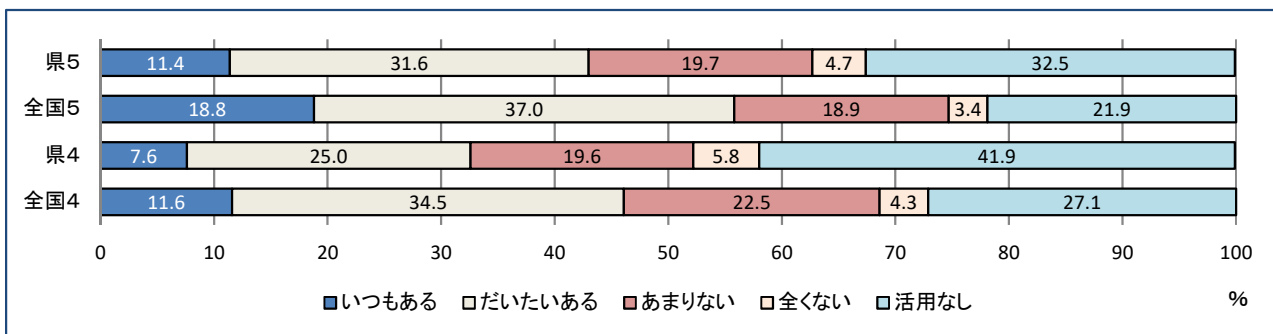
ア 【小学校】〔男子〕



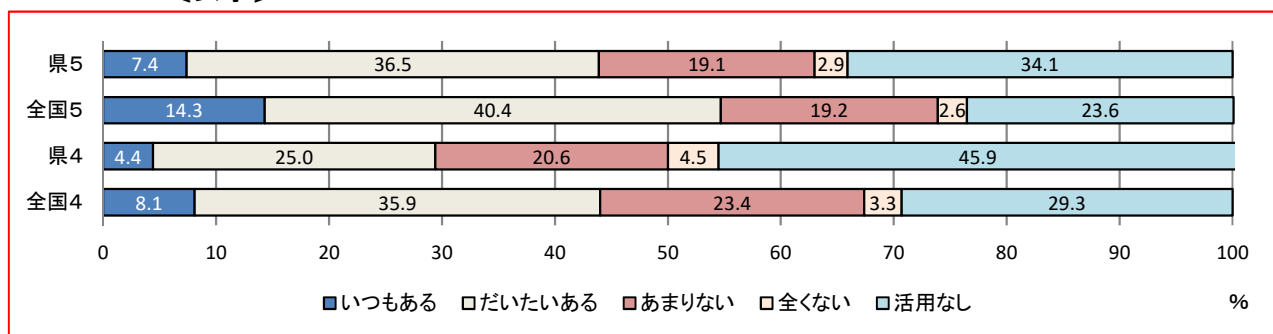
〔女子〕



イ 【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状〉

【小学校】

○ 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともにほとんど差がない。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男女ともにわずかに低い。「活用していない」と回答した割合は、男女ともに低い。

○ 令和4年度と比較すると、「いつもある」と回答した割合は、高い。

【中学校】

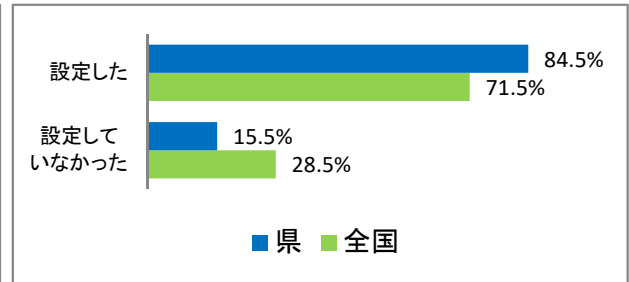
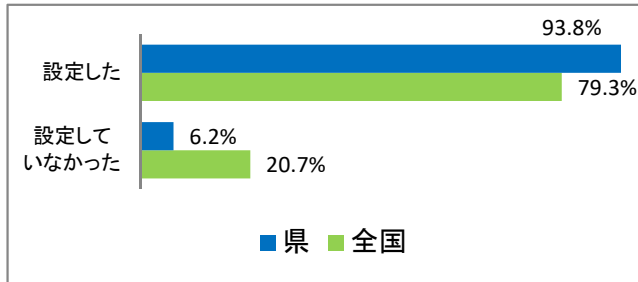
○ 全国平均と比較すると、「いつもある」と回答した割合は男女ともに低い。「あまりない」「全くない」と回答した割合は、男女ともにわずかに低い。「活用していない」と回答した割合は、男女ともに高い。

○ 令和4年度と比較すると、「いつもある」と回答した割合は高い。

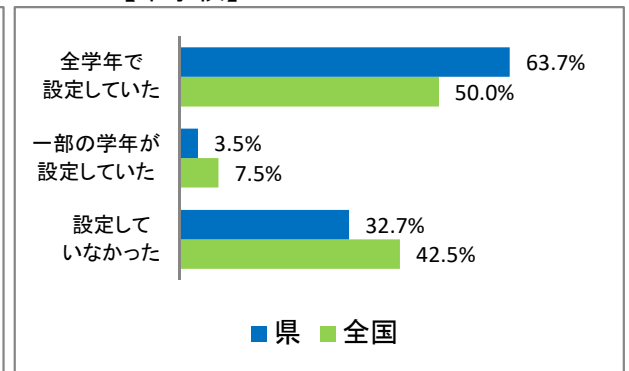
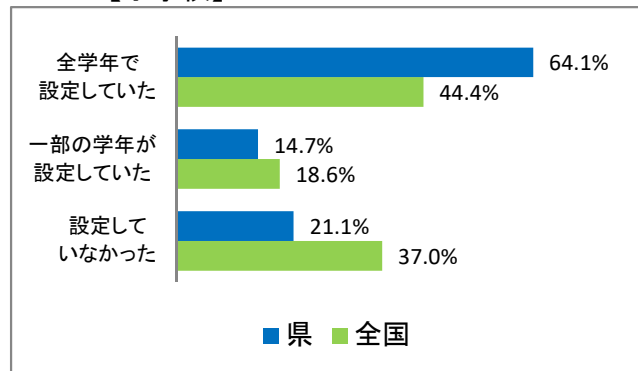
5 学校における体力向上のための取組に関する調査結果概要(学校質問紙)

※ 全国の数値は公立

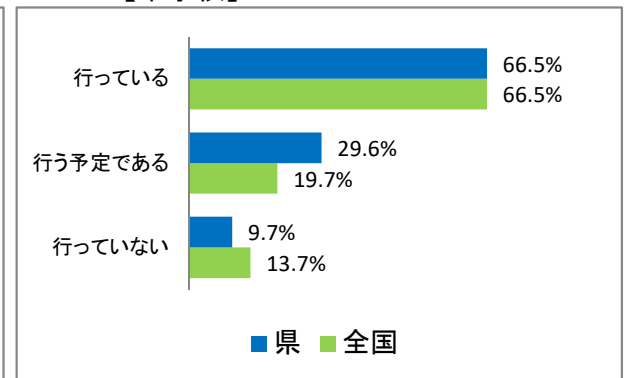
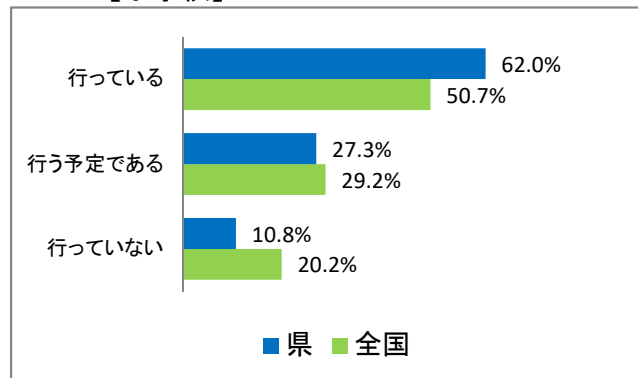
(1) 令和4年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学校全体としての目標設定



(2) 令和4年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学年としての目標設定



(3) 運動・スポーツが苦手(嫌い)な傾向にある児童生徒向け、能力差に応じた取組



〈現状及び考察〉

○ 令和4年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学校全体としての目標を「設定した」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。

○ 令和4年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学年としての目標を「全学年で設定した」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して小中学校ともに高い状況である。

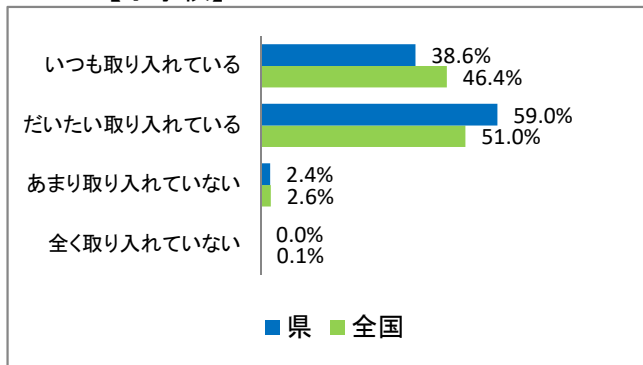
※ 学校全体の目標を基に、発達の段階に応じて学年の目標を設定するとともに、各学校の「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランを活用した、体力向上に向けた取組を推進する体制づくりを構築する必要がある。

○ 運動・スポーツが苦手な傾向にある児童生徒、能力差に応じた取組を「行っている」と回答した割合は、全国平均と比較して、小学校は高く、中学校はほとんど差がない状況である。

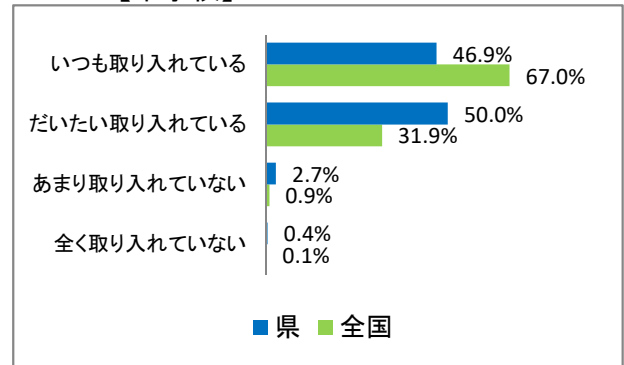
※ 小学校学習指導要領において、運動が苦手な児童・運動に意欲的でない児童への配慮の例が示され、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方や関わり方を共有するなど内容の改善が図られている。これを受けて中学校においても、小中の系統性を意識した指導を工夫する必要がある。

(4) 体育・保健体育授業での目標(めあて・ねらい等)の提示

【小学校】

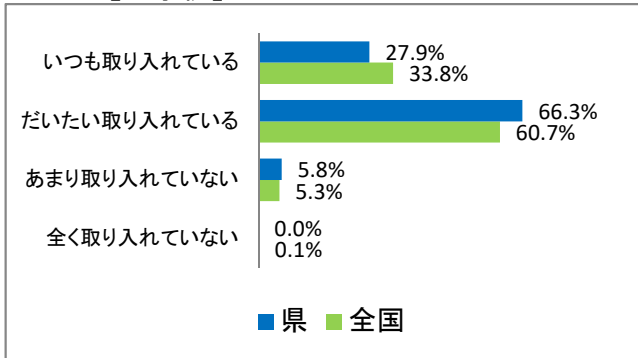


【中学校】

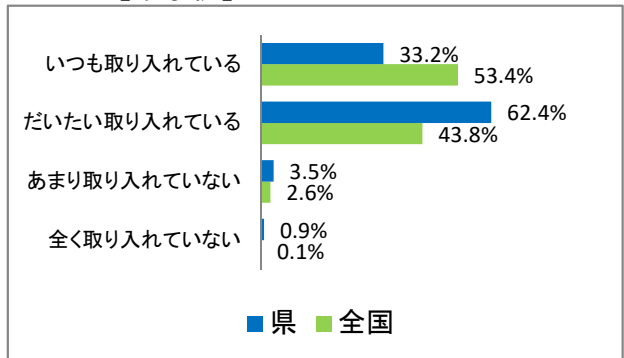


(5) 体育・保健体育授業での振り返りの活動の設定

【小学校】



【中学校】



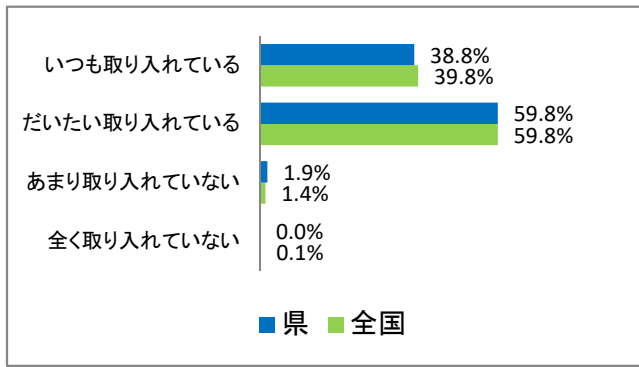
〈現状及び考察〉

○ 体育・保健体育の授業において、小中学校ともに目標(めあて、ねらい等)の提示や振り返りの活動を「いつも取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して低く、「だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して高い状況である。

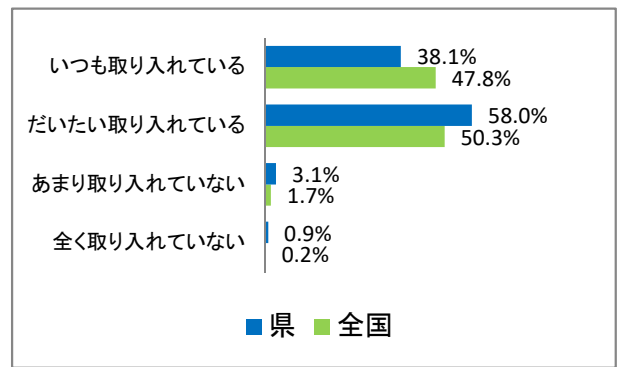
※ 特に、中学校は、「いつも取り入れている」と回答した割合が、全国平均よりも非常に低い状況が続いていることから、授業にめあて(個・グループ等)の設定とまとめによる振り返りを行う時間を確実に位置付け、児童生徒の積極的・自主的な活動を推進するとともに、自己の伸びや新たな課題を確認して次時の学習につなげるなど、深い学びに向けた、体育・保健体育の授業を実践していく必要がある。

(6) 体育・保健体育授業で、児童生徒が助け合ったり役割を果たしたりする活動の設定

【小学校】

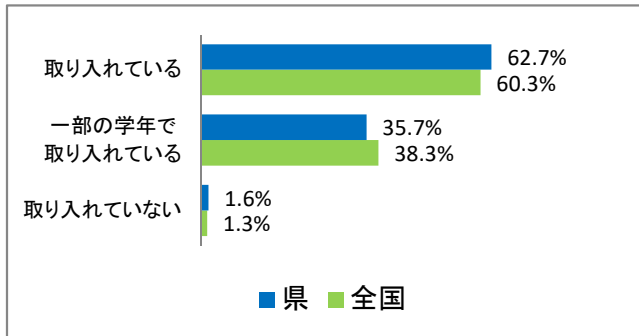


【中学校】

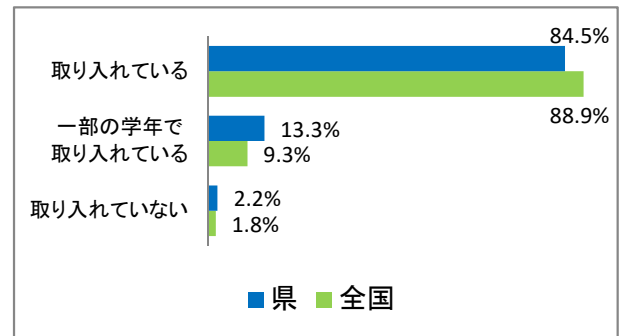


(7) 体育・保健体育授業で、児童生徒が話し合う活動の設定

【小学校】

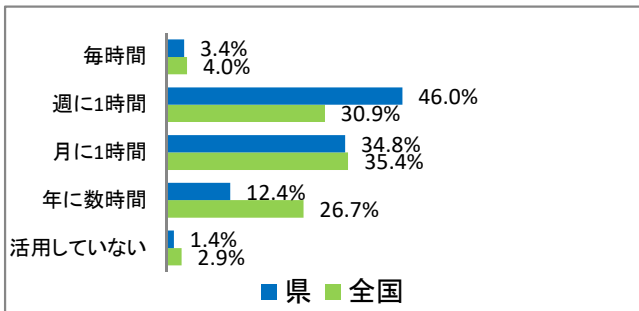


【中学校】

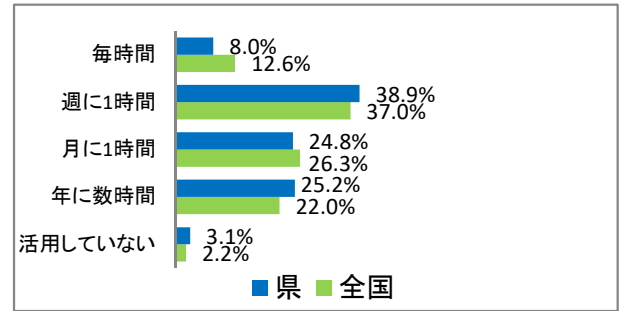


(8) 体育・保健体育授業でのICTの活用

【小学校】



【中学校】



〈現状及び考察〉

○ 体育・保健体育の授業において、小中学校ともに児童生徒が助け合ったり役割を果たしたりする活動を「いつも取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して低く、「だいたい取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して高い状況である。

○ 授業で児童生徒が話し合う活動を「取り入れている」と回答した割合は、全国平均と比較して小学校は高く、中学校は低い状況である。

※ 小学校は全国平均を上回っているが、依然として一部の学年でのみ取り入れている状況が多く見られる。そのため、話し合いの目的を明確にした授業づくりや発達の段階に応じた話し合いの仕方の指導を行い、児童が主体的・対話的で深い学びを通して、身に付けるべき内容を習得し、課題解決を図る工夫を推進していく必要がある。

○ 授業において、ICTを「毎時間活用している」「週に1時間」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して、小学校、中学校ともに高い状況である。

※ 教科指導におけるICTの活用の必要性については、学習指導要領においても総則や解説(体育編)にも記載されている。ICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図り、児童生徒の学習内容の習得へつなげていく授業改善が求められる。その際、ICTを活用する目的や効果的な活用場面等について、整理した上で実践していくことが重要である。

【活用例】・動画視聴による個人課題の把握(繰り返し・スロー再生)

・撮影した動画を活用し、伝え合う(仲間や模範との比較) ・これまでの蓄積データ(目標達成状況の確認)

6 全体考察

《今後の方向性》

学習指導要領の趣旨を踏まえ、小学校、中学校、高等学校を通じて、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現・継続する資質・能力を育成することを重視する観点から、児童生徒に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成する取組を具体的に進める。

体力向上に関しては、その核となるのは、体育・保健体育の授業の充実である。そのために、次のポイントに留意する必要がある。

- 柔軟性(小中)、筋力(小中)、スピード(小中)を高める運動を取り入れた準備運動、補助運動
- 3つの資質・能力の育成と指導内容の明確化
- 授業改善(「カリキュラム・マネジメント」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現)
- 「個に応じた指導」の一層の充実
- 運動の特性に応じた楽しさを味わうことができる場面の保証

また、本県の子どもは、運動への興味・関心や体育・保健体育の授業に対する意識が高いことから、学校において、教師が児童生徒の実態を真剣に受け止め、運動好きな子どもを育てるために、具体的には、次のような授業を目指して、改善を進めていきたい。

＜運動好きな子どもを育てる授業を目指して(一単位時間の具体例)＞

- 1 本時のめあて(全体・個人)を確認させる。
- 2 問題解決的な学習を展開する。
- 3 学習過程(流れ)を明確にし、活動の見通しをもたせる。
- 4 個人(チーム)の課題を解決する場や仲間と教え合ったり、話し合ったりする場を意図的に設定する。
- 5 教具(ICT機器含む)の活用や発問の工夫を行い、「分かった」「できた」などの経験をさせ、運動することや学ぶことの楽しさ、喜びを味わわせる。
- 6 本時のめあてに対する振り返りをする。
- 7 振り返りを通して、自分(チーム)の技能や思考・判断面で伸びを実感させ、達成感につなげる。

このような授業を通して、全ての子どもが、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導の在り方について改善を図るとともに、自己の適性に応じて「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けることで「運動好きな子ども」を育てることを目指す。

また、体育・健康に関する指導については、子どもの発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した指導の充実を図る。

さらに、子どもの体力向上に関して、家庭への啓発を行い、理解と協力を求めたり、関係機関と連携し、外部指導者を活用したりするなど、学校・家庭・地域が連携し、一体となった取組を推進する。

子どもが運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わうことができる授業を目指しましょう！



《今後の方向性》

◆ 学校の組織的な取組の推進を支援

- 各学校における「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの作成、活用
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析と活用促進
- 体力ナビの積極的活用と児童生徒一人一人への体力カードの作成
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小中高)による実践的取組の紹介
- 「新体力テストで児童生徒のもっている力を引き出す指導のポイント(改訂版)」の活用促進
- 小・中・高等学校版「体力アップ！チャレンジかごしま」の継続実施(工夫・改善)
- 体力づくり「一校一運動」の推進

◆ 運動大好き“かごしまっ子”育成に向けた運動の楽しさを追求した授業、体育指導の工夫改善の支援

- 小・中・義務教育学校体育主任等研修会
- 「運動好きな子どもを育てる」指導者研修会の実施(隔年)
- 小学校教諭等体育セミナーの開催(隔年)
- 保健・保健体育担当者研修会
- 武道・ダンス指導者研修会
- 中学校柔道授業における安全に関する指導者研修会
- 新任幼稚園教諭への「幼児期運動指針」についての研修
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小学校4校, 中学校3校, 高等学校1校)による実践的研究及び第3期推進校(小学校2校, 中学校2校)による研究公開
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(小学校4校, 中学校3校, 高等学校1校)への地域スポーツ人材の派遣
- かごしまの子ども体力向上プログラム(小学校版, 中・高等学校版)の活用促進

◆ 運動習慣の育成に向け、学校・家庭・地域が一体となった取組の促進

- 体力の向上, 運動習慣の育成に向けた啓発資料の活用促進
(これならできる!「プラス5分運動」)
- 地域スポーツ人材を活用した運動習慣育成教室の実施
- 運動大好き“かごしまっ子”育成推進校(第3期)研究公開による普及啓発
- 「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進フォーラムの開催(隔年)
- 関係機関(県総合体育センター, 県教育庁社会教育課等)と連携したイベント

更なる充実に向けて

体力向上のための推進期間を設定しましょう(月間・週間・曜日等)。

＜期間設定の例＞

- 1 名称 「運動大好き“〇〇〇っ子”」推進(月間・週間), チャレンジウイーク 等
- 2 期間 ・学期〇回 ・月〇回 ・週〇回 等
- 3 設定の仕方
 - (1) 学校行事と関連付けて, その前後に設定する。(月間)
 - (2) 業間と関連付けて, 年間を通して設定する。(曜日)
 - (3) 学校・家庭・地域と連携して設定する。(週間)
- 4 留意事項
 - (1) 体力向上に向けて学校全体で取り組む。
 - (2) 内容は, 一校一運動や体力・運動能力, 運動習慣等調査結果等を考慮する。
 - (3) 「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」に内容や期間等を記入する。

7 改善のポイント

県教育振興基本計画における数値目標(体力合計点)

		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年以降	
小5男子	県	51.57	感新 染型 症コ ロナ ウイ ルス の影 響に よ り 中 止	51.85	51.86	51.87	⇒	全 国 平 均 を 上 回 る
	全国	52.61		52.52	52.28	52.59		
小5女子	県	53.87		54.34	54.24	53.72	⇒	
	全国	54.59		54.64	54.31	54.28		
中2男子	県	39.32		40.27	40.60	39.78	⇒	
	全国	40.69		41.18	41.04	41.32		
中2女子	県	48.03		48.13	47.32	46.42	⇒	
	全国	49.22		48.56	47.42	47.22		

運動大好き“かごしまっ子”育成に向けた学校における
体力向上, 運動習慣改善のPDCAサイクル

Plan

- 1 児童生徒の体力・運動能力向上, 運動習慣, 授業改善に向けた目標の設定
- 2 体力づくり全体計画や「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの作成
- 3 学校の実態や体力課題に即した「一校一運動」の推進計画
- 4 児童生徒や家庭の実態に即した「一家庭一運動」の周知・啓発と実施

【課題1】 体力合計点が全国平均に達していない
【課題2】 1週間の総運動時間が5回連続で減少している。

Action

- 1 体力づくり全体計画や「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの改善
- 2 体力向上, 運動習慣改善に効果をあげた取組と今後の対策検討
- 3 家庭への児童生徒の体力, 運動習慣の結果報告による説明責任

Check

- 1 新体力テスト, 体力・運動能力調査等の結果と考察
- 2 「運動大好き“かごしまっ子”」育成推進プランの活用
- 3 体力向上, 運動習慣改善に効果をあげた取組と今後の対策についての検討

Do

- ◎ 体力づくり全体計画に基づくPDCAサイクルの確実な推進
- (1) 「楽しい体育・保健体育」の授業充実
 - すべての児童生徒が楽しく, 安心して運動に取り組むことができる授業
 - 授業における目標の提示・確実なまとめの実施
 - 「主体的・対話的で深い学び」による授業の展開
 - 職員研修や研究授業による指導力の向上
 - (2) 新体力テストの実施
 - 実施目的, 測定方法等の共通理解
 - 児童生徒に目標をもたせる事前指導の充実
 - 「体力ナビ」活用による意欲喚起
 - (3) 「一校一運動」, 業間体育等の工夫による運動機会の確保
 - (4) 運動に消極的な児童生徒を支援する運動習慣育成教室の推進
 - (5) 「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組
 - (6) 部活動の充実
 - (7) 家庭と協力した運動・生活習慣の改善
 - 土日の運動時間の確保
 - (8) 家庭への体力向上に関する啓発

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

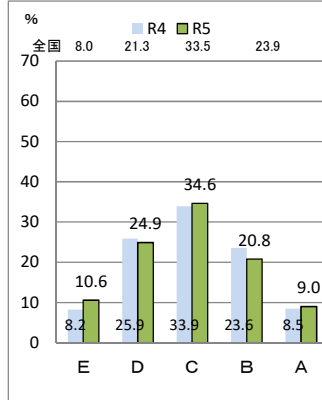
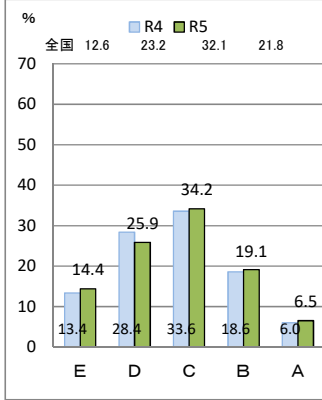
鹿児島市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

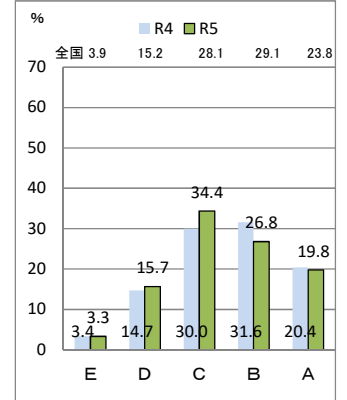
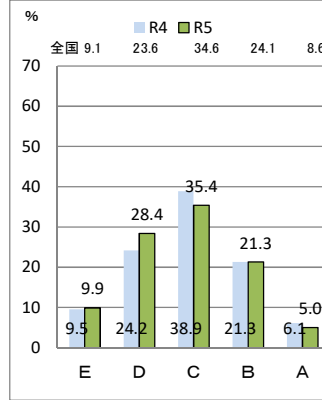
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較して、男女ともにA+Bの割合が低く、D+Eの割合がやや高くなっており、D・Eの下位層の底上げが課題である。
- ・R4年度と比較すると、男子はA+B、D+Eの割合がともに同じであった。女子は、D+Eの割合は差がないが、A+Bの割合が減少しており、下降傾向にある。
- ・男女とも、運動やスポーツを行うことは、楽しさや喜びを味わうことに加え、体力の向上へとつながることを実感させる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較して、男女ともにA+Bの割合が低く、男子のD+Eの割合が高く、女子のD+Eの割合はほぼ同じである。
- ・R4年度と比較すると、男子はA+Bの割合がほぼ同じで、D+Eの割合が高く、女子はA+Bの割合が減少し、D+Eの割合がほぼ同じであり、下降傾向にある。
- ・男女とも、運動やスポーツを行うことは、楽しさや喜びを味わうことに加え、体力の向上へとつながることを実感させる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

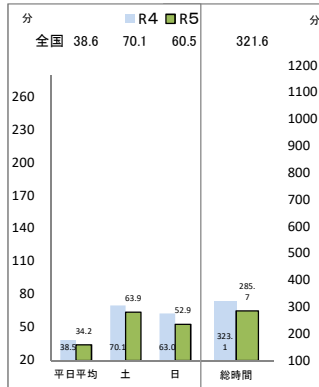
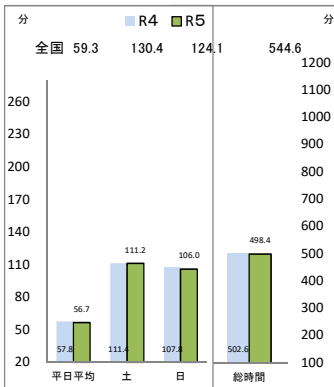
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

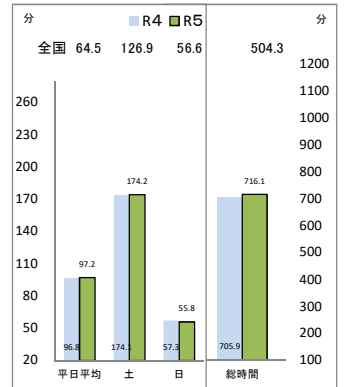
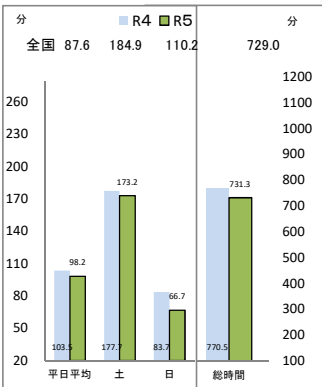
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男女ともに短い。
- ・平日及び土日については、全国平均との比較では、平日は男子が差がなく、女子がわずかに短い。土日は男女ともに運動時間が短い。
- ・R4年度との比較では、1週間の総運動時間が男子はほとんど差がないが、女子は短い。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男女ともに長い。
- ・平日及び土日については、全国平均との比較において、男女ともに平日は長く、土日は男子は長く、女子はわずかに長い。
- ・R4年度との比較では、1週間の総運動時間が男子は短くなっており、女子はほとんど差がない。

【改善策】

【小学校】

- ・全国平均と比較して、男女ともに総運動時間が短く、男女とも体力総合評価の上位層が少なく、下位層が多いため、「一校一運動」や「チャレンジかごしま」等での運動する機会を増やし、運動量の増加を図る。

【中学校】

- ・全国平均と比較して、男女ともに総運動時間は長いですが、体力総合評価が男女ともに上位層が少ないため、学校の教育活動の中で「チャレンジかごしま」への取組を推奨し、楽しみながら運動量を確保できる運動機会の増加を図る。

【共通】

- ・研究授業等を通じた授業改善や小中連携により、「運動好きな子供」の育成を図り、結果として運動の習慣化、体力の向上を図る。

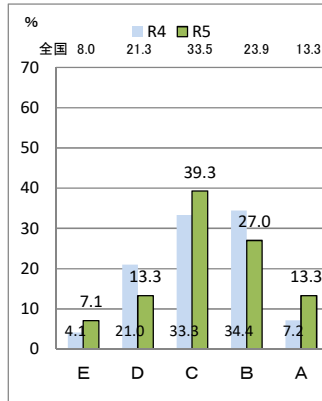
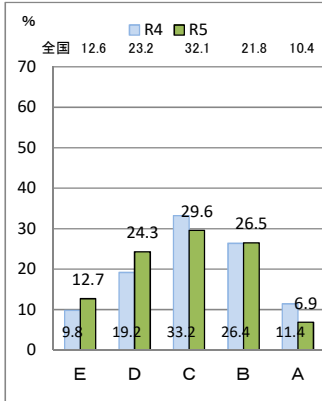
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

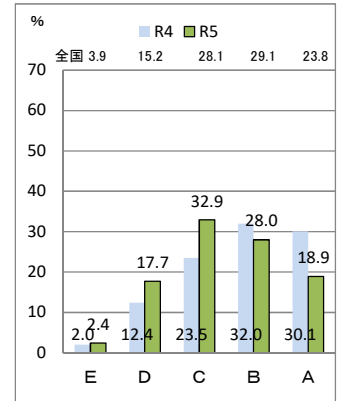
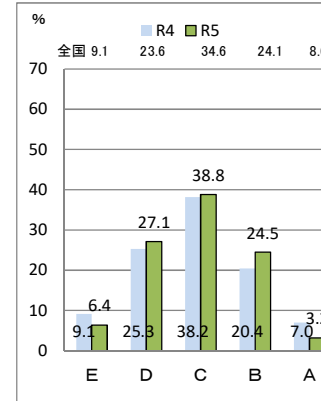
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はAの割合が4.5ポイント、Cの割合が3.6ポイント減少している。全国平均と比較しても、全体的に体力が低い傾向が見られる。
- ・ 女子はAの割合が6.1ポイント、Cの割合が6ポイント増加したが、Bの割合が7.4ポイント減少している。全国平均と比較すると、全体的に体力は高い傾向が見られる。
- ・ 男子は、E、Dの児童の体力及び運動への興味関心を高めるとともに、CをB、BをAへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はBの割合が4.1ポイント増加し、Aの割合が3.8ポイント減少している。全国平均と比較するとAは低いが、他は同程度の傾向が見られる。
- ・ 女子はCの割合が9.4ポイントと大幅に増加したが、Aの割合が11.2ポイント、Bの割合が4ポイント低下した。全国平均と比較すると、Aは低いが、他は同程度の傾向が見られる。
- ・ 女子は、Cの生徒をB、Bの生徒をAへと引き上げるための取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

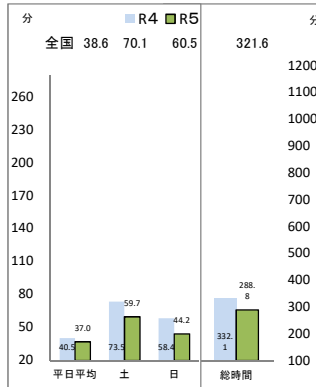
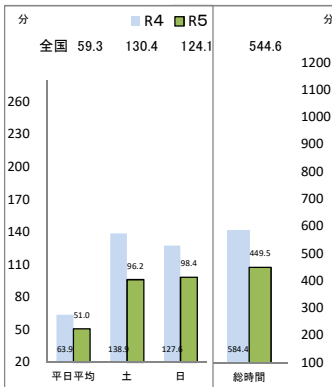
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

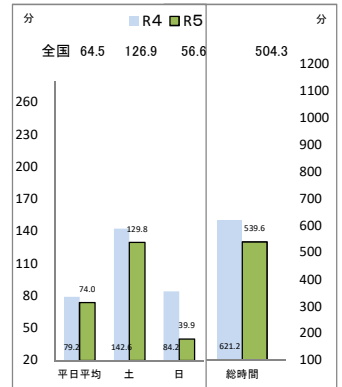
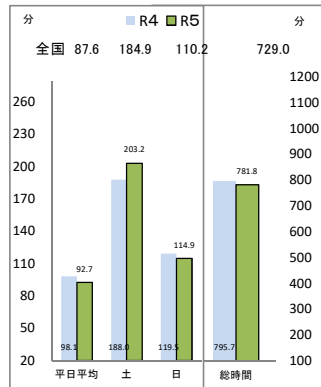
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女ともに「短い」結果である。
- ・ 平日の運動時間は、全国平均と比較すると、ほとんど差が見られない。
- ・ 土・日曜日の運動時間は、男子が全国平均より「短く」なっている。
- ・ 男女ともに、運動時間の増加に向けた取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子の1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると「長い」結果である。
- ・ 平日の運動時間は、全国平均と比較すると、男女ともに「長い」結果である。
- ・ 土・日曜日の運動時間は、全国平均と比較すると女子が「短い」という結果である。
- ・ 女子の一層の運動時間の増加、特に土・日曜日における運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

【改善策】

- 【小学校】体育授業の指導法改善・チャレンジかごしま申告率「100%」・家庭における運動時間の確保
- 【中学校】体育授業の指導法改善・チャレンジかごしま申告率「90%以上」・運動部活動生以外への運動時間確保の啓発
- 【共通・その他】
 - ・ 日置市が推奨する「体話(たいわ)」を通じた家庭との連携(運動の日常化)
 - ・ 「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」事業(小中一貫教育による体力向上)による、9年間を見据えた体力向上策の策定
 - ・ 一校一運動の工夫・改善及び「ひおきっ子サーキット」の小中連携による継続的な実践
 - ・ 「体力ナビ」の活用による、体力面の課題の自覚化

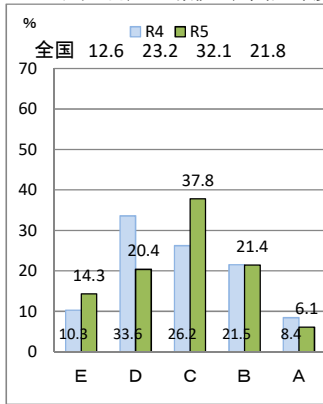
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

いちき串木野市教育委員会

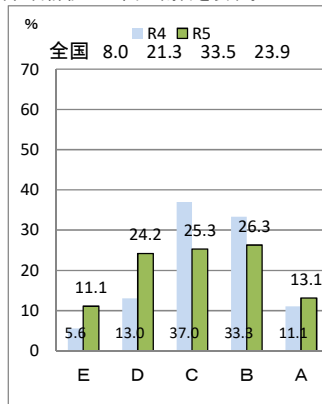
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。

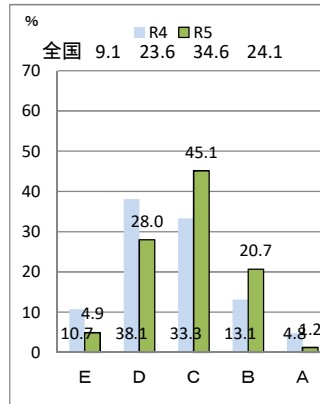


〔女子〕

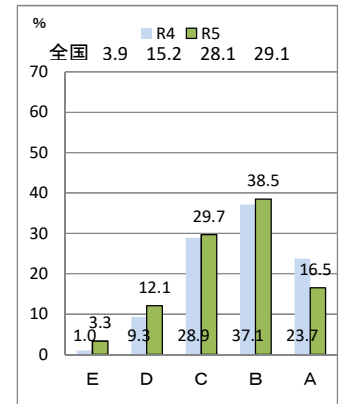


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はCの割合が増加し、Dの割合も減少したものの、Aの割合が2.3ポイント減少した。種目別に見ると、5種目が全国平均を下回り、特に、柔軟系の運動を強化する必要がある。
- ・ 女子はAの割合が2.0ポイント増加したものの、E、Dの割合が増加しており、下位層を引き上げる取組が必要である。種目別に見ると、瞬発系の運動は全国平均を上回ったが、上体起こし等の柔軟系に課題が見られる。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はE、Dの割合が計15.9ポイント減少し、B、Cの割合が19.4ポイント増加する等、前年度より体力の向上が見られた。種目別に見ると、持久走が全国平均を大きく上回っている。
- ・ 女子はB、Cの割合が2.2ポイント増加したものの、Aの割合が7.2ポイント減少した。種目別に見ると、特に握力が全国平均を大きく上回ったが、上体起こし、長座体前屈に課題が見られる。

【小学校 運動実施時間】

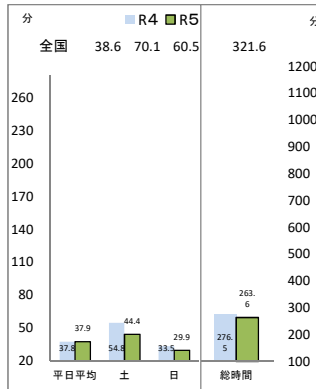
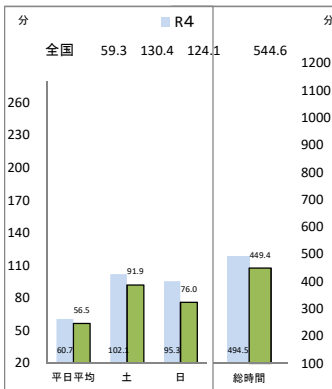
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



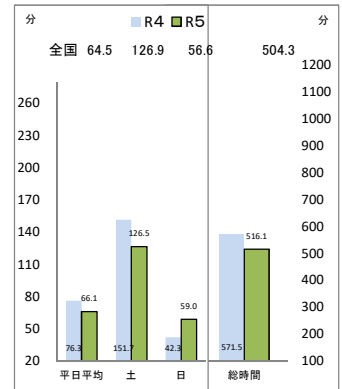
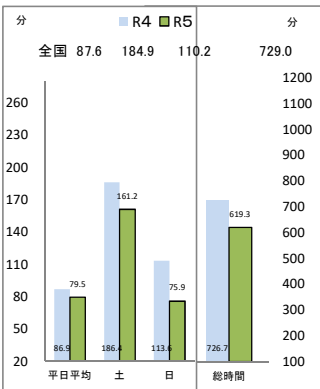
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 前年度と比較して、男女ともに総運動時間が減少した。
- ・ 総運動時間において、男女ともに全国より60分以上短かった。
- ・ 平日は、男女ともに全国平均とほとんど差が見られなかったが、土・日において男女ともに全国平均より30分以上短くなっているため、休日における運動の在り方について指導及び家庭への啓発が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 前年度と比較して、男女ともに総運動時間が減少した。
- ・ 総運動時間において、男女ともに全国より40分以上短かった。
- ・ 男子は、土日の運動時間が前年度より減少したことにより、総運動時間で全国より短い結果となった。休日の運動の在り方について指導及び家庭への啓発が必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・ 運動する楽しさを実感できる取組の推進及び、結果として体力向上に繋がる方策の検討

【中学校】

- ・ 運動部、スポーツクラブ等に加入している生徒以外の運動に対する意識の向上

【共通、その他】

- ・ 各種目の分析を基にした重点指導種目の設定及び、補強運動の充実
- ・ 授業における運動量の確保及び、知識の習得と思考力・判断力・表現力に関する指導時間の配分等の工夫
- ・ 本調査結果に基づいた課題や改善策に関する家庭や地域との共有及び、地域一体となった体力づくりに繋がる取組の推進

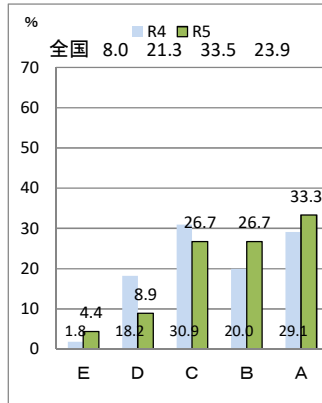
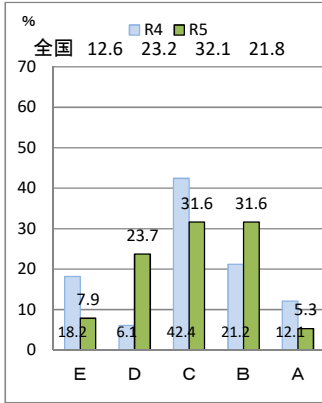
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

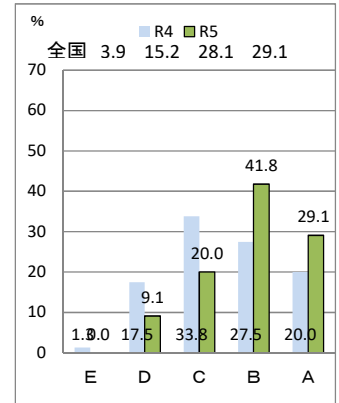
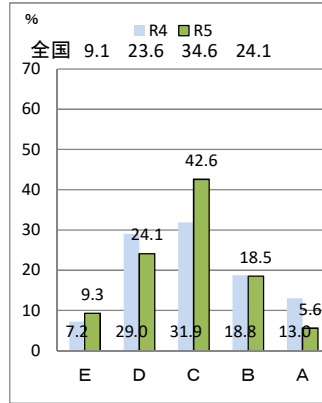
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 全国平均と比較して、男女ともにA+Bの割合が高く、女子においてはAの割合が全国よりも大幅に高くなっていることから、体力の向上が見られる。
- ・ 昨年度と比較すると、男子はEの割合が減少したがD+Eのみでみると割合が増加しており、全体的に上位層へ引き上げる取組が必要である。女子は、全体的に上位層の割合が高く、体力の向上が伺える。

〈現状及び課題〉

- ・ 全国平均と比較して、男子においては、A+Bの割合が低くなっていることから、体力低下が懸念される。女子においてはA+Bの割合が高く、体力の向上が見られる。
- ・ 昨年度と比較すると、男子はCの割合が増加しており、全体的に上位層へ引き上げる取組が必要である。女子は、A+Bの割合が大幅に増加しており、体力の向上が伺える。

【小学校 運動実施時間】

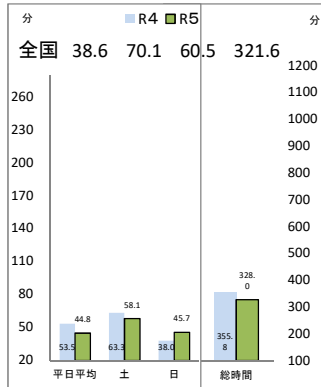
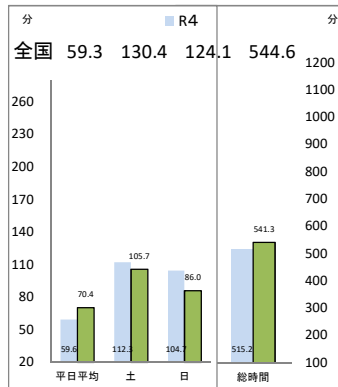
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

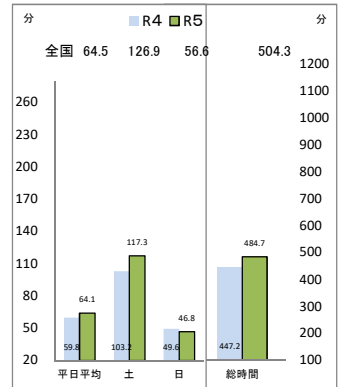
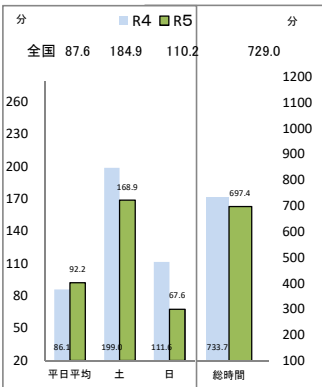
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間については、男女ともに「ほとんど差がない」結果だった。
- ・ 平日及び土日については、全国平均との比較において、平日は男女ともに長く、土日が短かった。週休日の運動時間の確保に向けた取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間については、男子は「ほとんど差がない」、女子は「短い」結果であった。
- ・ 平日及び土日については、全国平均との比較において、平日は同等で、女子は土日が大幅に短かった。週休日の運動時間の確保に向けた取組が必要である。

【改善策】

【共通】

- ・ 運動の楽しさを味わい、日常的に運動に親しむ態度を育てるために、友達と関わりながら、できないことができるようになったり、工夫して挑戦したりする機会が確保される授業づくりが必要である。
- ・ 小中学校ともに体力の維持・向上が見られることから、更なる体力向上を目指し、授業の充実と運動の習慣化を図る。週休日の運動時間の確保に向け、家庭と連携した取組を意図的に設定する。
- ・ 課題となる運動の克服に向け、年間を通した「体力アップ！チャレンジかごしま」への継続的な取組を行う。(運動の習慣化、全学級申告、複数種目への取組)

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

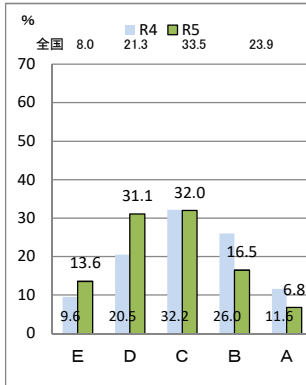
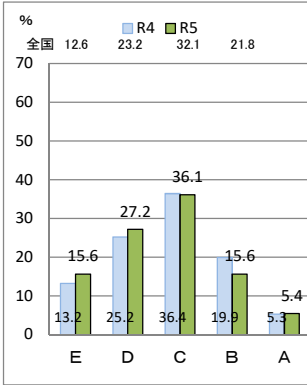
指宿市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

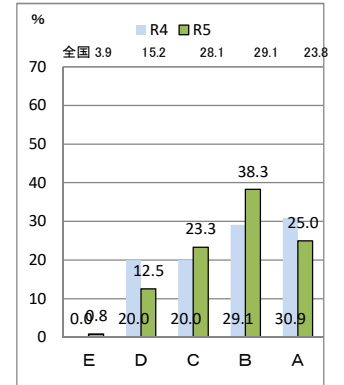
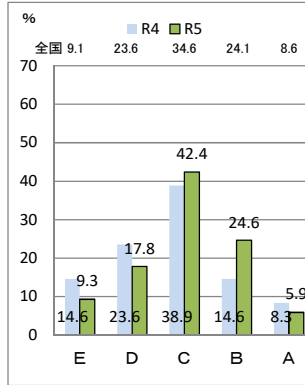
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下

中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はEの割合が2.4ポイント増加し、Bの割合が4.3ポイント減少している。
- ・ 女子はEの割合が4.0ポイント増加し、Bの割合が9.5ポイント減少している。
- ・ 男女とも、Cの割合が前年度とほとんど変化がなかった。
- ・ 男女とも、E、Dの運動への興味・関心を高め、結果として体力の向上を図る必要がある。
- ・ 男女とも、Cの児童をB、Aに引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はEの割合が5.3ポイント減少し、Bの割合が10.0ポイント増加している。
- ・ 女子はDの割合が7.5ポイント減少し、Bの割合が9.2ポイント増加している。
- ・ 男女ともCの割合が前年度に比べ、やや増加している。
- ・ 男女とも、Bの割合が増加しており、体力の向上が伺える。
- ・ 男女とも、Aの割合が減少しており、Bの児童をAに引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

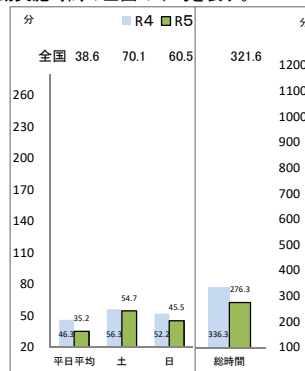
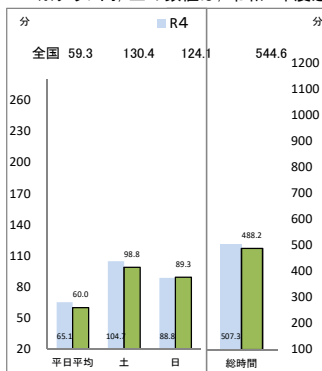
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



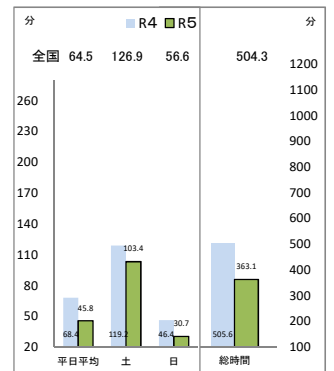
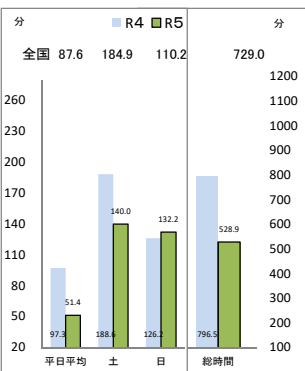
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女とも「短い」結果だった。
- ・ 平日は、全国平均と比較すると、男女とも運動時間に大きな差は見られない。
- ・ 土・日曜日は、男女とも全国平均より短くなっている。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女とも「短い」結果だった。
- ・ 平日は、男女とも全国平均より短くなっている。
- ・ 土・日曜日は、全国平均と比較して、男子が土曜は短い日曜は長い。女子は土・日曜日とも、短い。

【改善策】

【小学校】

- ・ 市小学校体育主任会において、体力向上や授業改善についての研修機会を新規で設定し、体力向上や授業改善につながる情報の共有や意見交換を行う。
- ・ 新規で開催予定である、「運動大好き」いぶすきっ子”Sports Day(6年生対象のスポーツ交流会)」をきっかけに、年間通した体力向上の取組の充実を図る。

【中学校】

- ・ 市内中学校の好事例を、全ての中学校で共有し、指宿市全体として、体力や運動習慣の課題に取り組む。
- ・ 研究授業等を通して、「いぶすき授業ポイント5」に基づいた教科体育の充実を図る。

【共通、その他】

- ・ 指宿市地域部活動推進協議会を通して、指宿市の望ましい持続可能な運動部活動の体制づくりに取り組む。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

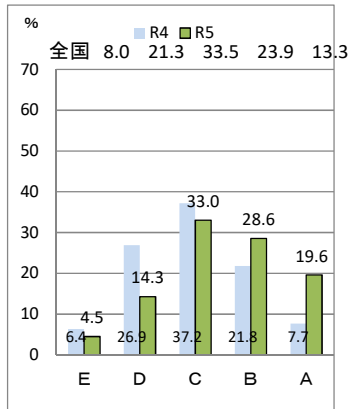
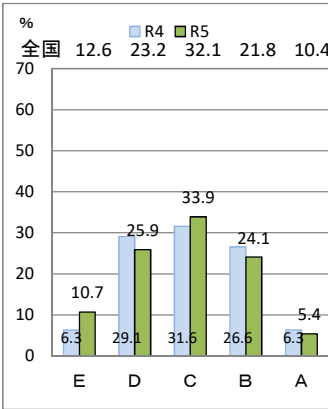
南九州市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

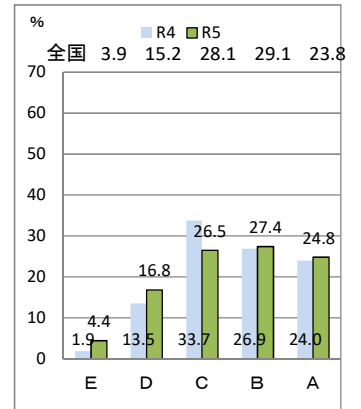
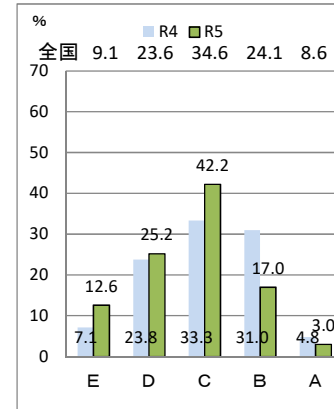
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較して男子は、A+Bの割合が低く、Eが10%を超えており、体力の低下が懸念される。女子はA～Eの割合全て、全国平均と同等の数字となっている。
- ・昨年度と比較すると、男子はEの増加がしており、下位層の運動への興味・関心を高めるとともに、体力の向上を図る取組を充実させていく必要がある。女子はA+Bの割合が大幅に増加し、D+Eの割合が減少していることから、体力維持の取組を継続したい。
- ・「長座体前屈」が男女とも全国平均より大きな差があり、喫緊の課題である。

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較して、男子はA+Bの割合が低く、D+Eの割合が高くなっている。課題を詳細に分析し、改善に向けた取組が急務である。女子は全国とAからEのそれぞれの割合に大きな差異はない。
- ・昨年度と比較すると、男子はA+Bの割合が大幅に減少し、逆にEの割合が大幅に増加している。DやEの生徒をCに引き上げる取組を充実させたい。女子は、Cの割合が減少し、DとEの割合が増加している。
- ・男子は7種目で全国平均を下回っており、全体的な体力向上の引き上げに努めなければならない。女子は「長座体前屈」が課題である。

【小学校 運動実施時間】

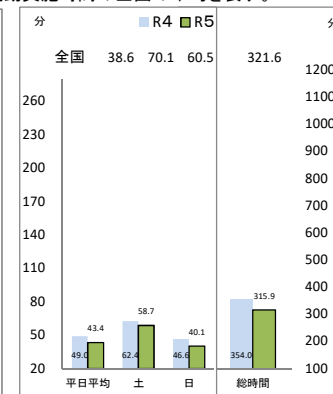
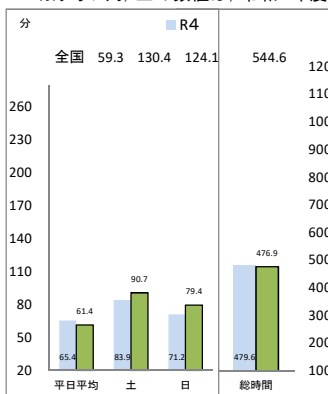
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



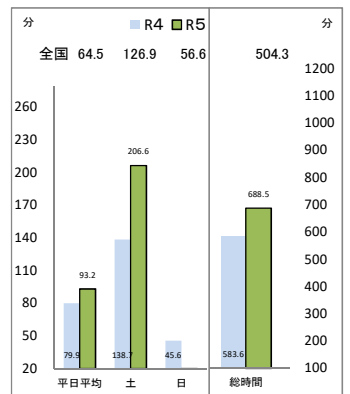
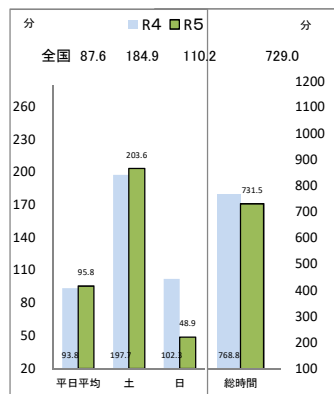
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均との比較において、男子は「短い」、女子は「ほとんど差がない」結果であった。
- ・平日及び土日は、全国平均との比較において、男女共に平日は男女ともにわずかに長く、土日は短い。休日の運動習慣を身に付けるために、家庭と連携し、運動時間を確保に努める必要がある。
- ・昨年度との比較では、男子は休日の運動時間が増加した。女子は平日及び土日も全て減少した。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均との比較において、男子は「長い」、女子は「わずかに長い」結果であった。
- ・平日及び土日は、全国平均との比較において、男女ともに平日と土曜日は長く、日曜日だけが低い。日曜日の運動の時間を確保する手立てが必要である。
- ・昨年度との比較では、男子は日曜日が大幅に減少したため、総運動時間がわずかに短くなった。女子は平日と土曜日の運動時間が増加したが、日曜日の運動時間がほぼない状況であり、大きな課題である。

【改善策】

- ・運動習慣を身に付けることができるようにするために、問題解決型の授業の徹底するとともに、朝の時間や休み時間等に簡単にできる体力つくりの取組を例示し、推進していく。
- ・体育の授業の準備運動に必ずストレッチ運動を1分間取り入れる。
- ・「チャレンジ! かごしま」の中でも、「のぼしてこころ」を継続的に取り組ませる。記録の伸びを実感できるようにするために、定期的に記録を取るようにする。
- ・体育主任等研修会において、授業づくりと柔軟性を高める実技研修を実施する。
- ・日曜日の運動時間を確保するために、家庭、地域との連携した取組を推奨するために、定期的に啓発資料を送付する。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

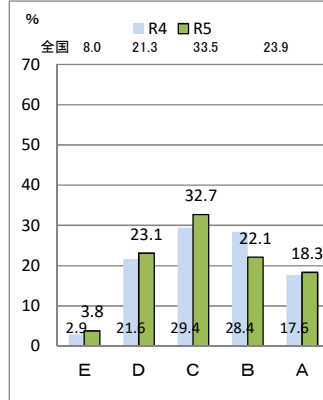
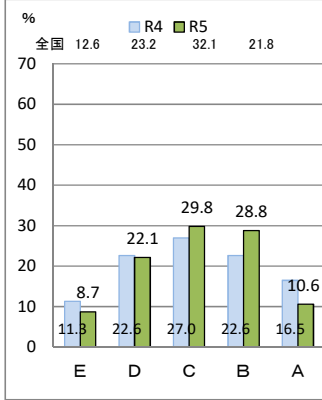
南さつま市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

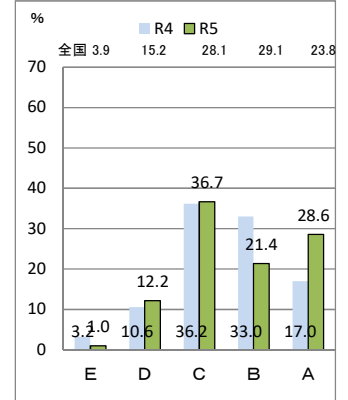
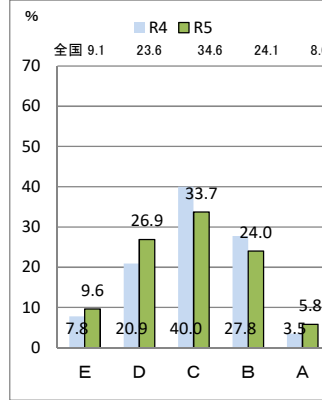
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子はEの割合が2.6ポイント、Aの割合が5.9ポイント減少し、Cの割合が2.8ポイント、Bの割合が6.2ポイント増加している。
- ・女子はBの割合が6.3ポイント減少し、Dの割合が1.5ポイント、Cの割合が3.3ポイント増加している。
- ・男女とも、E、D、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、Cの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はC、Bの割合が減少するとともに、Eの割合が1.8ポイント、Dの割合が6ポイント増加し、体力の低下が伺える。E、D、Cの生徒をB、Aへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子は、Bの割合が11.6ポイント減少し、Aの割合が11.6ポイント増加し、体力の向上が伺える。E、D、Cの生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、Cの生徒をB、Aに引き上げるための支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

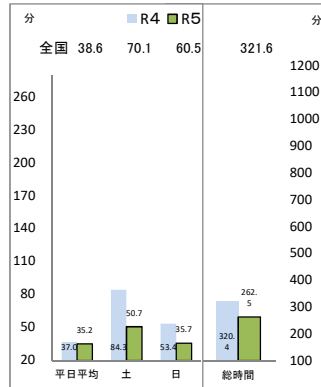
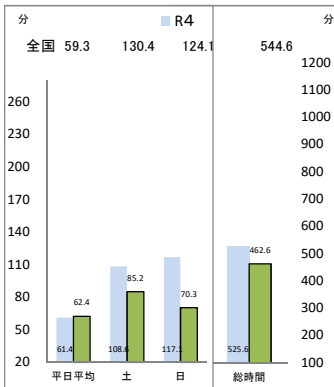
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

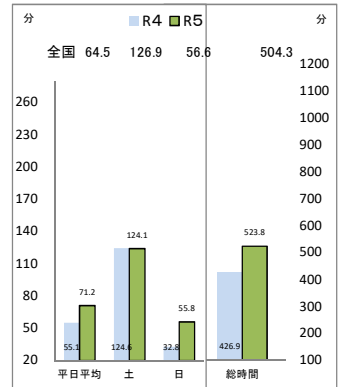
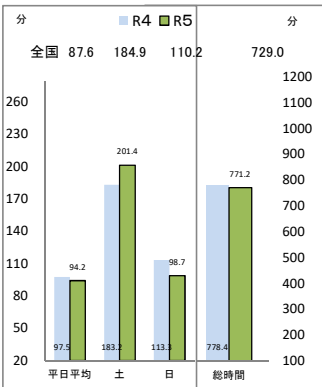
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女ともに「短い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男女とも運動時間に大きな差はみられない。
- ・土・日曜日は、男女ともに全国平均より短くなっている。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男子は「わずかに長い」女子は「ほとんど差がない」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較してほとんど差はない。
- ・日曜日の運動時間は、全国平均より男子が19分、女子が5分短い。
- ・男女の一層の運動時間の増加に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・「チャレンジかごしま」を活用し、運動の日常化への取組を工夫する。

【中学校】

- ・運動部活動の指導の工夫改善を図ったり、朝ランなど運動部活動に所属していない生徒の運動実施時間を増やしたりする取組を進める。

【共通、その他】

- ・体力ナビ等を活用して、分析等を行い、自校の課題を明確にする。
- ・自校の課題に即した教科体育の充実(分かる・できる体育、運動量の確保、補強運動の充実、授業を通じた研修等)を行う。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

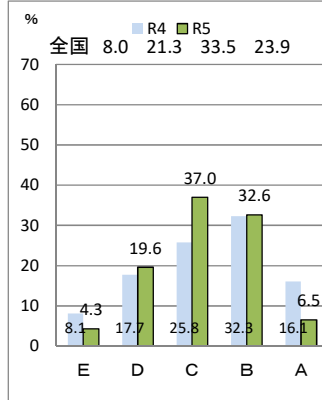
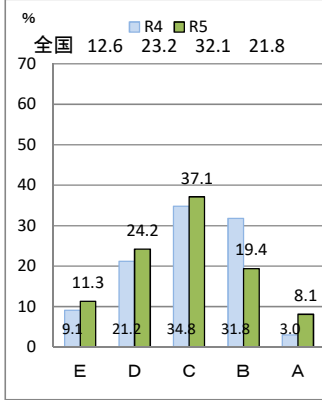
阿久根市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

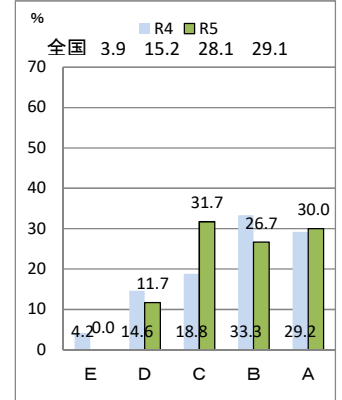
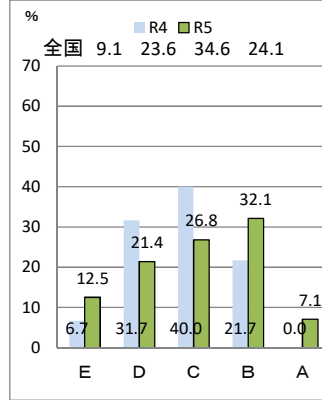
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- 男子は、A、Cが微増となったが、D、Eが全体の35.5%を占め、対前年比5.2ポイントの増となった。種目別では、上体起こし、20mシャトルランが課題である。
- 女子は、Aが対前年比3.8ポイント、Eが9.6ポイント減少し、B~Dが合計で13.4ポイントの増となった。種目別では上体起こし、長座体前屈が課題である。

〈現状及び課題〉

- 男子は、AからCが全体の66%を占め、対前年比17.5ポイントの増となっている。種目別では20mシャトルラン、上体起こし、反復横跳び以外が課題である。
- 女子は、D、Eが対前年比7.1ポイントの減、Cが12.9ポイントの増となっている。種目別では握力、長座体前屈が課題である。

【小学校 運動実施時間】

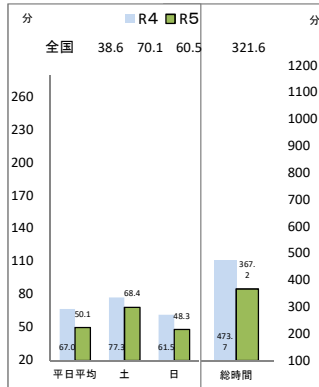
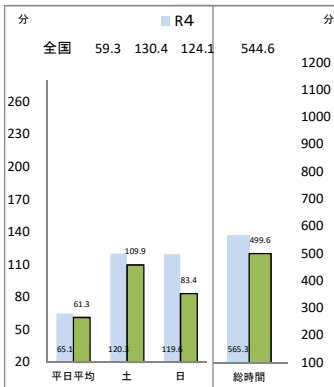
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



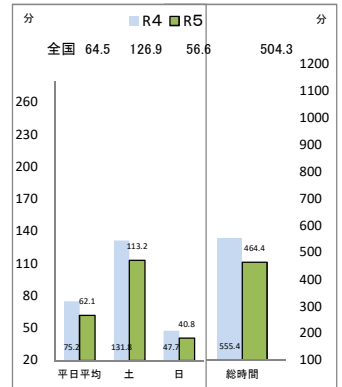
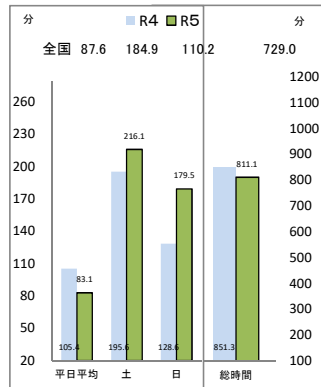
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- 男女ともに、1週間を通して、対前年比で減少している。
- 男女ともに、全国平均と比較して日曜日の運動時間が少ない。
- 男子は平日平均が全国平均と同等であり、女子は平日の平均が全国平均より上回っている。
- 全国や県との比較では、総時間数において、男子は下回っており、女子は上回っている。

〈現状及び課題〉

- 男女ともに、総時間数がR4年度より減り、男子は休日の運動時間が増え、女子は1週間を通してR4年度より減っている。
- 男女ともに、全国や県との比較でも、水曜日、日曜日の運動時間が極端に低いが、その他の曜日は同様の時間である。
- 部活動やクラブ活動以外の運動時間の確保及び気軽に運動する場の確保に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- 本調査の結果分析を行い、体育科の授業における運動量の確保や、児童会を中心とした朝時間や放課後等の時間等を活用した体力づくりの取組を推奨する。

【中学校】

- 本調査の結果分析を行い、保健体育科の授業で筋力及び柔軟性を高める補強運動を位置付け、平日の運動習慣について啓発する。

【共通・その他】

- 学校保健委員会や家庭教育学級等で、土日の過ごし方を含めた児童生徒の運動習慣、生活習慣に関する研修を行う。
- 「チャレンジかごしま」に計画的に取り組むとともに、「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」の立案と評価を行う。

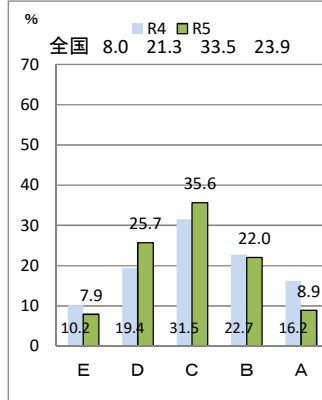
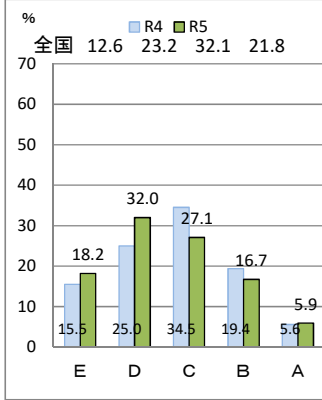
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

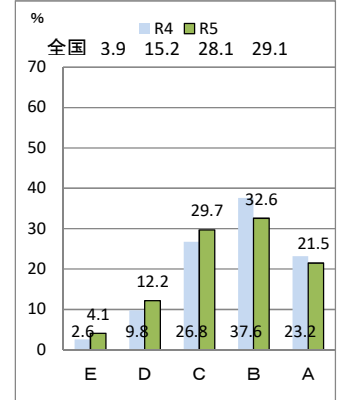
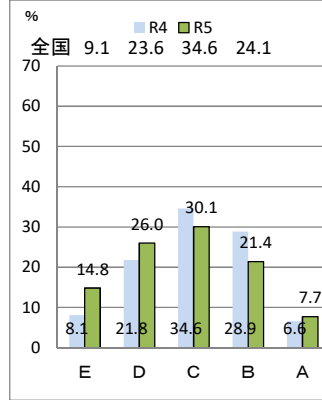
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

・男子はBの割合が2.7ポイント、Cが7.4ポイント減少し、Dが7.0ポイント、Eが2.7ポイント増加した。女子はAの割合が7.3ポイント、Eが2.3ポイント減少し、Cが4.1ポイント、Dが6.3ポイント増加している。
・別紙質問紙集計表から、「運動やスポーツが好き」、「自主的に運動・スポーツをする時間を持ちたい」と回答する児童が、男女とも全国・県平均をやや下回っているため、運動への興味・関心を高め、運動の習慣化・日常化を図り、E・Dの児童をC、B、Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

・男子はBの割合が7.5ポイント、Cが4.5ポイント減少し、Dが4.2ポイント、Eが6.7ポイント増加した。女子はAの割合が1.7ポイント、Bが5.0ポイント減少し、Cが2.9ポイント、Dが2.4ポイント、Eが1.5ポイント増加している。
・別紙質問紙集計表からは運動やスポーツへの生徒の興味・関心は伺えるものの、実集計表からハンドボール投げ以外の種目のT得点が50.0を下回っていることから、運動の習慣化・日常化を図り、E、D、Cの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

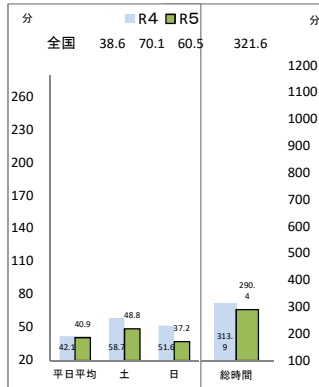
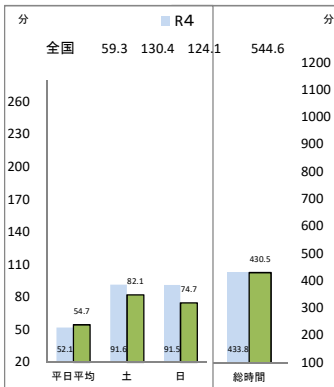
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

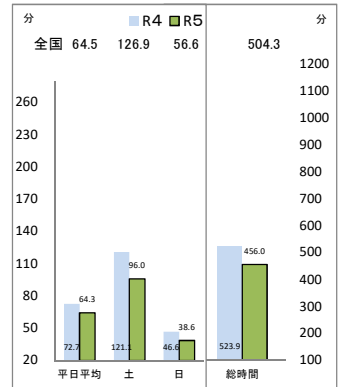
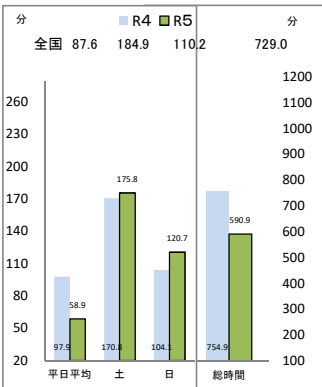
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

・令和4年度と比較して、男女とも土日の運動時間が減少している。
・別紙質問紙からは、63.5%男子が地域スポーツクラブ等で運動に取り組み、特に土日の運動時間も確保できているが、女子のスポーツクラブ参加率は男子よりも15%程度低く、全ての曜日で男子よりも運動時間が低くなっていることが捉えられる。

〈現状及び課題〉

・グラフから、令和4年度と比較して男子は平日の運動時間が減少し、土日の運動時間が増加しており、女子は平日、土日の運動時間が減少している。
・男女とも、他の曜日に比べ水曜日と日曜日の運動時間が少ない傾向があり、全国よりもやや低い結果となっているが、部活動の休みが確実に実施されていることが影響していると考えられる。

【改善策】

・本市では、授業開始5分間の補強運動「チャレ・トレタイム」を推奨し、各学校で具体的な運動を決めて実施している。その中で、走力・跳力に関する運動を実施している学校も多く、その効果が少しずつ表れてきている。一方で、取組の学校差や、単発的・短期的な取組などの課題がみられる。また、小・中学校男子では1週間の総運動時間が少ない児童生徒も見られ、運動の習慣化・日常化に課題がある。
・「チャレ・トレタイム」の継続的な取組、「一校一運動」の取組や、「運動大好き「かごしまっ子」育成推進プラン」に基づく活動設定などを進めるとともに、体育的行事等も関連させながら年間を通じ計画的に「体力アップ！チャレンジかごしま」へ挑戦させ、運動の習慣化や日常化を図るよう指導する。
・粘り強く取り組み、達成感を味わわせる体育授業や、豊かな人間関係を育む体育的行事の実施に向けて指導するとともに、市で行っている一輪車大会、ちびっこ相撲大会、ドッジボール大会等への参加を推進していく。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

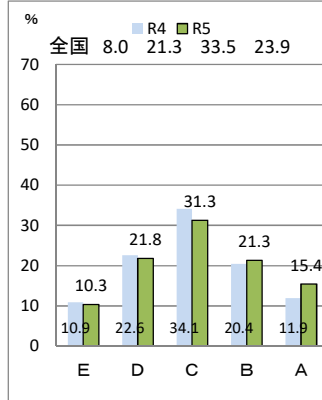
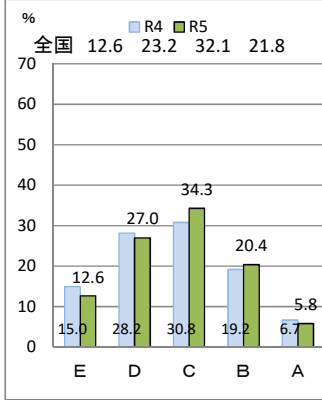
薩摩川内市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

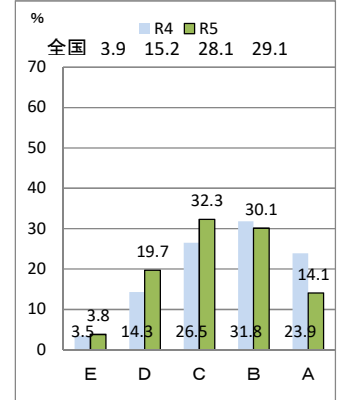
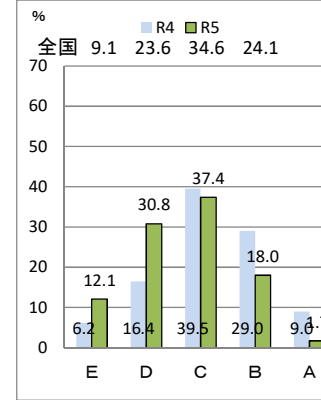
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較すると、男子はD+Eの割合が3.8ポイント高く、A+Bの割合が6.0ポイント低い。女子は、D+Eの割合が2.8ポイント高く、A+Bの割合が0.5ポイント低い。
- ・R4年度と比較すると、男子はA、D、Eの割合が減少し、B、Cの割合が増加している。女子は、A、Bの割合が増加し、C、D、Eの割合が減少している。
- ・男女ともに中間層を上位層へさらに引き上げるための取組が必要で

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較すると、男子はA+Bの割合が13.0ポイント低く、D+Eの割合が10.2ポイント高い。女子はA+Bの割合が8.7ポイント低く、D+Eの割合が4.4ポイント高い。
- ・R4年度と比較すると、男子はA、B、Cの割合が減少し、D、Eの割合が増加している。女子はA、Bの割合が減少し、C、D、Eの割合が増加している。
- ・男子はCの生徒をBへ、女子はBの生徒をAに引き上げるための取組

【小学校 運動実施時間】

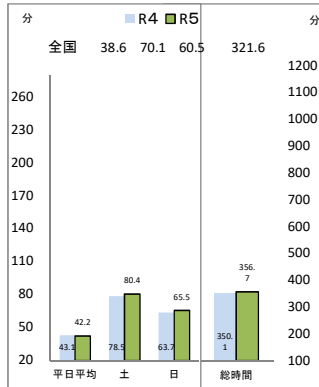
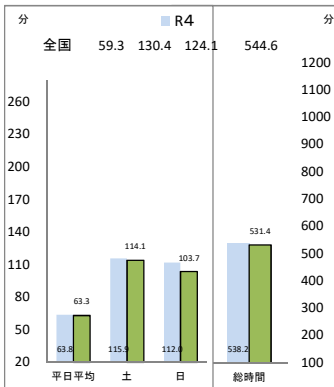
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

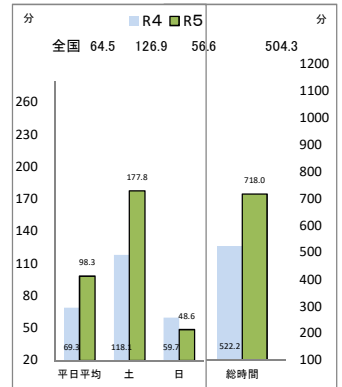
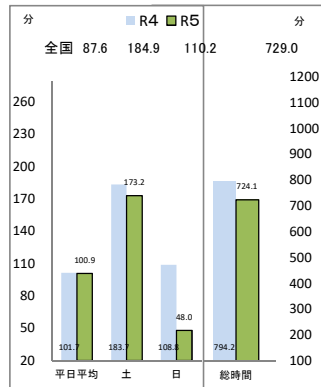
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「ほとんど差がない」女子が「長い」結果であった。
- ・平日、及び土日は、全国平均と比較して男女とも運動時間に大きな差は見られない。

〈現状及び課題〉

- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は男子で58.9分、女子で60.1分上回っている。
- ・1週間の総運動時間をR4年度と比較すると、男子は70.1分短くなり、女子は195.8分長くなっている。
- ・R4年度と比較すると、男子は日曜日の運動時間が短く、女子は平日及び土曜日の運動時間が長くなっている。

【改善策】

【小学校】

- ・運動量を確保した学習過程の確立及びICTによる動画撮影等を活用した問題解決型学習の充実
- ・「一家庭一運動」や「プラス5分運動」の啓発、外遊びの奨励など、家庭との連携による休日の運動時間の確保

【中学校】

- ・県体力診断プログラム「体力ナビ」を活用した個々の実態把握と体力伸長への取組の奨励
- ・運動部活動に所属していない生徒の教科体育や教科外体育での運動量の確保

【共通、その他】

- ・「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」に基づいた年間を通じた取組の見直しと推進
- ・「体力アップ！チャレンジかごしま」「一校一運動」の取組の奨励と取組時間の確保

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

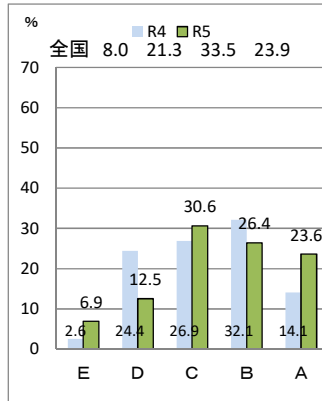
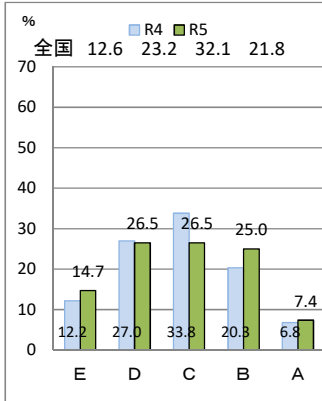
さつま町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

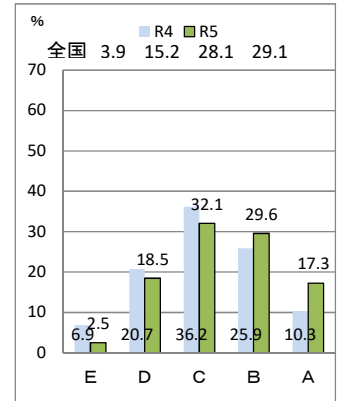
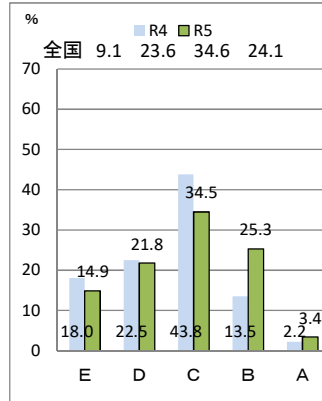
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が1.6ポイント、Bの割合が4.7ポイント増加している。A・Bの層が増加しており、わずかながら体力が向上している。
- ・女子は、Aの割合が9.5ポイント、Eの割合が4.3ポイント増加しており、体力の二極化が進んでいる。
- ・男子・女子ともに、D・Eの層を引き上げるために、体力及び運動への興味・関心を高め、継続して運動させることが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、A・Bの層が増加しており、全体的に体力の向上が進んでいる。
- ・女子は、A・Bの層が増加し、D・Eの層が減少していることから、全体的に体力が向上してきている。
- ・全体的に体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、Eの層を上位へ引き上げるための支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

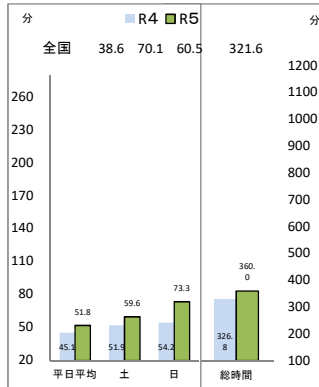
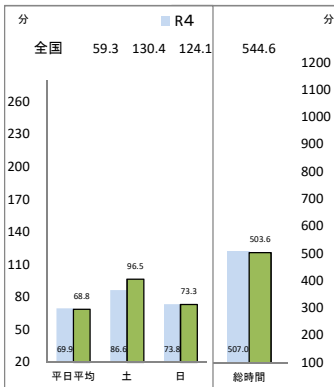
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



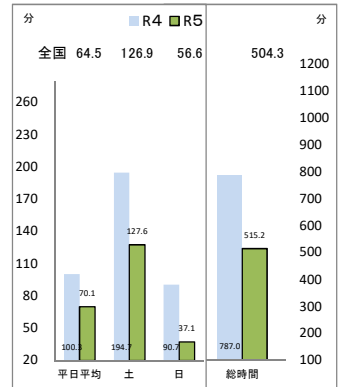
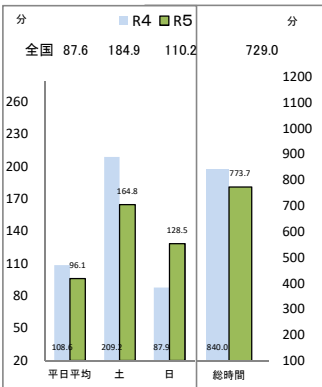
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年度に比べ、総運動時間は、減少しているが、土曜の運動時間は、増加している。
- ・女子は、平日、土日ともに運動時間は、大幅に増加している。
- ・男女ともに、土・日の運動時間確保に向けた手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年度と比較すると、土曜の運動時間が減少し、日曜の運動時間は増えている。
- ・女子は、平日、土日ともに大幅に運動実施時間は減少している。
- ・女子の土・日の運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・教科体育において、課題となっている体力や運動能力に関する補強運動の実施
- ・家庭での体力づくりの必要性の啓発と、週休日の運動時間の確保

【中学校】

- ・運動部活動に加入していない生徒や、バス通学の生徒の運動量の確保(教科体育及び教科外体育の充実)

【共通】

- ・「体力アップ！チャレンジかごしま」に併せた、本町主催の「さつまランキング」の実施と運動機会の確保

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

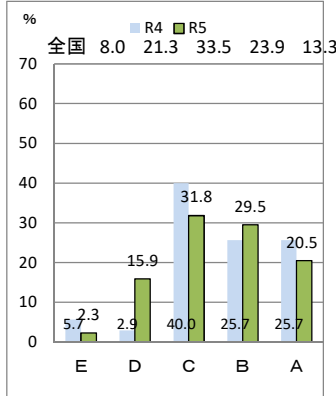
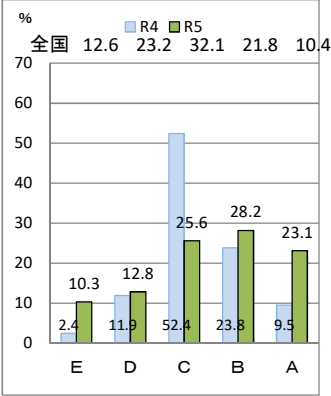
長島町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

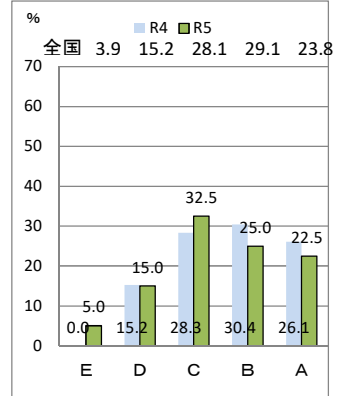
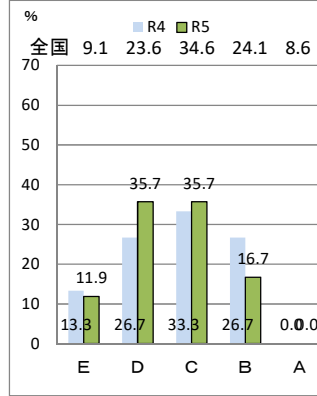
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・昨年度と比較すると、A+Bの割合が、男子は18.5ポイント増加し、女子は1.4ポイント減少している。また、D+Eの割合が、男子が8.8ポイント、女子が9.6ポイント増加している。
- ・全国平均と比較すると、A+Bの割合が、男子は19.1ポイント、女子は12.8ポイント上回っている。
- ・本年度は、全国平均に比べ、高い結果であったが、昨年度に比べE、Dの児童が増加していることから、教科体育を中心とした授業改善が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・昨年度と比較すると、A+Bの割合が、男子は10.0ポイント、女子は9.0ポイント減少している。また、D+Eの割合が、男子が7.6ポイント、女子が4.8ポイント増加している。
- ・全国平均と比較すると、A+Bの割合が、男子は16.0ポイント、女子は5.4ポイント下回っている。
- ・本年度は、全体的に昨年度との比較でも全国平均との比較でも落ち込みが見られるので、生徒への運動への教科体育を中心とした授業改善が必要である。

【小学校 運動実施時間】

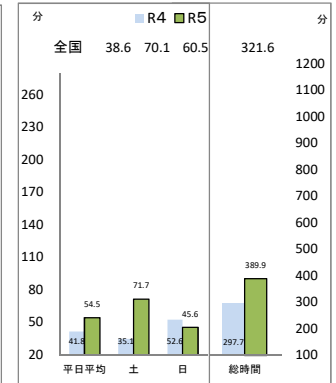
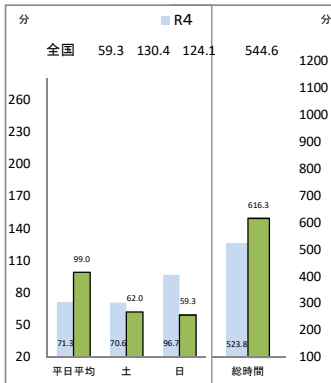
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



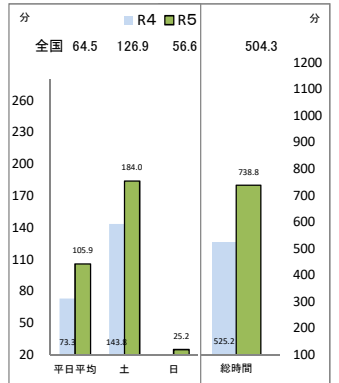
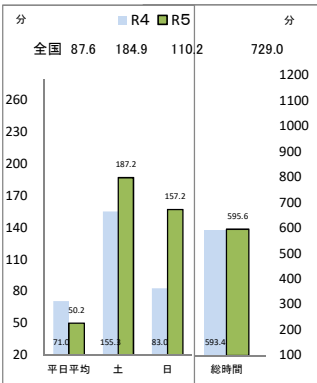
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・昨年度と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は92.5分、女子は92.2分増加している。どちらも平日の運動時間が増加している。
- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は71.7分、女子は68.3分長くなっている。
- ・男子、女子ともに、昨年度との比較でも、全国との比較でも運動時間が長くなっているため、この傾向を継続していきたい。

〈現状及び課題〉

- ・昨年度と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は2.2分とほとんど差がなく、女子は213.6分増加している。
- ・全国平均と比較すると、1週間の総運動時間は、男子は69.6分短く、女子は80.9分長くなっている。
- ・男子、女子ともに昨年度より運動時間が長くなっているが、全国との比較を見ると、男子の運動時間増加に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・「一校一運動」及び「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組の継続による、運動に対する興味・関心の向上
- ・教科体育で運動の苦手な児童への指導の充実(体育における「学習者主体の授業」を目指した授業改善)

【中学校】

- ・「一校一運動」及び「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組の活性化による、運動に対する意欲と運動に親しむ習慣の形成
- ・教科体育で運動量の十分な確保(特に、運動部活動に入っていない生徒への運動に親しむ習慣の形成に向けた取組)

【共通】

- ・学校、家庭、地域との連携を生かした、地域で開催されるスポーツ行事や町主催行事への積極的な参加の呼び掛け

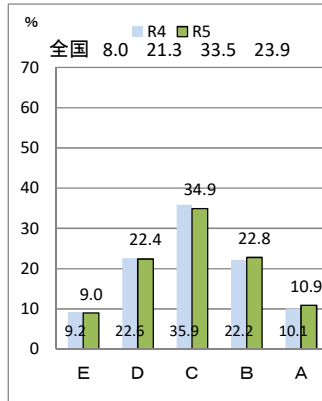
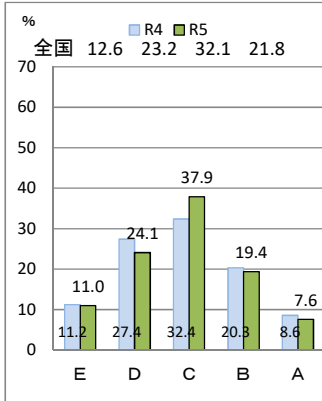
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

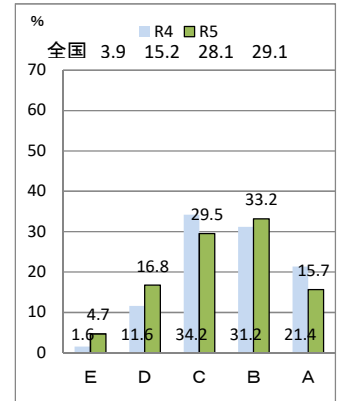
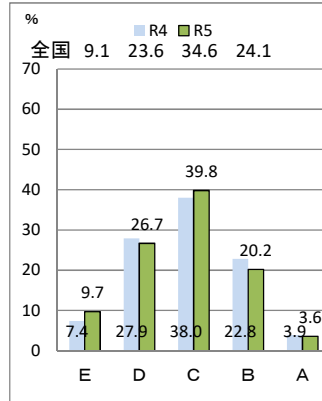
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Dの割合が3.3ポイント減少し、Cの割合が5.5ポイント増加している。
- ・女子は、Cの割合が1.0ポイント減少し、Aの割合が0.8ポイント増加している。
- ・各学校の体力向上の取組の成果から、男女とも、D、Eの児童が減少している。今後はCの児童をB・Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Eの割合が2.3ポイント増加し、A・Bの合計の割合が2.9ポイント減少している。引き続き体力向上に取り組み、Eの割合を3ポイント減少させ、B、Cの割合をAへ引き上げていく取組が必要である。
- ・女子は、D、Eの合計の割合が8.3ポイント増加している。Aの割合は、5.7ポイント減少している。D、Eの割合を9ポイント減少させ、B・Aへ引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

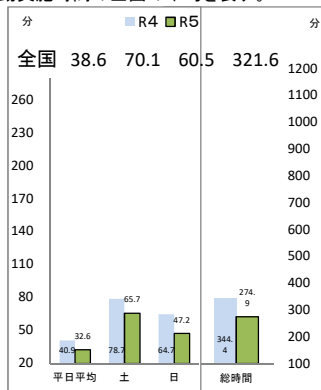
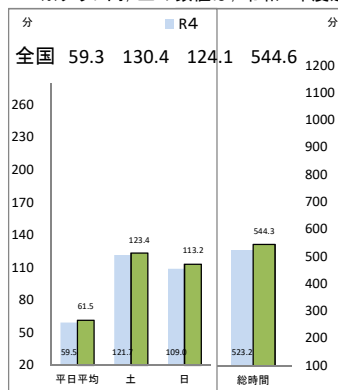
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



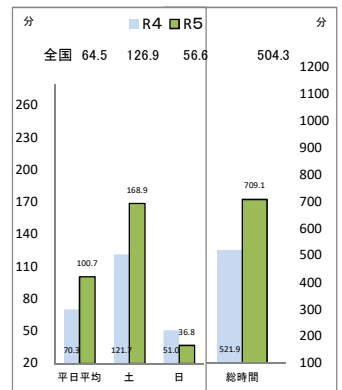
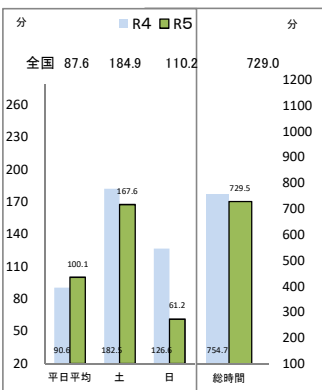
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・総運動時間は、男子はほとんど変化がみられなかったが、女子は短くなっている。女子は、運動する楽しさを指導することが必要である。
- ・総運動時間の増加が体力総合評価の向上にもつながっていると考えられる。

〈現状及び課題〉

- ・男子の運動実施時間は、平日はわずかに長くなっているが、土日は短くなっている。
- ・女子の運動実施時間は、平日、土曜日は長くなり、総運動時間も長くなっている。
- ・女子は総運動時間が長くなっているため、体力向上につなげていく。

【改善策】

- ・体力向上委員会等を明確に位置付け、体力向上策を検討する。
- ・PTAと協力し、学校、家庭が連携した「一家庭一運動」の具体的な取組を推進する。
- ・外部機関との連携を推進し、運動の楽しさを味わわせる。
- ・体力・運動能力調査を実施するにあたり、実施方法や指導のポイント等について全職員で共通理解をする。実施の際は、練習をするとともに1回の実施で終わらずに複数回測定する。
- ・土日や長期休業中の運動時間の確保に向け、家庭で取り組める資料やイベント等を積極的に広報する。
- ・年間を通した「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組を推進する。

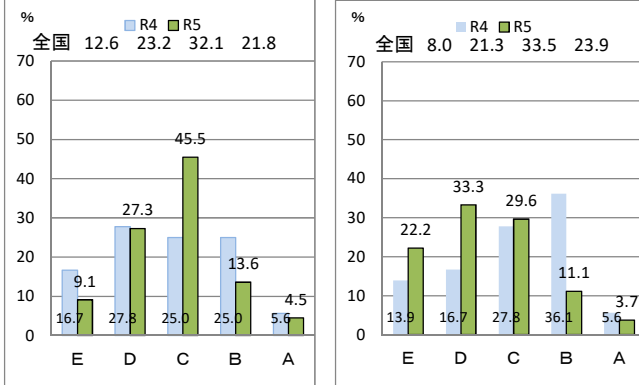
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

湧水町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】 〔男子〕

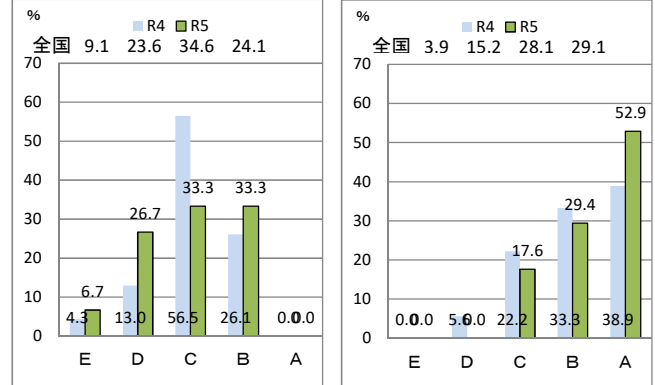
〔女子〕

※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】 〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- 男子は、E・Bの割合が減少し、D・Aの割合もわずかに減少しているため、中間層を頂点とした山型の正常分布となっている。
- 女子は、上位層が大きく減少し、反対に下位層が増加し、全体的に体力の低下がみられる。

〈現状及び課題〉

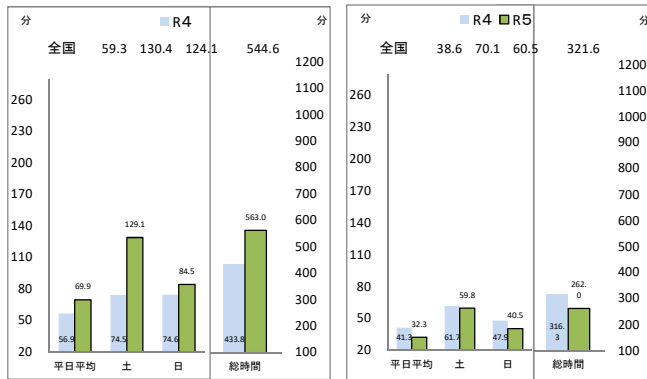
- 男子は、Bの割合が増加したものの、Cが大きく減少し、下位層の割合が増え、体力の低下傾向が見られる。全体的な底上げが必要である。
- 女子は、Aの割合が大きく増加し、過半数を占めている。E・Dの下位層は皆無で、著しい体力の向上が見られる。

【小学校 運動実施時間】 〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

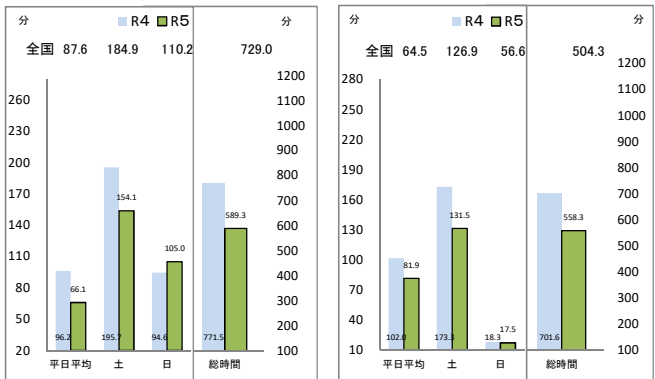
※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



【中学校 運動実施時間】 〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- 男子の1週間の総運動実施時間は、令和4年度に比べて増加しており、ほぼ全国平均と同程度であり、特に土曜日の運動実施時間が増えている。
- 女子の運動時間は、例年少ない実態であったが今年度はさらに減少し、全国平均よりも少なく、特に日曜日の運動実施時間が短い。

〈現状及び課題〉

- 男子の日曜日の運動実施時間は、令和4年度に比べると増加しているが、土日及び1週間の総運動実施時間は大きく減少しており、全国平均と比べても少ない。
- 女子は、すべての項目で運動実施時間が令和4年度に比べて減少し、特に日曜日の運動時間が極端に短い。全国平均と比べても1週間の総運動実施時間が約100分も短い。

【改善策】

- ＜小学校＞ ○ 少人数学級(複式学級)等の実態に応じた、創意工夫を生かした授業の展開、体力づくりの推進(特色ある1校1運動の推進)
- ＜中学校＞ ○ 小中連携による授業研究の実施(年2回の小中連携研修会) 体育的行事・部活動等の合同実施の推進
- ＜共通＞ ○ 授業の工夫・改善→タブレットの効果的活用と運動量の確保→1単位時間の50%以上の運動時間確保
 - ◇導入時→目標(めあて・ねらい等)の明確化(すべての児童・生徒が意識して授業に臨む)
 - ◇展開時→児童・生徒同士で話し合い、工夫する活動の推進及び運動量の確保
 - ◇終末時→学習の振り返り活動の実施
- 教科外の取組の充実
 - ◇「体力アップ! チャレンジかごしま」と運動した町体力づくり事業=遊・友・湧水島の推進
 - ◇地域と連携した体力づくりの推進(町内一周駅伝、豊祭相撲、子ども会ウォーキング等)

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

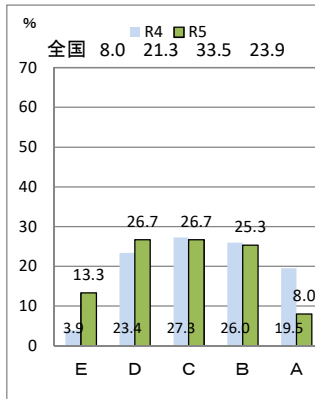
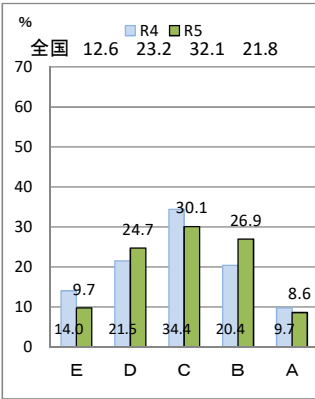
伊佐市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

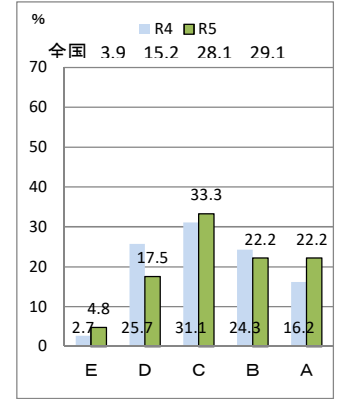
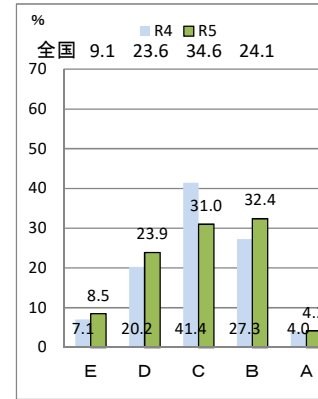
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、A・Bの層の割合が、全国平均より3.4ポイント高い。特に「すばやさ」や「タイミングのよさ」に関する反復横とび(敏捷性)、50m走(スピード)、立ち幅とび(瞬発力)等の項目で全国より高い。
- ・女子は、A・Bの層の割合が、全国平均より3.9ポイント低い。
- ・男女ともに、長座体前屈の値が低く、柔軟性に課題がある結果となった。

〈現状及び課題〉

- ・男女ともにA・Bの割合が昨年度の本市の結果よりも改善している。特に、男子は全国より3.9ポイント高い。
- ・女子は、A・Bの割合が全国平均より8.4ポイントも低く、種目別でも8種目中6種目が全国平均を下回っている。特に、意識調査では、「運動が好き」「体育の授業が楽しい」の回答が全国と比較して10%以上下回っている。

【小学校 運動実施時間】

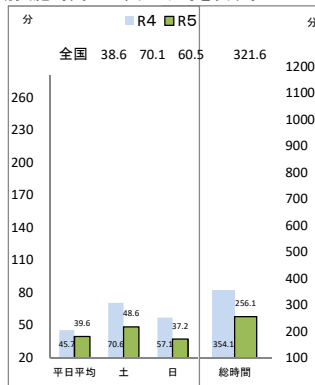
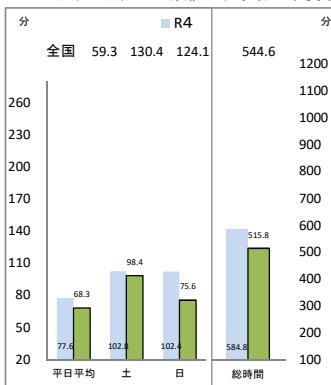
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

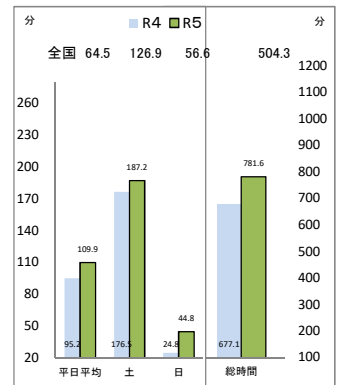
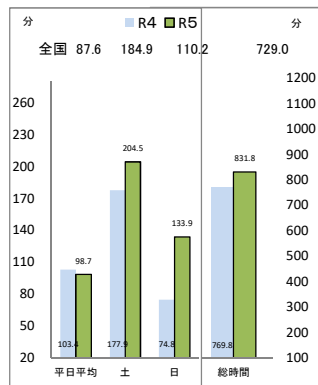
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、平日、休日ともに運動時間が昨年度より減少している。特に、女子の土、日の運動量が大きく減少している。また、全国と比較しても23分も減少している。
- ・女子の1週間の総時間が全国よりも65分も短い。
- また、本市の昨年度の結果より100分程短い運動実施時間であり、大きな課題である。

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに昨年度と比較しても運動実施時間が大きく伸びている。また、全国の総時間の平均よりも100時間以上長い。
- ・曜日ごとの運動時間を比較すると、部活動がない水曜日の運動時間の落ち込みが大きい。
- ・部活動に所属していない生徒の運動実施時間の確保が課題である。

【改善策】

【共通】

- ・達成感・充実感を味わい運動好きの子どもを育むために、管理職研修会や体育主任等研修会を通して授業づくりの研修を行い、教職員の資質向上を図る。
- ・「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」や「体力アップ！チャレンジかごしま」と関連させながら、朝や業間に運動に親しむ時間を設定し、継続的に取組を行う。

【小学校】

- ・授業を通じた研修会を実施し、指導法の改善を図っていく。

【中学校】

- ・学校訪問した際に、運動への興味・関心を高める手立てについて話し合うことで、授業改善を通して体力向上を図っていく。

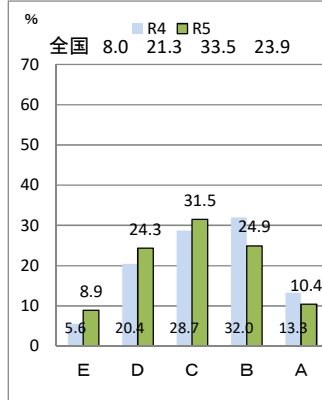
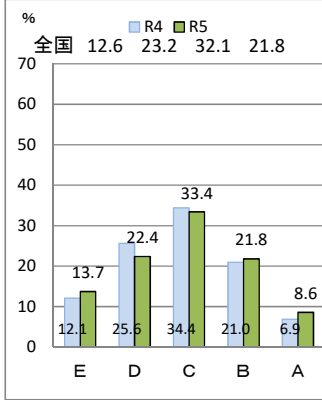
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

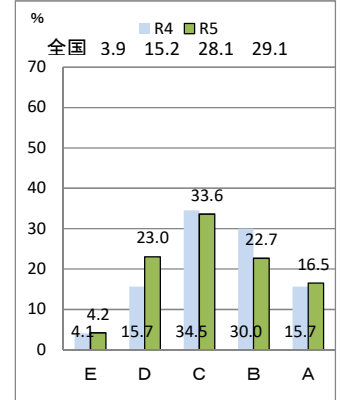
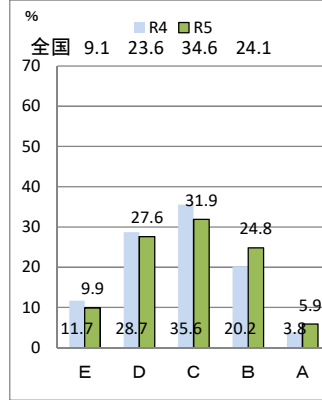
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

・男子は前年度と比較して、(A+B)の児童が2.5ポイント増加し、Dの児童も3.1ポイント減少していることから、中間層の底上げが見られる。ただ、Eが1.6ポイント増加していることから、下位層への指導が必要である。
 ・女子は前年度と比較して(A+B)の児童が10ポイント減少し、(D+E)の児童が7.2ポイント増加していることから、全体的な体力の低下が見られる。

〈現状及び課題〉

・男子は前年度と比較して(A+B)の生徒が6.7ポイント増加し、(D+E)の生徒が2.9ポイント減少していることから、全体的な体力の向上が見られる。
 ・女子は前年度と比較して、(A+B)の生徒が6.5ポイント減少し、(D+E)の生徒が7.4ポイント増加しており、体力の低下が一層進んでいる。体力の合計点は4年連続減少しているため、特に下位層への早急な対応が必要である。

【小学校 運動実施時間】

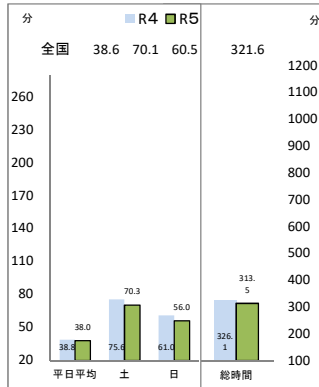
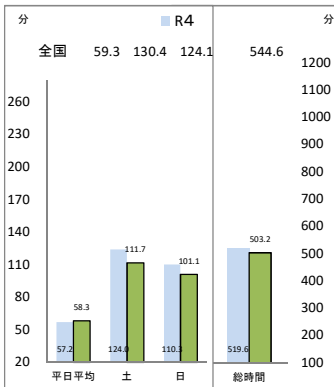
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

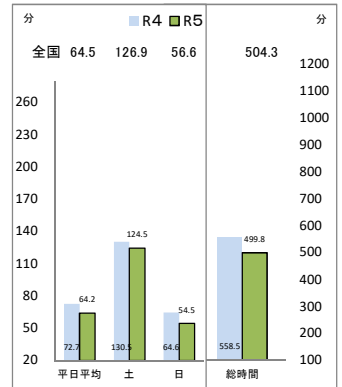
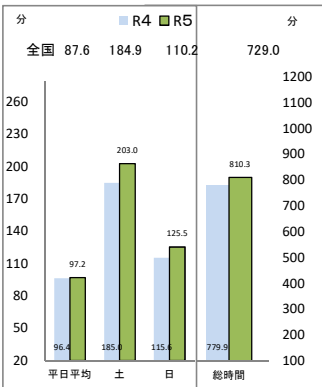
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

・全国と比較した1週間の総運動時間は、男子が「短く」、女子が「ほとんど差がみられなかった」。
 ・前年度と比較すると、1週間の総運動時間は、男女とも「ほとんど差がみられなかった」。
 ・学校外での運動機会を確保できるよう、目的に応じた運動の紹介やPTAと連携した課題の設定などの工夫が必要である。

〈現状及び課題〉

・全国と比較した1週間の総運動時間は男子が「長く」、女子は「ほとんど差がみられなかった」。
 ・前年度と比較すると、男子が「長く」、女子は「短い」結果となった。女子については、部活動やスポーツクラブに所属していない生徒が20.1ポイントで全国平均と比較すると6.4ポイント低い結果であるため、運動の日常化を図るための指導の工夫に努めたい。

【改善策】

- ① 教師の指導力向上を図る「体力・気力アップ始良っ子育成研修会」「小・中学校体育主任研修会」等の実施
 - ・目標をもたせたり、助け合わせたりする授業【課題(問題)解決学習】の充実
 - ・運動が苦手な児童・生徒(特に女子生徒)の運動意欲を高める工夫
- ② 課題に応じた(俊敏性、柔軟性など)運動の推進
 - ・「体力アップ! チャレンジかごしま」における「馬跳びピョンピョン!」「2人でさっさっ」「のびしてコロコロ」の推奨
 - ・補強運動の充実(学校オリジナル体操、エクシードなど)
- ③ 運動の日常化を目指す「一家庭一運動」の推進(学校保健委員会、PTA等との連携)
- ④ 始良・伊佐教育事務所による学校体育に関する学校訪問の推進

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

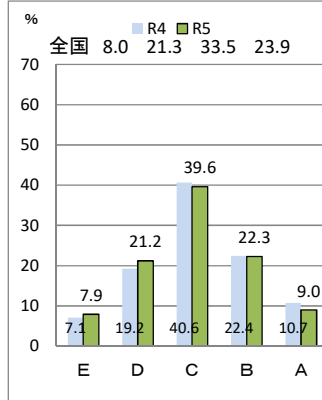
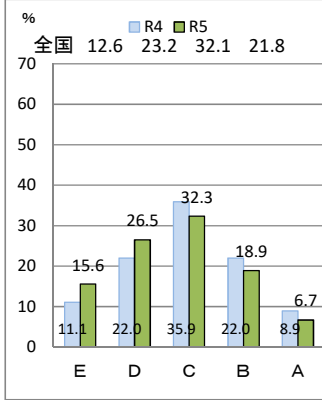
鹿屋市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

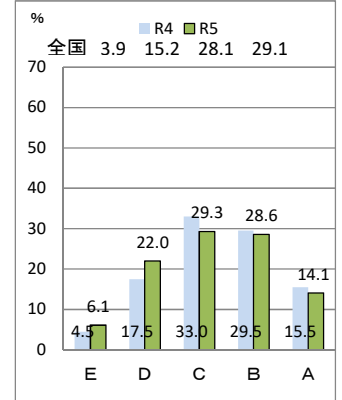
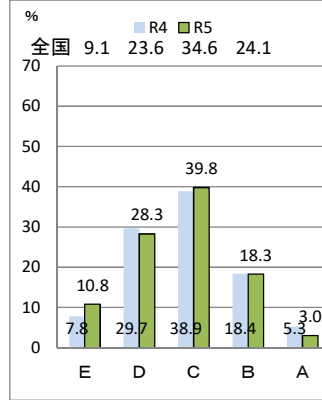
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・昨年度に比べると男女ともに、A、B、Cの割合が減少していることに加え、男女ともに全国に比べてA、Bの割合が低い。
- ・E、Dの割合が男女ともに昨年度より増加し、男子の割合は、全国の割合に比べ3ポイント以上高い。
- ・男女ともに体力の底上げを図るため、体力の実態に基づいた授業改善や業間体育等の取組を充実させる必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・昨年度に比べると、男女ともにAの割合が減少し、Eの割合が増加している。
- ・全国と比べてもAの割合は、男子が-5.6ポイント、女子は-9.7ポイントであり、Dの割合は男子が+4.7ポイント、女子+6.8ポイントである。
- ・男女ともに上位層へ引き上げるため、運動への興味・関心を高めるための「楽しい保健体育の授業づくり」を進める必要がある。

【小学校 運動実施時間】

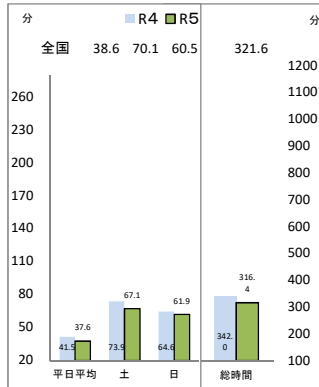
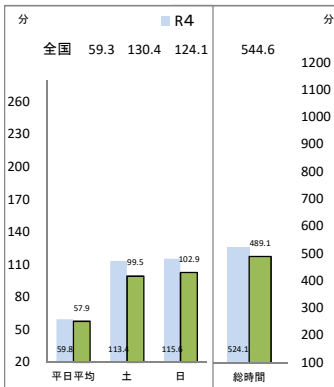
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

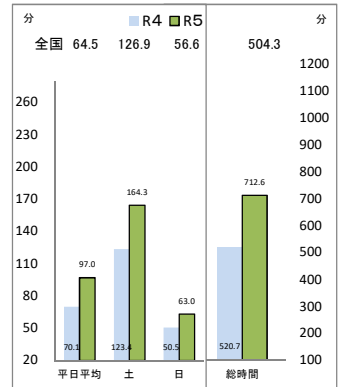
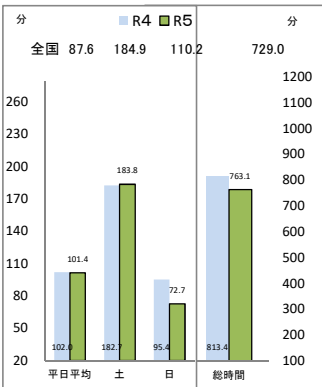
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、昨年度より男子が35分短く、女子も約26分短い。全国と比べると男子は約56分短く、女子はほとんど差がない。
- ・平日の運動時間は、男女ともに全国とほとんど差がないが、男子の土日の運動時間が全国に比べ、わずかに短い。
- ・土日の運動を促進するため、家庭への啓発が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男子は昨年度より50分短く、女子は191分長い。全国と比較すると男女ともに総運動時間は長い。
- ・平日の運動時間は、男女ともに全国よりわずかに長く、上回っているが、土日の運動時間は全国と比較すると男子はわずかに長く、女子はほとんど差がない。

【改善策】

【小学校】

- ・「体力アップ！チャレンジかごしま」や「一校一運動」を奨励することによる、児童の運動実施時間を確保

【中学校】

- ・「楽しい保健体育の授業づくり」を進める研修会の開催

【共通】

- ・学校の実態に基づいた「運動大好き」かごしまっ子”育成推進プラン”の作成と確実な実践・評価
- ・鹿屋体育大学とKKB鹿屋児島放送の共同研究により生まれた子どもの運動プログラム「Exseed」の年間を通じた取組の推進

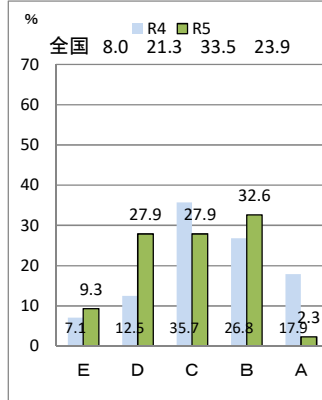
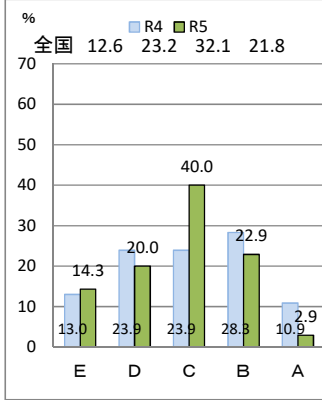
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

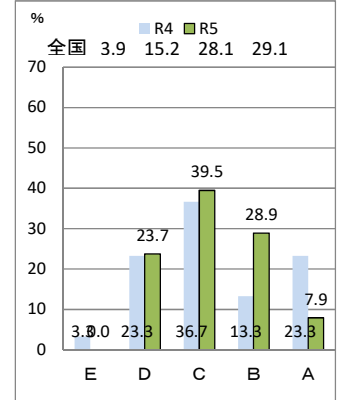
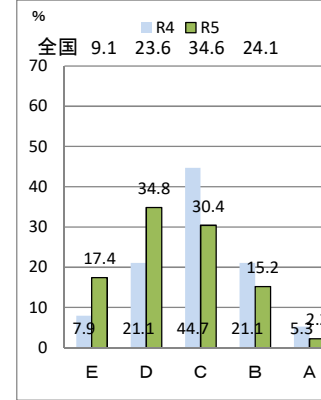
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が8ポイント、Bの割合が5.4ポイント減少し、Cの割合が16.1ポイント増加している。
- ・女子はAの割合が15.6ポイント減少し、Dの割合が15.4ポイント増加している。
- ・男女とも、Aの割合が昨年度より少なくなり、全国と比較しても差が大きい。C、Bの児童をそれぞれB、Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はA、B、Cの割合が減少し、Dの割合が13.7ポイント、Eの割合が9.5ポイント増加している。DとEの割合が半分を占める。
- ・女子はBの割合が15.6ポイント増加し、Aの割合が15.4ポイント減少している。
- ・男子はD、Eの割合が多いため、それぞれC、Dへと引き上げる取組が必要である。
- ・女子はB、Cの生徒を、それぞれA、Bへ引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

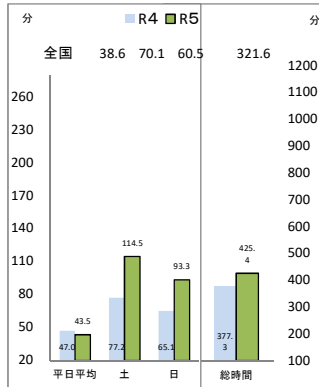
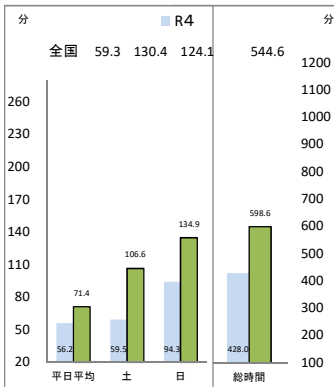
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



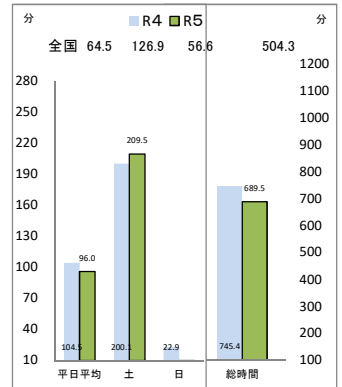
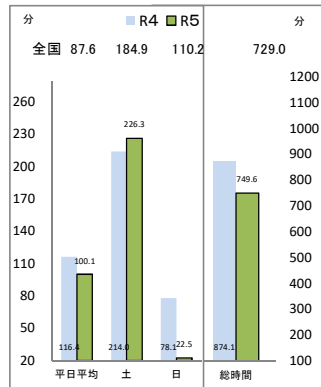
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女とも長い。特に女子は100時間以上も長い結果であった。
- ・土・日曜日でも、全国平均と比較して男女ともおおむね長い傾向にあり、男子の土曜日のみわずかに短い結果であった。
- ・平日の運動時間は、全国平均と比較して男子はわずかに長く、女子はほとんど差がなかった。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が長く、女子がわずかに長い結果であった。
- ・男女とも、土曜日の運動時間が全国平均と比べて長く、日曜日は短い。
- ・平日の運動時間は、全国平均と比較して男子はほとんど差がなく、女子はわずかに長い。

【改善策】

【小学校】

- ・課題を的確に把握し、計画的な体力・運動能力の向上に取り組むとともに、児童自らが体力向上に取り組める場の設定や意欲の向上を図る。

【中学校】

- ・体育的行事を核として、生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、運動習慣を育成する年間を通した体力向上策を推進する。

【共通、その他】

- ・鹿屋体育大学と連携した、体育授業における教員の技術指導向上と、体力向上に関する教員研修を充実させる。

- ・ICT機器を効果的に活用した体育授業改善を行う。

- ・「一校一運動」の推進、家庭や地域と連携した「一家庭一運動」等の推進による運動習慣育成に取り組む。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

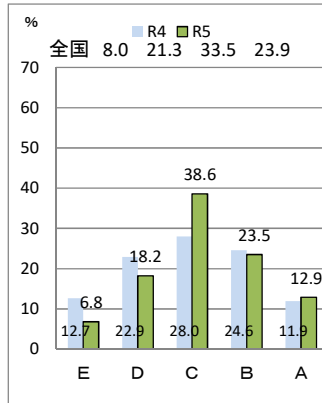
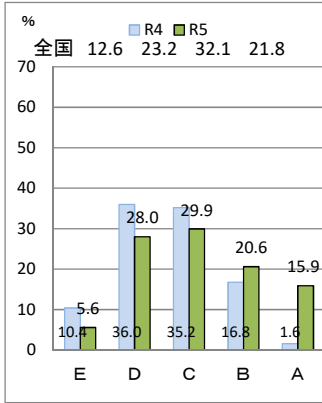
豊後市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

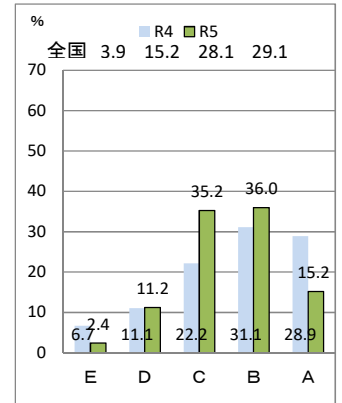
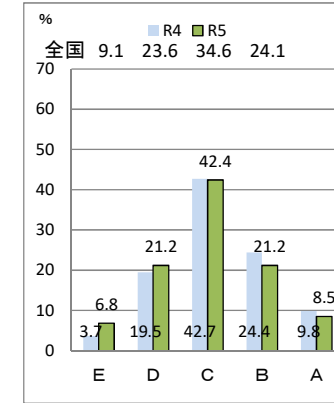
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

〈現状及び課題〉

- ・男子はA層とB層が増加が見られる結果となった。全国平均以上の種目が7/9種目であり、県平均も上回っている。
- ・反復横跳び(敏捷性)が全国・県共に下回っており課題である。
- ・女子はC層が増加し、全体的にはD-E層が減少している。全国以上の種目が5/9種目があり、県平均も上回っている。
- ・上体起こし・50m走が全国平均を大きく下回る状態であり、筋力(筋持久力)とスピード性が課題である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、A-C層の減少となり、E層の増加となった。全国平均以上の種目が6/9種目あり、県平均以上の種目が8/9種目ある。
- ・握力と50m走が全国平均よりも3ポイント低く、筋力とスピードに課題がある。
- ・女子はA・E層の大幅な減少と、C-B層の増加が見られる。全国平均以上の種目が4/9種目あり、県平均以上の種目が8/9種目ある。
- ・特に握力においては、全国よりも5ポイント以上低い結果となった。長座体前屈においても全国を下回っており、柔軟性も課題がある。

【小学校 運動実施時間】

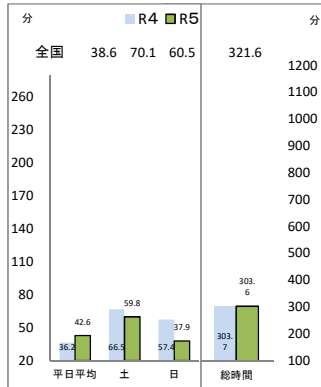
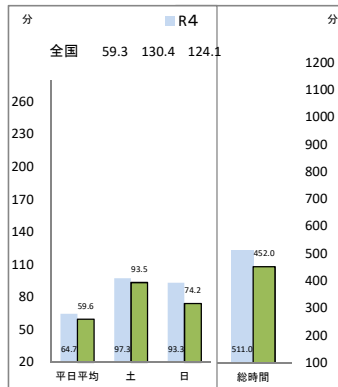
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

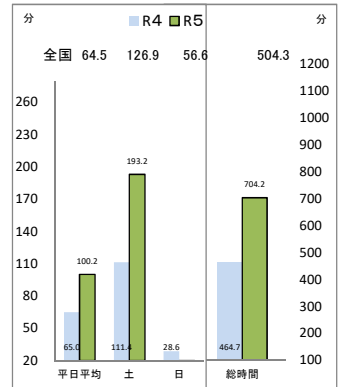
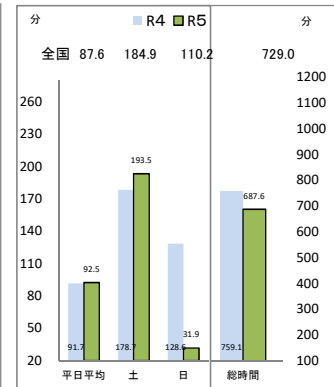
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は総時間が減少し、週末(特に日曜日)の運動時間が減少している。全国と比較すると、週末の運動時間は50分ほど少ない。県と比較しても50分ほど少なくなっている。
- ・女子は平日の運動時間の増加がみられるが、男子同様に週末の運動時間に減少が見られる。全国と比較すると週末の運動時間は30分ほど少なく、県と比較しても20分ほど少なくなっている。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年度との比較すると日曜日の運動時間が大幅に減少している。
- ・女子は、全体的に運動時間が大幅に増加している。
- ・中学校では部活動による運動時間がほとんどを占めているが、水曜日(一部活動デー)と日曜日の運動時間が明らかに少ない結果となった。日曜日については土日のどちらかを休みとするきまりが徹底されている結果である。

【改善策】

- ・各学校での実態分析を確実にし、自校の実態や課題を明確にし、課題意識をもって学校全体の課題と個別の課題を分けて取組を充実させる。
- ・体育・保健体育の授業実践の中で、体づくりを目指すプログラム等の積極的な活用や、学校の実態(結果からの分析)に応じた体力・筋力の向上の実践を図りながら、ICTの活用や学び合い等を取り入れた体育・保健体育となるような授業改善を目指す。
- ・児童生徒の身体活動時間の確保や望ましい運動習慣の形成を目指し、客観的に振り返りができるよう「体力ナビ」の活用等による見える化を促し、児童生徒の体力・運動能力や健康への関心を高めるなど、自ら進んで運動に取り組む習慣づくりを目指す。
- ・体を動かす喜びを感じられるよう一校一運動の充実を推進し、更に、家庭と一校一運動を連携により、自宅でも体を動かす喜びを感じ、称賛の場をなるべく多く設定することで体を動かす喜びを培う機会を増やす。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

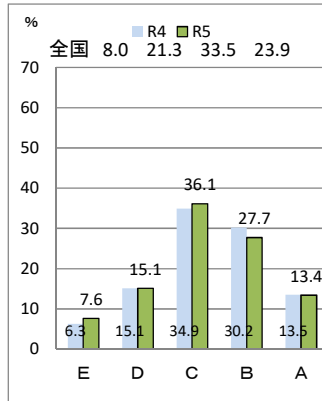
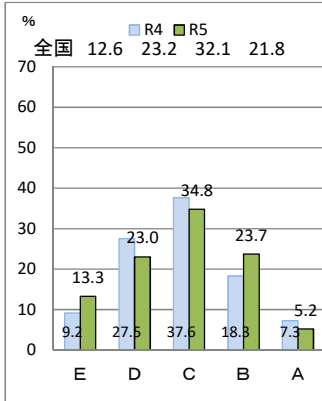
志布志市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

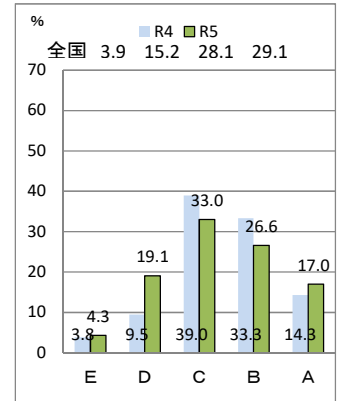
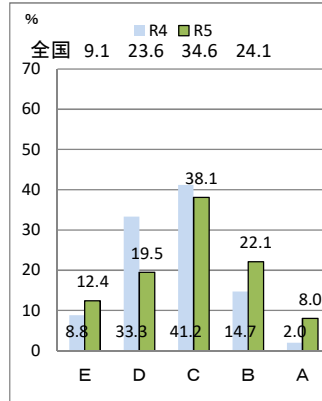
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、C、Dの児童の割合が令和4年度よりも減少し、Bの児童の割合が増加している。
- ・女子は、Bの児童の割合が減少し、CとEの児童の割合が増加している。体力合計点は全国や県を上回っている。
- ・令和4年度と比較すると、体力総合表における割合の分布状況は大きく変化していないことから、今後もC、D、Eの児童の体力高める取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、A、Bの生徒の割合が令和4年度よりも大幅に増加し、C、Dの生徒の割合が減少していることから、全体的に体力が底上げされていると考えられる。
- ・女子は、B、Cの生徒の割合が令和4年度よりも減少し、DやEの割合の生徒が増加している。全体的に体力が低下傾向にあると考えられる。
- ・令和4年度と比較すると、特に女子に関しては、体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、体力向上への取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

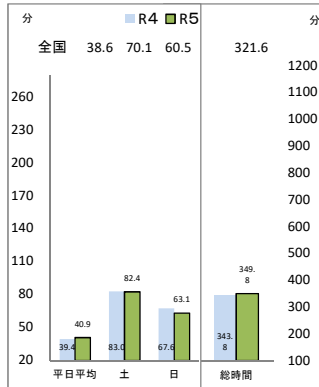
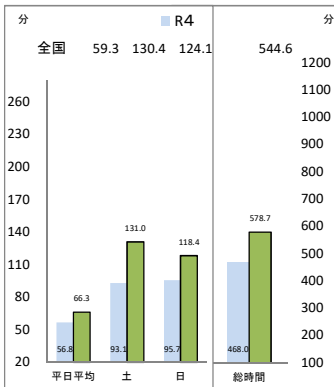
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



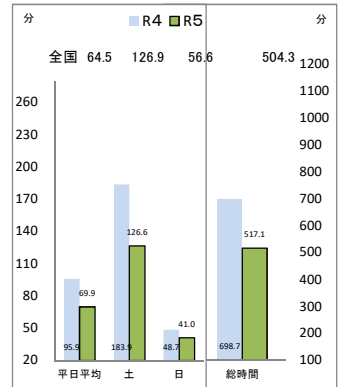
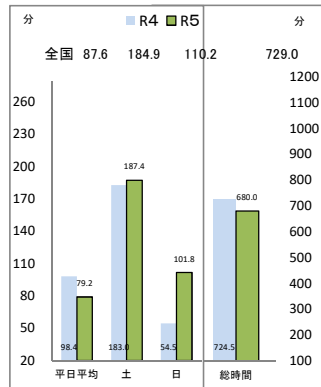
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、令和4年度と比較すると、全体的に運動実施時間が増加している。1週間の総運動時間においても長くなっている。
- ・女子は、令和4年度と比較すると、平日平均、週末、総時間ともにほとんど変化がみられない。
- ・男子、女子ともに、全国と比較してもほとんど差がないため、今後も運動の習慣化を図っていく必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、令和4年度と比較すると、全体的にはあまり変化が見られないが、土日の運動時間は長くなっている。
- ・女子は、令和4年度と比較すると、全体的に運動実施時間が減少している。1週間の総運動時間においても短くなっている。
- ・令和4年度と比較すると、特に女子に関しては、運動時間の確保に向けた取組が必要である。

【改善策】

- ・体育、保健体育の授業においては、体育主任等研修会などを活用して、児童生徒が楽しさや喜びを味わえるような工夫、授業改善を行っていくことが必要である。
- ・児童生徒が運動と健康との関係性を深く理解し、より実生活に生かすことができるようにするために、運動領域と保健領域、体育分野と保健分野との一層の関連を図った指導の充実を図っていく。
- ・各学校の「運動大好き“かごしまっ子”育成プラン」に基づいた取組や「チャレンジかごしま」における全学校、全学級への取組を推進していく。
- ・体力向上アドバイザー(大学講師等)の指導助言をもとに体力向上策を検討し、今後も体力向上へ向けた取組を市全体で取り組んでいく。
- ・学校だより、学級通信の配布や講演会の実施、家庭でできる取組の紹介等により、保護者、教職員、児童生徒が情報を共有し、生活習慣の改善や運動の習慣化を図っていくことができようとする。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

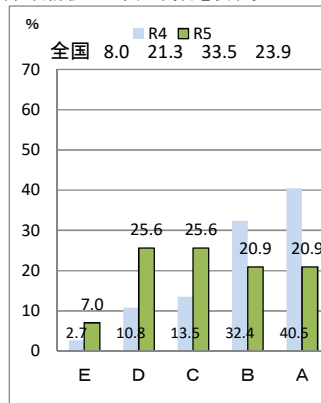
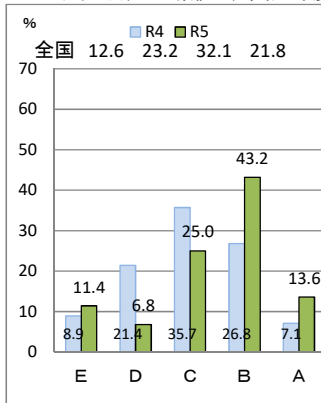
大崎町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

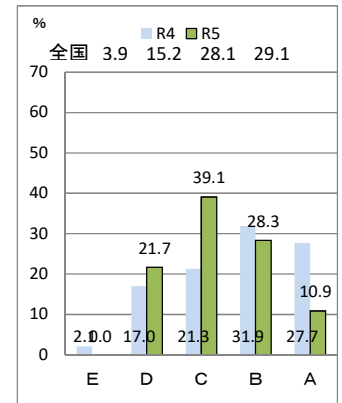
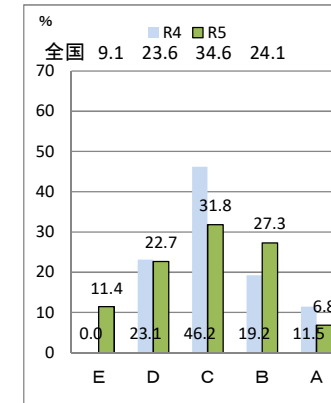
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、令和4年度と比較し、E合計の割合が12.1ポイント減少している。全体的に向上が見られるが、今後も全体的に1段階上げる取組の工夫が必要である。
- ・女子は令和4年度と比較し、D、E合計の割合が19.1ポイント増加している。今後、さらに改善に向けて継続した取組や働き掛けが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は令和4年度と比較し、D、E合計の割合が11ポイント増加している。D、Eの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるための支援が必要である。
- ・女子は令和4年度と比較し、D、E合計の割合が2.6ポイント増加している。全体的に1段階上げる取組の工夫が必要である。

【小学校 運動実施時間】

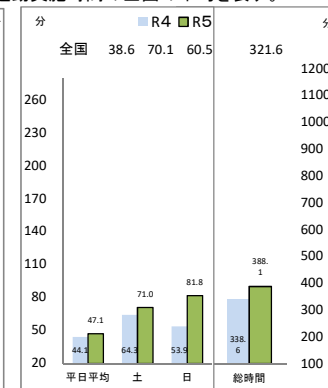
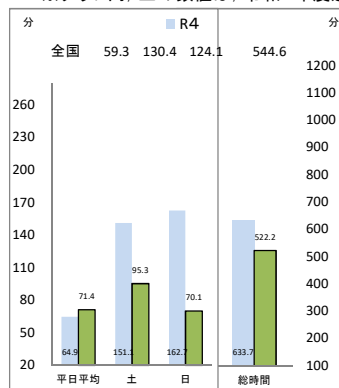
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



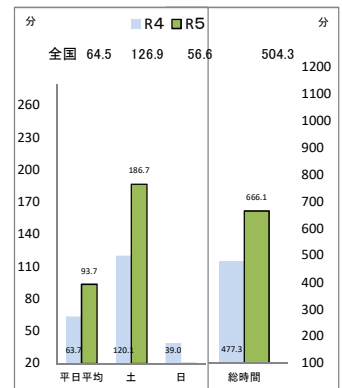
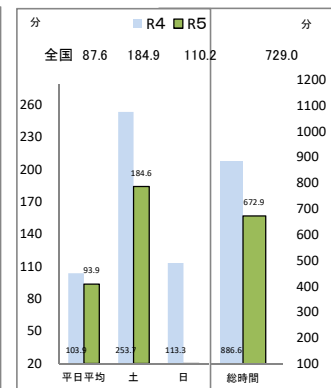
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、平日や土日も含め、運動時間が短くなっている。
- ・女子は、平日の平均時間と総運動時間が増加している。
- ・男子は、土日の運動量が全国に比べ、低くなっている。家庭における運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、全て昨年度より減少し、全国平均並みである。
- ・女子は、平日や土曜日の運動時間が増加し、全国平均も上回っている。
- ・男女ともに、日曜日の運動量が減少している。

【改善策】

【小学校】

- ・運動への興味・関心を維持・増加させる取組の継続

【中学校】

- ・生徒が動きの高まりを実感する授業改善、運動習慣の改善へつなげる指導の工夫

【共通、その他】

- ・各家庭へ、1km～500mは歩いて登下校を奨励
- ・町の広報誌で体力の現状と体力向上に向けた取組を掲載
- ・「チャレンジかごしま」への継続的な取組の指導

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

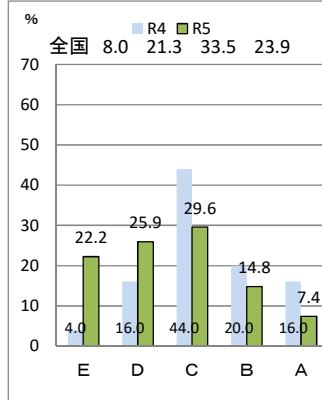
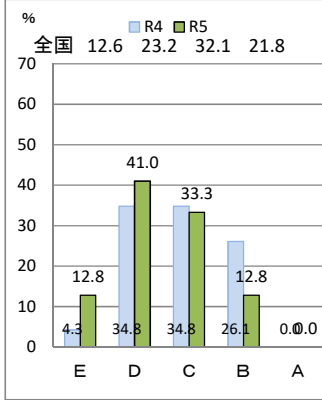
東串良町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

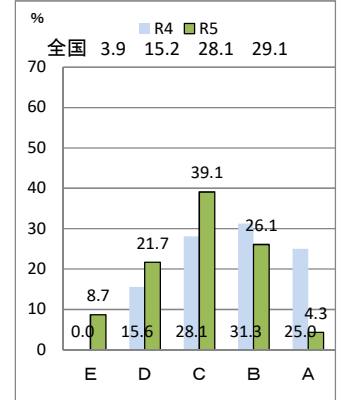
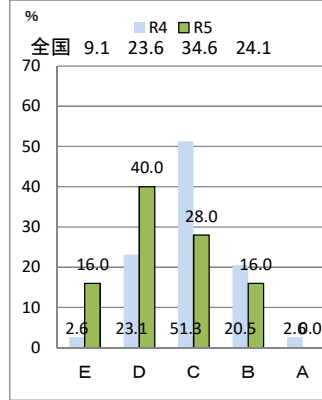
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、E、Dの割合がそれぞれ8.5ポイント、6.2ポイント増加し、Bの割合が13.3ポイント減少した。Aの割合は前年度と変わらず0%であった。
- ・女子は、E、Dの割合がそれぞれ18.2ポイント、9.9ポイント増加し、B、Aの割合がそれぞれ5.2ポイント、8.6ポイント減少した。
- ・男女とも、前年度と比べ下位層の割合が増加し、上位層の割合が減少する結果となった。運動への関心を高め、体力を底上げしていく必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、E、Dの割合がそれぞれ13.4ポイント、16.9ポイント増加し、B、Aの割合がそれぞれ4.5ポイント、2.6ポイント減少した。
- ・女子は、E、Dの割合がそれぞれ8.7ポイント、6.1ポイント増加し、B、Aの割合がそれぞれ5.2ポイント、20.7ポイント減少した。
- ・小学校と同様、前年度と比べ下位層の割合が増加し、上位層の割合が減少する結果となった。意識的に体力を底上げしていく必要がある。

【小学校 運動実施時間】

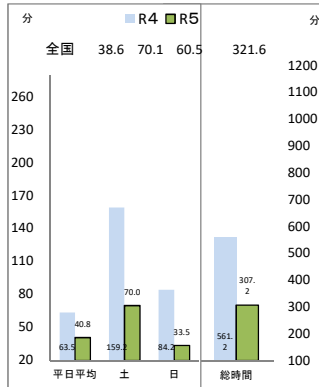
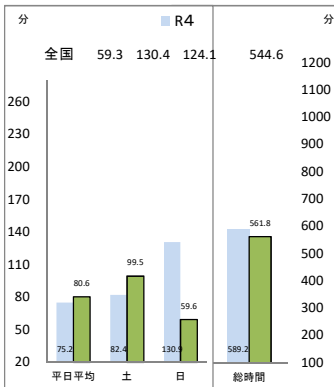
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



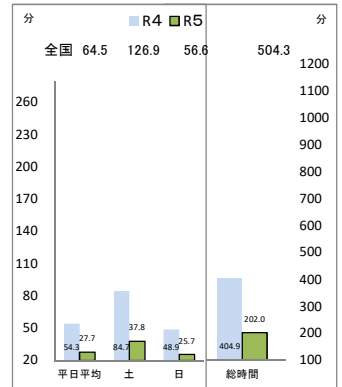
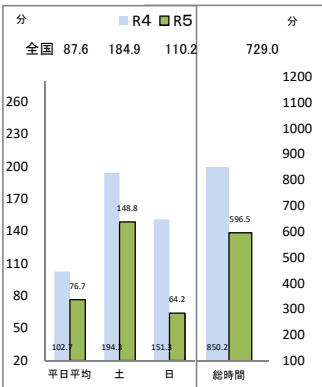
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女とも「ほとんど差が見られない」という結果であった。
- ・男子は、平日は全国平均より「わずかに長い」ものの、土日は「短い」という結果であった。女子は、日曜日が「わずかに短い」という結果であった。
- ・特に女子は前年度と比べると、運動時間が「短く」なっている。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女とも「短い」という結果となった。
- ・平日平均、土、日、総時間、いずれも前年度と比較すると、総じて「短い」という結果となった。
- ・女子については、前年度と比べても全国と比べても課題であり、運動できる機会や場所の確保等が必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・「運動量の確保」を特に意識した教科体育の推進、体力テストの事前事後指導の徹底(練習及び複数回実施の推奨)

【中学校】

- ・導入時の補強運動等による「運動量の確保」を特に意識した教科体育及び運動部活動の推進、女子に特化して行う重点指導

【共通、その他】

- ・コロナ後の体力向上に関する意識の向上(保護者や地域への啓発)
- ・管理職研修会での継続的な啓発
- ・町PTA連絡協議会における小中一貫共通実践事項「歩育」の充実及び一層の推進

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

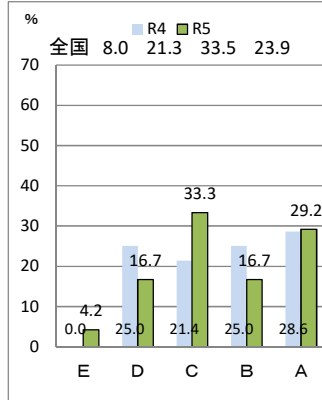
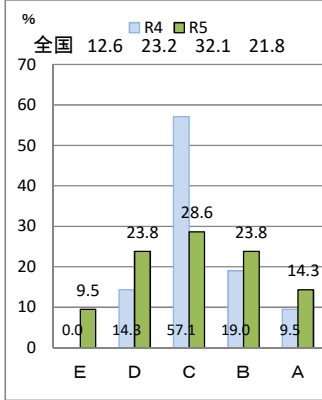
錦江町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

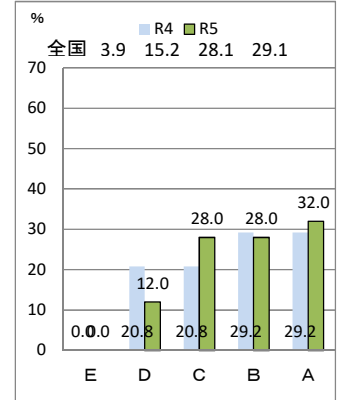
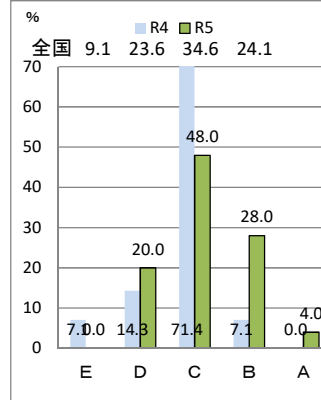
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、A、Bの割合が増加しているが、D、Eの割合も増加しているため、Cへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子は、B、Dの割合が減少し、C、Eの割合が増加しているため、Cの児童をB、Eの児童をDへ引き上げるための取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、C、Eの割合が減少し、A、B、Dの割合が増加しているが、Aの割合が少ないため、B、Cの生徒をA、Bへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子は、Aの割合が多い。また、Dの割合が減少し、Cの割合が7.2ポイント増加した。Cの生徒の体力及び運動への興味・関心を更に高め、A、Bへ引き上げるための取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

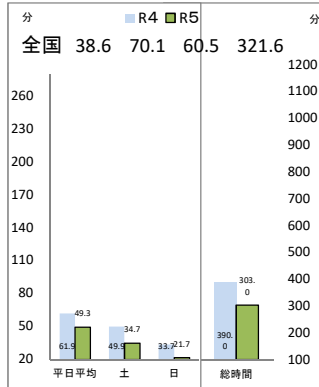
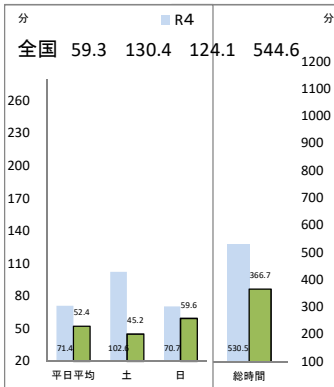
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。

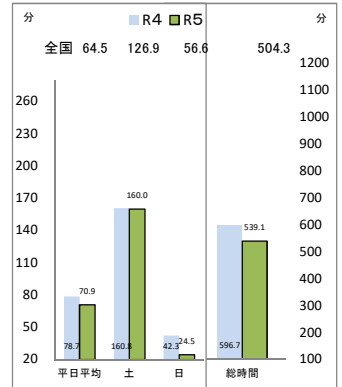
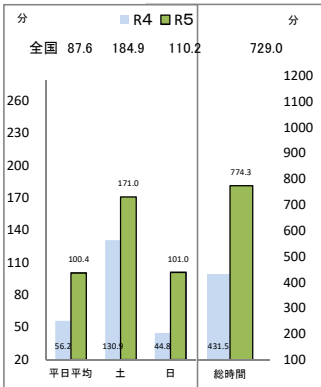


【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「短い」、女子が「ほとんど差がない」という結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して、男女とも大きな差は見られない。
- ・土・日曜日は、男女とも、全国平均より短くなっている。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「長い」、女子が「短い」という結果であった。
- ・平日及び土曜日は、全国平均と比較して男女とも運動時間に大きな差は見られない。
- ・日曜日は、全国平均と比較して、男子が「長い」、女子が「短い」という結果であった。

【改善策】

【小学校】

- ・「チャレンジかごしま」等への継続的な取組による、運動時間の確保

【中学校】

- ・体力の更なる向上をめざす教科体育や運動部活動における指導方法の工夫改善、日常生活での運動機会の充実

【共通・その他】

- ・各学校において「一校一運動」の設定
- ・児童生徒の実態を基にした体力向上に向けての具体策の検討及び共通実践の実施

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

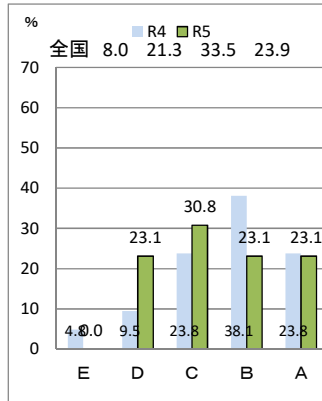
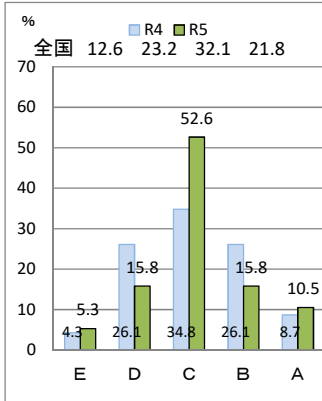
南大隅町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

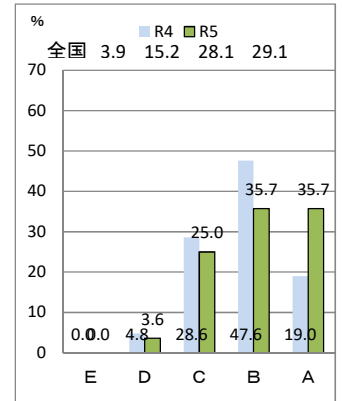
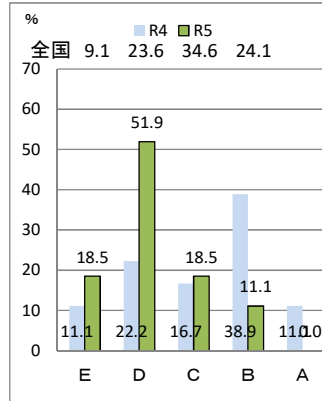
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子はBとDの割合が減った分、Cの割合が増加している。Aの割合も1.8ポイント増加している。
- ・女子は、Bの割合が減った分、CとDが増加している。Eの児童は、一人もいなかった。
- ・男女ともに、DやEの児童を更に引き上げる取組が必要と考える。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Bの割合が減った分、DやEの割合が増加している。Aの生徒は一人もおらず、体力の低下が顕著に表れている。
- ・女子は、Eの生徒が1人もおらず、Aの生徒が16.7ポイントも増加しており、体力の向上が顕著に見られる。
- ・男子の運動能力の底上げが急務である。男子は全国平均に比べ、体重が重く、肥満傾向にある。

【小学校 運動実施時間】

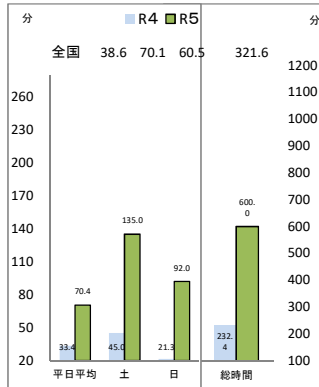
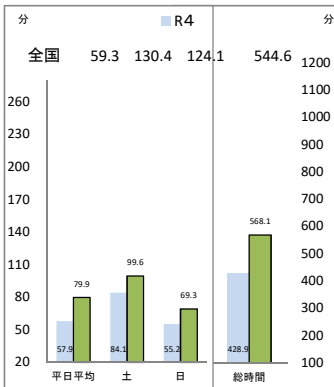
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

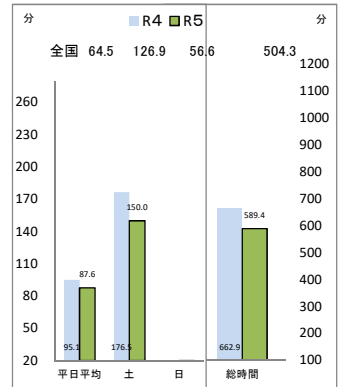
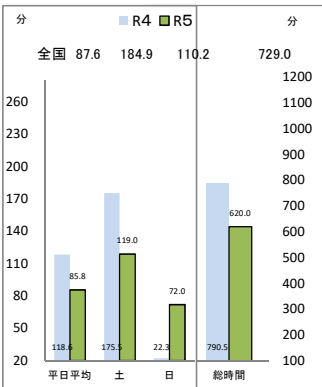
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、平日の運動時間は昨年度より増加している。
- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると男子が「わずかに長い」、女子が「長い」という結果であった。男女ともに、土日の運動時間が昨年度よりも長くなっている。

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、平日の運動時間と1週間の総運動時間は、昨年度より減少している。
- ・全国平均と比べると、女子の平日の運動時間は長くなっているが、それ以外は全国平均よりも短くなっている。

【改善策】

【小学校】

- ・学校における運動機会の確保と、運動に親しむ活動の計画的・継続的な実施(家庭での運動の習慣化につなげる手立て)

【中学校】

- ・部活動以外の運動機会の確保、運動の充実に向けた体育授業改善及び部活動の運営・指導の工夫改善のための研修の実施
- ・生活習慣の改善も含めた家庭への啓発活動

【共通、その他】

- ・調査結果分析に基づいた課題改善のための年間を通した運動の実施(一校一運動、体育授業導入時の運動等)

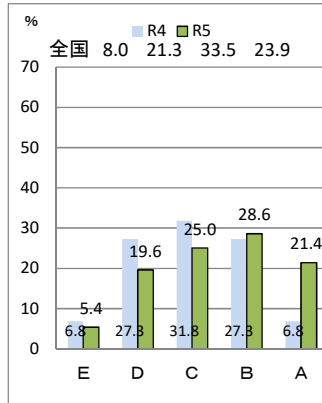
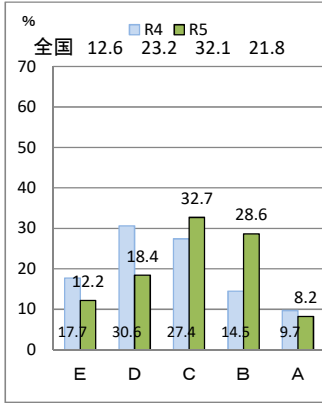
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

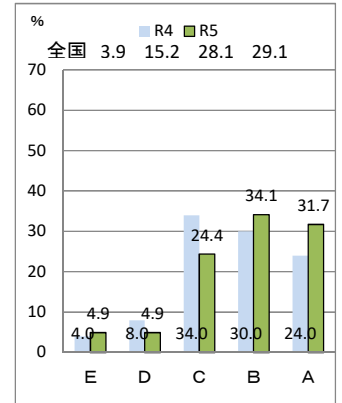
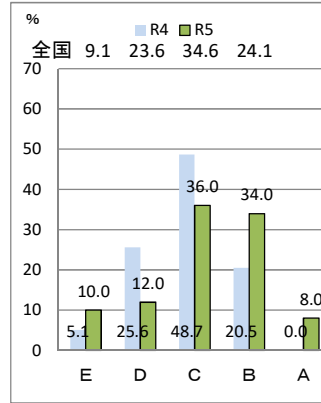
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〔現状及び課題〕

- ・小学生男子は、DEの割合が減少し、BCの割合が増加していることから、体力の総合評価は向上傾向にあると思われる。
- ・小学生女子は、CDEの割合が減少し、ABの割合が向上していることから、体力の総合評価は向上傾向にあると思われる。
- ・体力総合評価は向上傾向であるが、小学校男子は「握力」「ソフトボール投げ」、小学校女子は「握力」「上体起こし」が全国平均を下回る結果となった。

〔現状及び課題〕

- ・中学生男子は、ABの割合が合わせて21.5%増加している。
- ・中学生女子は、DCの割合が減少し、ABの割合が増加していることから、体力の総合評価は向上傾向にあると思われる。
- ・中学生男子は、Eの割合が約2倍に増加していることから、体力のある生徒とない生徒の差が広がっている傾向が推察される。
- ・体力総合評価は向上傾向であるが、中学校男子は「上体起こし」「ハンドボール投げ」、中学校女子は「上体起こし」「ハンドボール投げ」「持久走」が全国平均を下回る結果となった。

【小学校 運動実施時間】

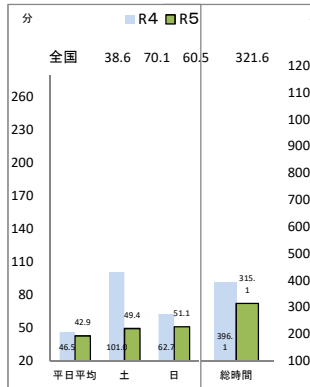
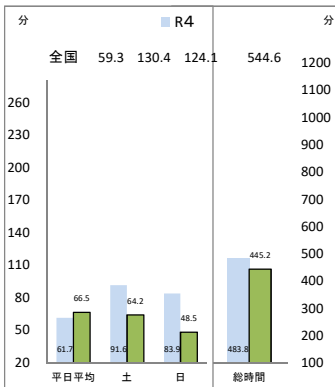
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



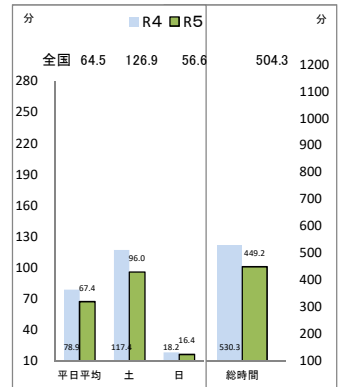
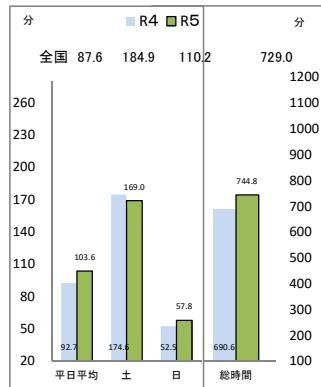
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〔現状及び課題〕

- ・体力総合評価は向上傾向であるが、運動実施時間は減少していることから質の高い運動が確保されていることが推察される。
- ・小学校男子は平日の運動実施時間は微増だが、男女ともに土日の運動実施時間が大幅に減少しており、日常的な運動の機会を確保・啓発していくことが重要である。
- ・全国と比較すると、小学校男女ともに運動時間が少ない。学校だけでなく家庭での運動する機会を確保していくことが望まれる。

〔現状及び課題〕

- ・体力総合評価は向上傾向であるが、運動実施時間は減少していることから質の高い運動が確保されていることが推察される。
- ・中学校男女ともに日曜日の運動時間が増加している。
- ・中学校男子は土曜日の運動時間が微減、女子は平日・土曜日の運動時間が減少している。特に女子は、学校における運動量を確保しつつ、家庭での運動量確保や運動の継続に対する啓発が課題である。

【改善策】

【小学校】

- ・体育の授業時における準備運動の質向上(ケガ防止や準備・補強運動のみではなく体力向上を目差した5分間運動など)の推進

【中学校】

- ・保健体育の授業時における個人・学校の課題となる運動の改善・工夫の推進

【共通・その他】

- ・チャレンジかごしまのより一層の取組推進
- ・朝の時間や休み時間を活用した外遊びの推進
- ・休日における運動やスポーツ体験を促すため、学校だよりやホームページ等での周知及び地域スポーツクラブ等との連携

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

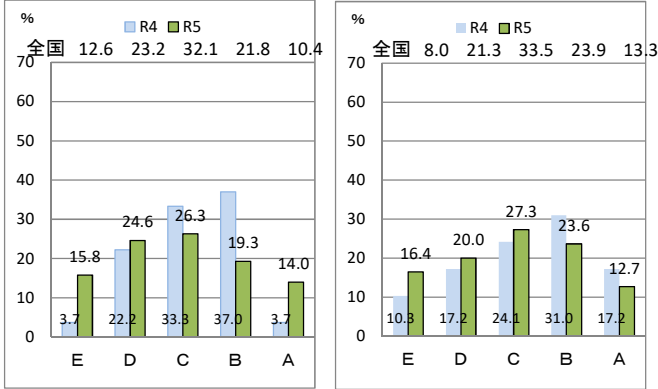
西之表市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

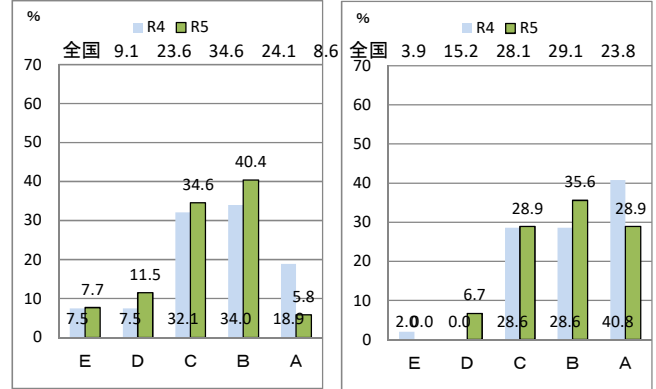
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が10.3ポイント増加し、Bの割合が17.7ポイント、Cの割合が7ポイント減少している。また、Eの割合が12.1ポイント増加した。
- ・女子は、Aの割合が4.5ポイント、Bの割合が7.4ポイント減少し、Dのポイントが2.8ポイント、Eの割合が6.1ポイント増加している。
- ・男女ともにEの割合が全国平均を上回っている。男女ともにD・Eの児童の体力及び運動への興味・関心を高めていく必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が13.1ポイント減少し、B~Dの割合が2.5~6.4ポイント増加している。
- ・女子はAの割合が11.9ポイント減少し、Bの割合が7ポイント、Dの割合が6.7ポイント増加している。
- ・男女ともにAの割合が減少したが、男子はBの割合、女子はA~Cの割合が全国平均を上回っている。D・Eの生徒をCに、Cの生徒をA・Bに引き上げるための支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

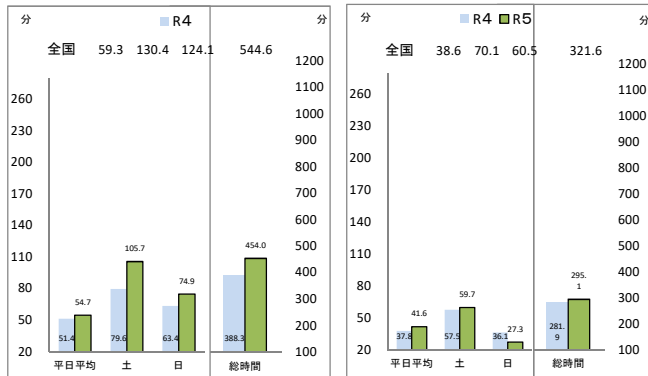
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

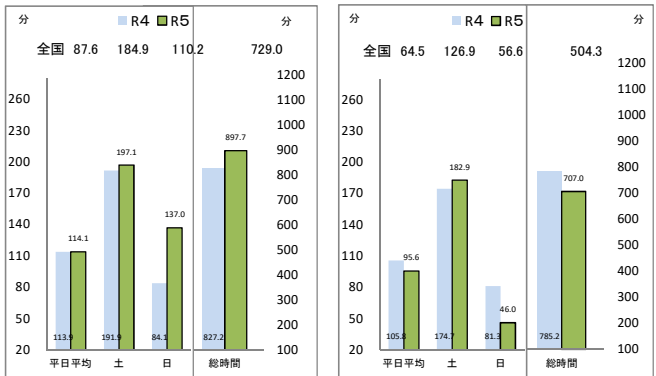
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、前年より増加しているが、全国平均と比較すると、男子が「短い」女子が「わずかに短い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男女ともに大きな差はみられなかった。
- ・土・日曜日は、女子は全国平均と比較してわずかに短い、男子は短い。
- ・男女ともに週休日における運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男女ともに「短い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して、男女ともにわずかに長かった。
- ・土・日曜日は、男子は長い、女子はほとんど差がみられなかった。
- ・男女ともに運動習慣がしっかり身についている。

【改善策】

【小学校】

- ・「1校1運動」、「体力づくりカード」、「チャレンジかごしま」を活用した運動の実践による児童の運動実施時間の確保

【中学校】

- ・体力・運動能力テストの結果をふまえた個人の目標設定と取組への声かけや見取り、教科体育における運動時間の確保、「チャレンジかごしま」への参加

【共通、その他】

- ・タブレット端末で自己分析を行うなど、ICT機器の効果的な活用
- ・PTAや家庭教育学級での運動に関する研修の実施や、運動の日常化に向けた休日の運動及び外遊びに関する家庭との連携
- ・地域スポーツ大会等への積極的参加の促進、スポーツ行事や運動関連の情報発信による広報・啓発

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

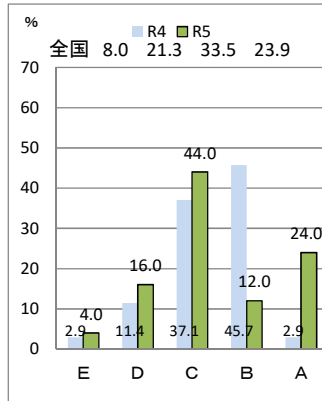
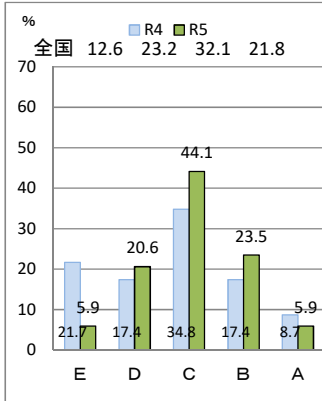
中種子町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

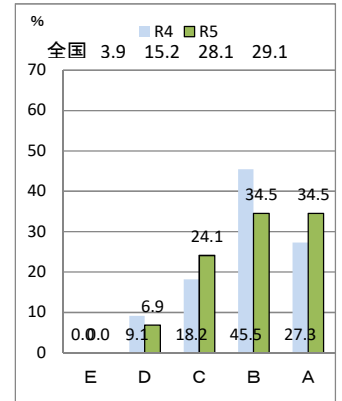
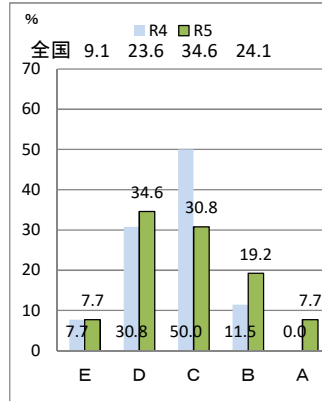
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

・男子はEの割合が15.8ポイント減少し、D、C、Bの割合がそれぞれ増加しており、全体的な体力の向上が伺える。補強が必要な項目を分析し、C、Bの児童をB、Aに引き上げる取組が必要である。
・女子はAの割合が21.1ポイント増加している一方、Bの割合が33.7ポイント減少している。二極化が進まないように、個に応じた指導の必要がある。

〈現状及び課題〉

・男子はCの割合が19.2ポイント減少し、B、Aの割合が増加しているが、B、Aの割合が全国を下回っている現状には変わらない。D、Cの生徒をB、Aへ引き上げる取組が必要である。
・女子はAの割合が7.2ポイント増加しているが、B、Aを合わせた割合が3.8ポイント減少している。CをBに引き上げる具体的な取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

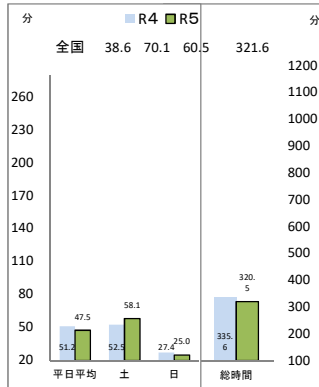
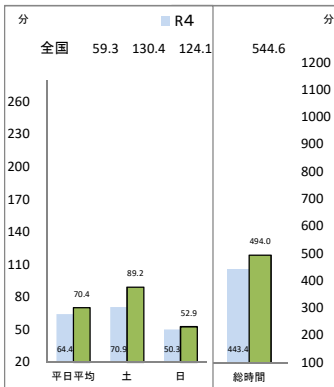
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

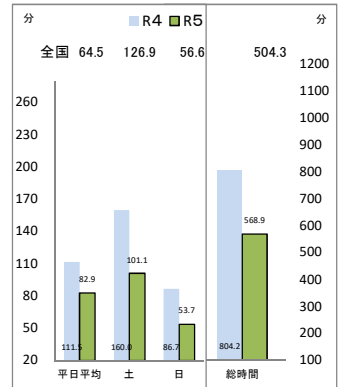
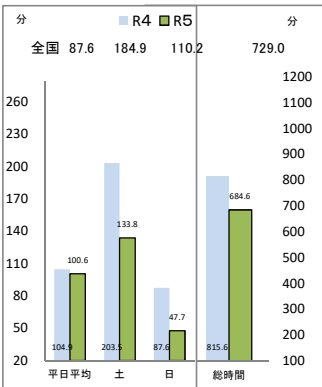
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「短い」女子が「ほとんど差がない」結果であった。
・平日は、全国平均と比較して男女ともほとんど差はみられなかった。
・土曜日は、全国平均と比較して男子は短い女子はほとんど差はみられなかった。日曜日は、全国平均と比較して男女とも短かった。

〈現状及び課題〉

・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子は「ほとんど差がない」が、女子は「短い」結果であった。
・平日は、全国平均と比較して男女ともほとんど差はみられなかった。
・日曜日は、男女とも全国平均と比較してほとんど差はみられなかったが、土曜日男子がわずかに短く、女子が短かった。

【改善策】

【小学校】

・親子で取り組む「一家庭一運動」の取組推進等による家庭・地域との連携強化

【中学校】

・自ら考え、行動する生徒主体の指導の工夫

【共通】

・調査結果の分析に基づく、個に応じた指導の推進

・1単位時間の学習過程の作成や補強運動の取り入れ等による教科体育の充実

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

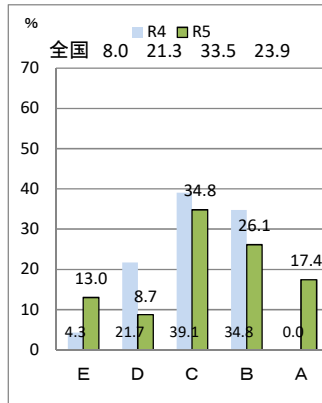
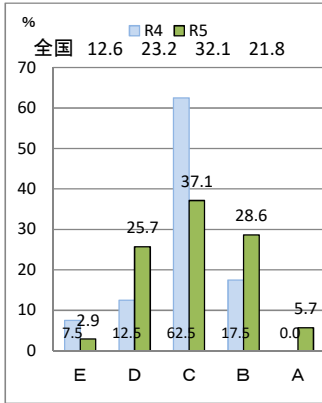
南種子町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

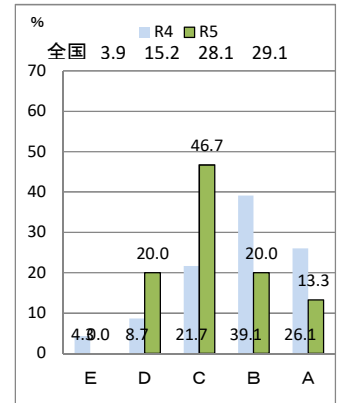
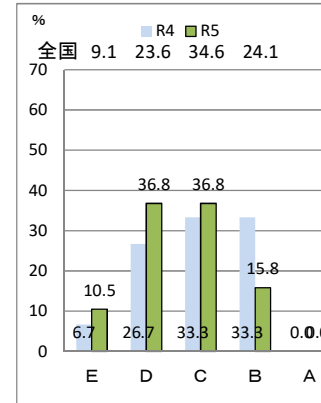
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子はCの割合が25.4ポイント減少し、Bの割合が11.1ポイント増加している。
- ・女子はEの割合が8.7ポイント増加し、Aの割合が17.4ポイント増加し、二極化が見られる。
- ・男女とも、E、Dの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、児童を継続的に指導・支援し、A・Bへ高めていく必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子はEの割合が3.8ポイント増加し、Bの割合が17.5ポイント減少している。E、Dの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、C、Bへの引き上げる取組が必要である。
- ・女子はEの割合が4.3ポイント減少し、Aの割合が12.8ポイント減少している。D、Cの生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、A、Bへ引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

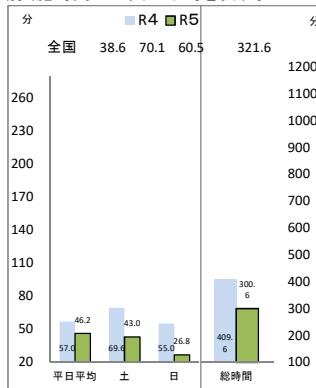
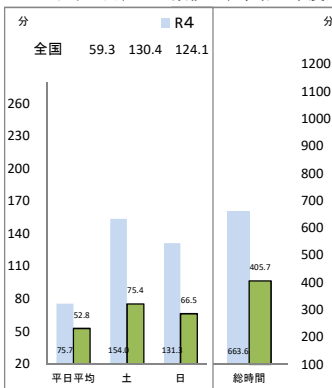
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



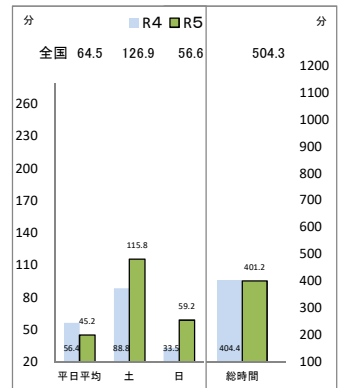
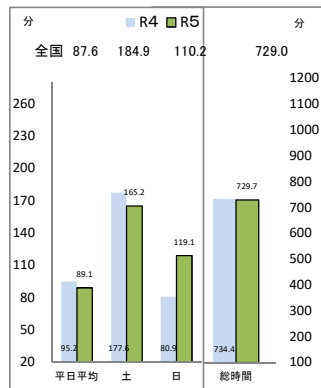
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子は「短い」、女子は「ほとんど差がない」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男子は「わずかに短い」、女子は「わずかに長い」結果であった。
- ・土・日曜日は、全国平均と比較して男女とも短くなっている。
- ・週休日における運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「ほとんど差がない」、女子が「短い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男子は「短い」、女子が「ほとんど差がない」結果であった。
- ・土・日曜日は、男女ともに、全国平均に「ほとんど差がない」となっている。
- ・男女ともに運動時間の増加に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・「チャレンジかごしま」一校一運動への積極的な取組を推進

【中学校】

- ・「チャレンジかごしま」や単元指導・朝の活動を通して生徒自らが運動に取り組もうとする姿勢の醸成
- ・体力・運動能力を高めるため、体育授業における指導方法改善

【共通、その他】

- ・児童生徒の運動量を確保する授業改善
- ・児童生徒の個に応じた運動に関する目標と解決に向けた取組の設定
- ・週末も体を動かす雰囲気醸成するための家庭との連携を充実させる。(家庭教育学級、学校保健委員会、PTAの活用等)

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

屋久島町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】 〔男子〕

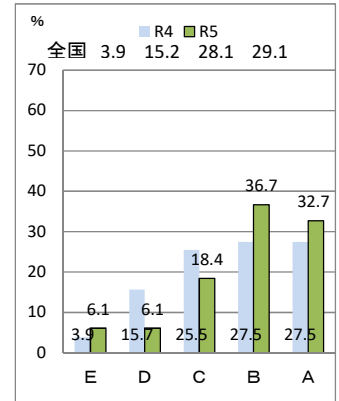
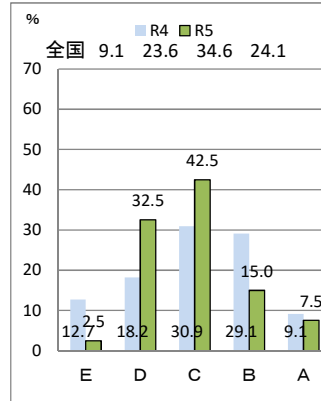
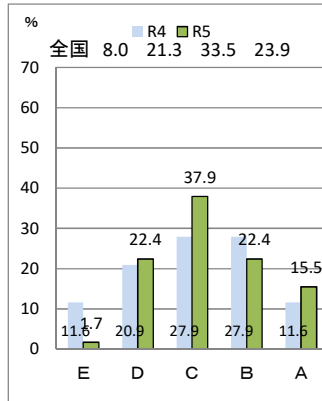
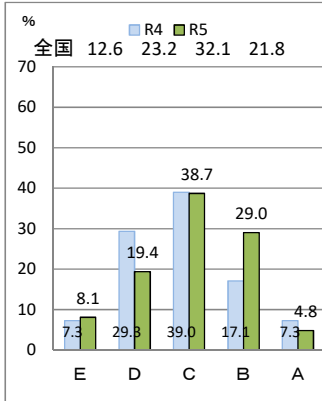
〔女子〕

ka

【中学校 体力総合評価】 〔男子〕

〔女子〕

※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年に比べDの割合が減少しており、Bの割合が大幅に増加(11.9ポイント)している。
- ・女子はEのポイントが大幅(約10ポイント)に減少し、逆にCの割合が10ポイント増加した。また、Aの児童数も増加(3.9ポイント)している。
- ・各結果を基に、今後教科体育等を通じて重点的に取り組む種目を明らかにし、町全体での引き上げを目指す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、A、Bの割合が減少するとともに、Cの割合が11.6ポイント、Dの割合が14.3ポイント増加した。C・Dの割合が高く、今後運動の機会の確保や、運動への興味・関心を高めABへ引き上げる取組が必要である。
- ・女子は、全体の約70%をA・Bが占める結果となった。昨年度と比べ、更に体力の向上が伺える。E・Dの合計割合も昨年度を下回り、今後も教科体育等を充実させながら、運動習慣を身に付けさせる取組を継続す

【小学校 運動実施時間】 〔男子〕

〔女子〕

【中学校 運動実施時間】 〔男子〕

〔女子〕

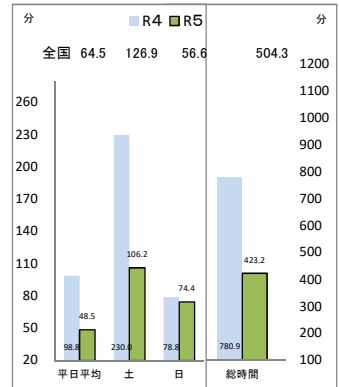
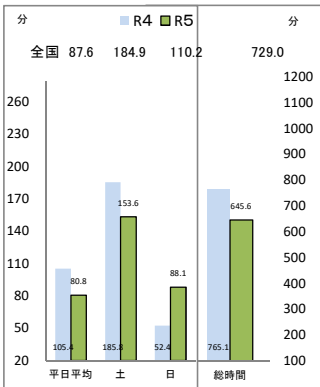
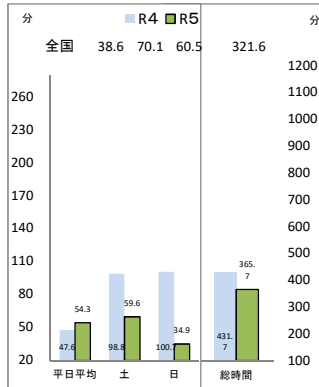
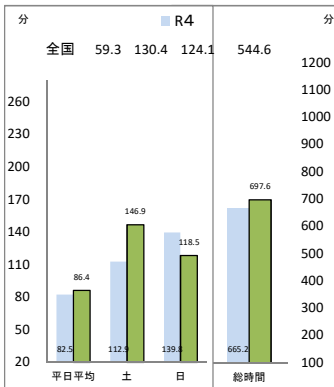
(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子の運動総時間は、昨年度を上回っており、全国平均と比較して、日曜日の運動量はわずかに下回ったものの、他の曜日は上回った。
- ・女子の運動時間は、全国平均と比較すると、土日は下回るものの、平日は上回った。しかし、昨年度と比較すると減少しており、今年度男子の結果との違いについて分析を行い、対策を行う必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、全国平均と比較して「ほとんど差がない」結果であった。
- ・女子の運動時間は、平日は「わずかに短い」結果であるが、総時間では234分短い結果となった。
- ・昨年度の子の結果と比べても、運動時間の減少が明らかであり、特に週休日の運動時間の確保に向けた手立てを講じていく必要がある。

【改善策】

【小学校】

- ・〇〇タイムや休み時間等を利用した屋久島チャレンジの継続した取組(体力アップ!チャレンジかごしま、屋久島1周マラソン、外遊び等)
- ・町行事(町小学校陸上記録会・町民体育祭・集落運動会・駅伝大会)と関連付けた取組

【中学校】

- ・部活動未所属者や吹奏楽部の運動時間確保に向けた取組の強化(生徒会主体の体力向上イベント等)

【共通】

- ・教科体育における十分な運動時間の確保及び運動の特性に応じた指導法の導入、課題種目強化のための補強運動の実施(年間を通して)

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

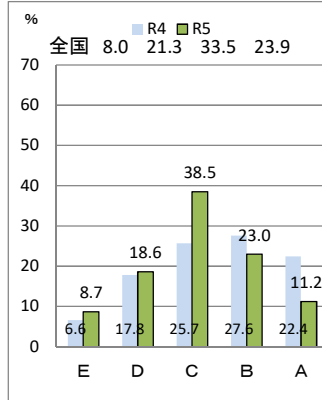
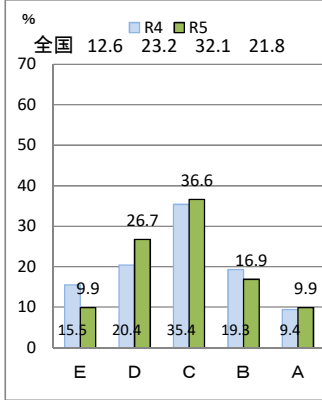
奄美市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

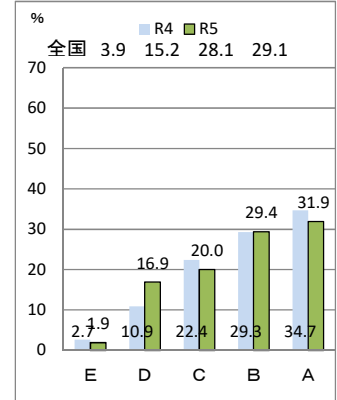
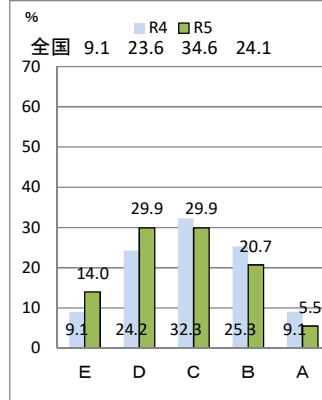
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はE+Dの割合は0.7ポイント増加し、Cの割合も1.2ポイント増加した。B+Aの割合は1.9ポイント減少した。
- ・女子はE+Dの割合が2.9ポイント増加し、Cの割合も12.8ポイント増加した。B+Aの割合は15.8ポイント減少した。
- ・男女とも、E+D、Cの割合が増加した。B+Aについては、男女とも減少し、特に女子の減少が大きかった。体力向上に向けて、教科体育を通した児童の運動に対する意欲を高める更なる取組の工夫が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はE+Dの割合が10.6ポイント増加し、Cの割合は、2.4ポイント減少した。B+Aの割合は8.2ポイント減少した。
- ・女子はE+Dの割合が5.2ポイント増加し、B+Aの割合は2.7ポイント減少した。
- ・男女ともE+Dの割合が増加し、B+Aの割合が減少した。特に男子のE+Dの割合増、B+Aの割合減が大きかった。生徒の運動に対する意欲を高め、楽しく主体的に取り組むことができる授業づくりを目指していく必要がある。

【小学校 運動実施時間】

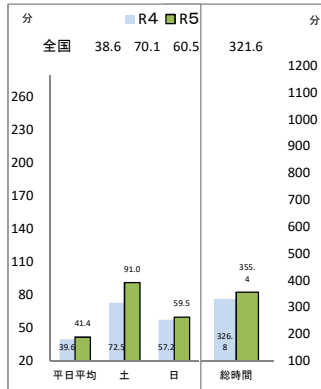
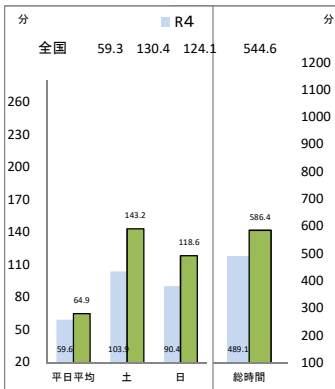
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



【中学校 運動実施時間】

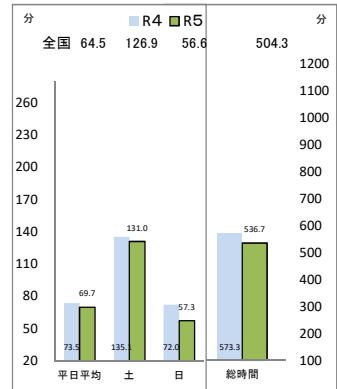
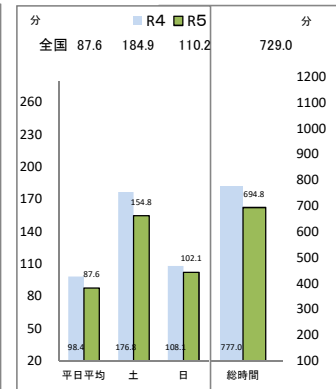
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子の平日平均及び土日の運動時間、総運動時間は、いずれも前回より上回り、総運動時間も全国平均より長く、上回った。
- ・女子の平日平均及び土日の運動時間、総運動時間は、いずれも前回より上回り、総運動時間も全国平均よりわずかに長く、上回った。
- ・今後もゲームやテレビ視聴の時間を減らすよう家庭や地域と連携し、外遊びを奨励していく必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子の平日平均及び土日の運動時間、総運動時間は、いずれも前回より下回ったが、総運動時間は、全国平均よりわずかに上回った。
- ・女子の平日平均及び土日の運動時間、総運動時間は、いずれも前回より上回り、総運動時間も全国平均より短く、下回った。
- ・生徒の運動時間を確保していけるように、家庭や地域と連携し、外遊びを奨励していく必要がある。

【改善策】

【小学校】

- ・各学校の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果に基づく実態把握と改善策への取組、体力向上推進会議及び小学校体育主任等研修会等での啓発

【中学校】

- ・「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」の共通理解と共通実践

【共通、その他】

- ・一校一運動の推進及び教科体育の充実(目標の明確化、山場の工夫、確かめ・見届けの徹底)
- ・奄美市体力向上推進会議において児童生徒の体力向上策の検討・実践及びPTA及び地域と協力した休日の運動・外遊びの奨励

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

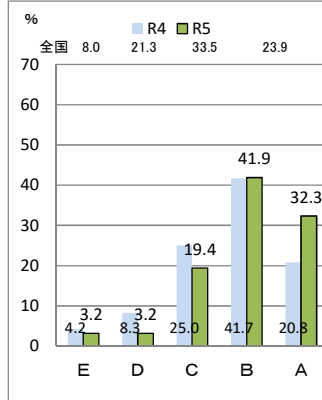
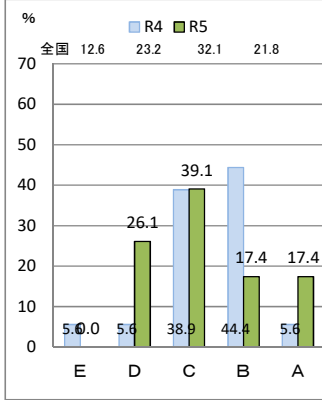
瀬戸内町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

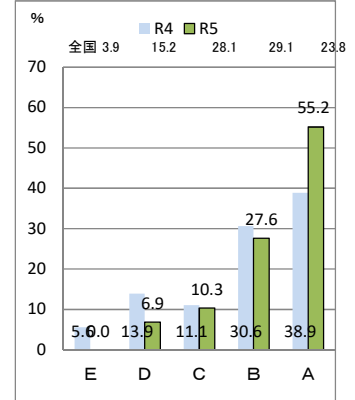
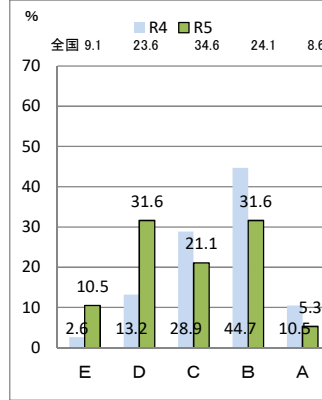
※グラフ内、上の数値は、令和4年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・小学校男子は、長座体前屈の数値が全国平均よりもわずかに低いものの、それ以外の全ての項目で全国平均値を上回っている。小学校女子は、全ての項目で全国平均値を上回っている。
- ・小学校男女共にすべての項目で県平均を上回っている。
- ・今後は、男女共に柔軟性を意識した取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・中学校男子は、「持久走」「20mシャトルラン」「50m走」に、中学校女子は、「50m走」に課題が見られる。
- ・今後は、男女共に走りに関する運動を重視した取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

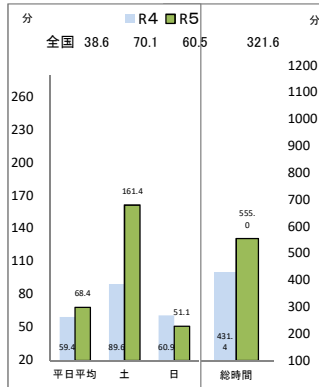
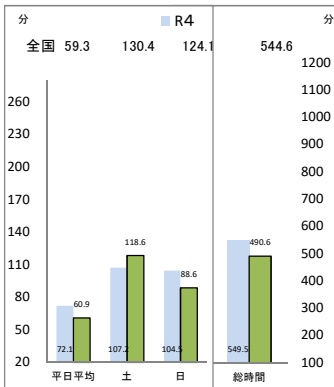
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和4年度運動実施時間の全国の平均を表す。



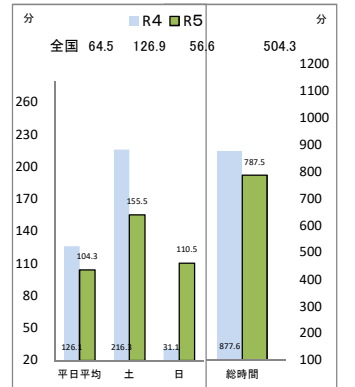
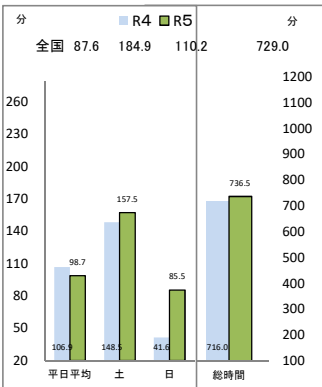
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、女子は大幅に、全国平均を上回っているが、男子は下回っている状況にある。
- ・運動が「好き」「やや好き」と回答した児童は男子で96%、女子で91.1%あった。運動が「好き」という児童の気持ちを大切にしながら、楽しみながら継続的に体力向上に繋がるような取組をしていく。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は男女共に、全国平均を上回っている状況にある。
- ・運動が「好き」「やや好き」と回答した生徒は男子で85%、女子で86.7%であった。運動が「好き」という児童の気持ちを大切にしながら、楽しみながら継続的に体力向上に繋がるような取組をしていく。

【改善策】

【小学校】

- ・「体力アップ！チャレンジかごしま」への積極的な取組など運動時間を確保することで、楽しみながら運動に取り組む児童を育成する。

【中学校】

- ・一校一運動や体力づくりタイム等の推進(運動実施時間の拡充、「体力アップ！チャレンジかごしま」への積極的な参加)

【共通、その他】

- ・PTAや家庭教育学級における運動習慣(運動経験)形成の重要性に対する啓発
- ・社会教育課との連携による幼少時における体力づくり教室「プレ・ゴールデンエイジ事業」の推進及び充実

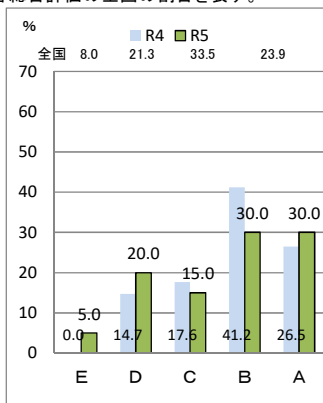
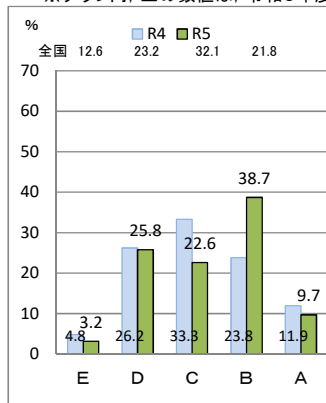
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

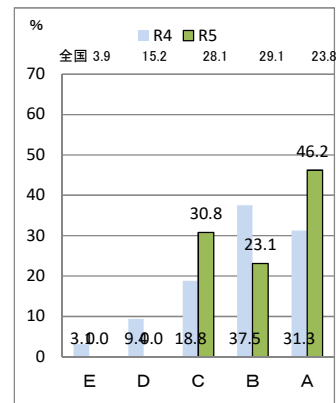
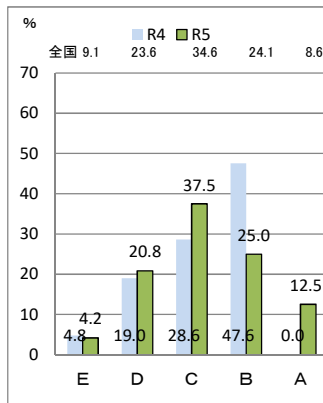
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子に総合評価の割合はほとんどが全国の割合を上回っており、体力・運動能力の向上が図られている。一方、女子はほとんどが全国の割合を下回っており、男女差が大きくなっている。
- ・課題となった敏捷性及柔軟性については、日常の運動遊びを充実させるなど家庭と連携した取組を工夫していく必要がある。
- ・男女ともに、「D、E」の割合は低いものの、今後も引き続き体力及び運動への興味・関心を高めるための取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・Aの割合について、男女ともに全国平均を上回ったが、女子が全国を大きく上回ったことから、運動能力や体力の底上げ・改善がなされている。
- ・課題であった持久力については、男女ともに全国・県を上回り、これまでの取組の効果が見られている。一方で、敏捷性(反復横跳び)については男女ともに課題が見られており、今後の更なる取組を充実させる必要がある。

【小学校 運動実施時間】

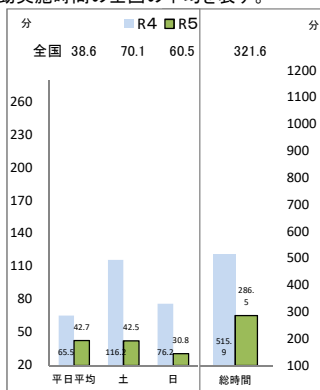
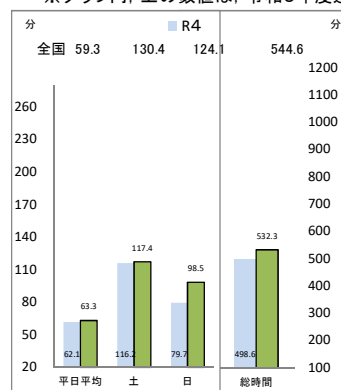
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



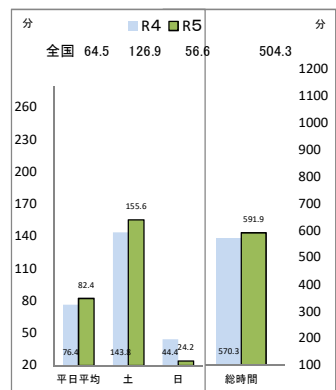
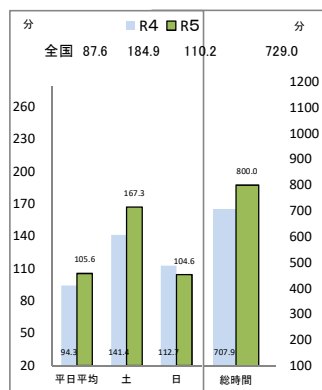
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・総運動時間は男子がすべての曜日において全国より「長い」が、反対に女子がすべての曜日において全国より「低い」状況となった。
- ・1週間ほとんど運動をしない女子が16.3%いることから、女子において運動習慣の二極化傾向が強く見られる。原因としては、運動する機会の減少や遊びの変化などが考えられる。

〈現状及び課題〉

- ・平日の運動実施時間、総運動時間ともに、男女ともに全国より上回る結果であった。
- ・総運動時間について、特に、1週間ほとんど運動をしない男子が7.7%、女子では23.1%おり、R4年度と比べてもかなり多いことから、運動習慣の二極化傾向がより進んでいる。

【改善策】

【小学校】

- ・体育科学習指導の充実(運動の特性に触れる、主運動の基礎となる感覚や柔軟性を取り入れた感覚づくりの設定)及び運動実施時間の確保

【中学校】

- ・運動の特性に触れ、十分な運動量を確保しながら、課題解決に取り組むことができる授業、反復横跳び、長座体前屈の向上につながる授業の充実

【共通、その他】

- ・「主運動の基礎となる感覚や類似した動きを経験させるための時間」の意図的設定

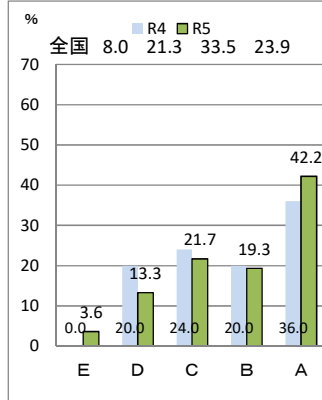
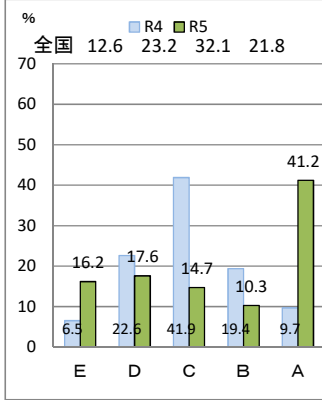
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

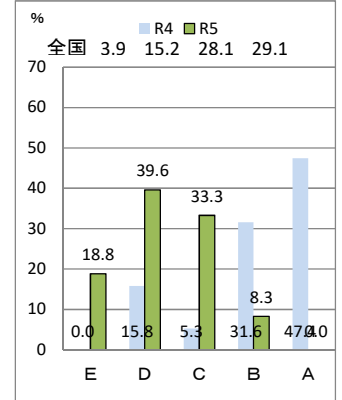
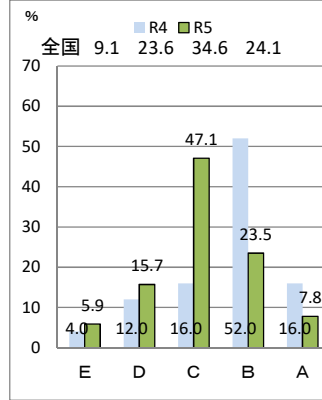
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が31.5ポイント増加し、Cの割合は27.2ポイント減少している。
- ・女子はAの割合が6.2ポイント増加し、Dの割合は6.7ポイント減少している。
- ・男女とも、E、D、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、E、Dの割合を少なくしていく取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はCの割合が31.1ポイント増加し、Bの割合が28.5ポイント減少している。
- ・女子はAの割合は0になり、E、D、Cの割合が増加している。
- ・男女ともにCの割合を、B、Aに引き上げるための支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

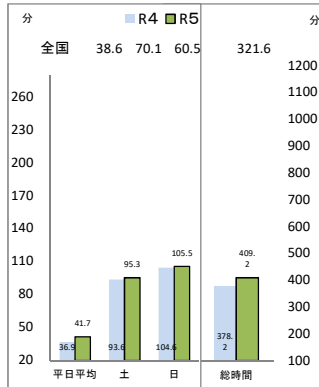
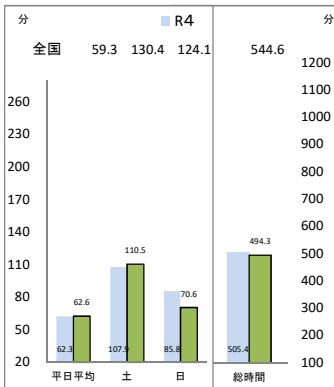
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



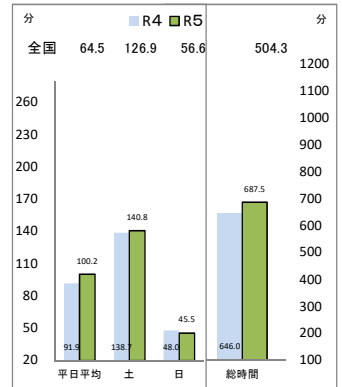
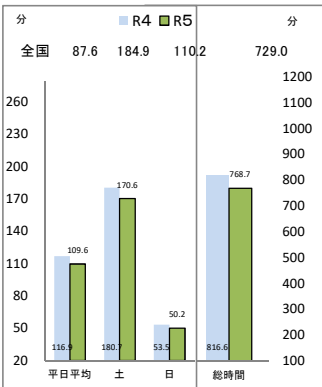
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「短い」女子が「比較的長い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して男女とも運動時間に大きな差はみられない。
- ・土・日曜日は、男子が全国平均より短く、女子は全国平均より長いになっている。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男女ともに「長い」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して、男女ともに「わずかに長い」結果であった。
- ・土・日曜日は、男女ともに日曜日が全国平均より103.5分、29.6分長かった。

【改善策】

【小学校】

- ・一校一運動の取組による児童の運動実施時間の確保

【中学校】

- ・課題意識を高め、生徒の主体的な活動を促す教科体育の充実

【共通、その他】

- ・各学校の実態に応じて設定する授業導入時の補強運動
- ・体育指導部による児童生徒の体力向上策の検討

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

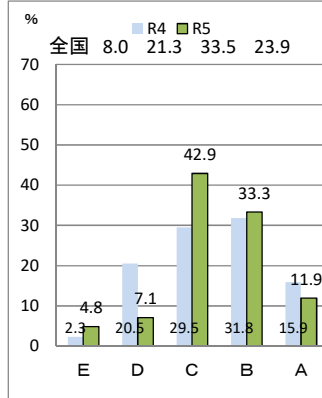
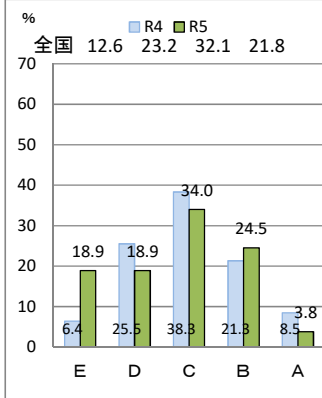
徳之島町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

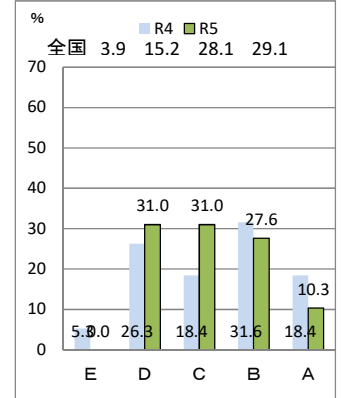
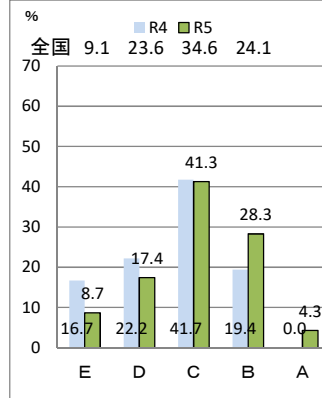
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〔現状及び課題〕
 ・男子は、Aの割合が4.7ポイント減少し、逆にEの割合が12.5ポイント増加している。
 ・女子も男子と同様にAの割合が4.0ポイント減少し、逆にEの割合が2.5ポイント増加している。
 ・男女ともに、Eの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、Bの児童をAへ引き上げる取組が必要である。

〔現状及び課題〕
 ・男子は、Aの生徒が4.3ポイント増加するとともに、Eの割合が8.0ポイント、Dの割合が4.8ポイント減少し、体力の向上が伺える。しかし、全国と比べると以前としてAの割合が少ないため、引き続きC、Bの生徒をAに引き上げる取組が必要である。
 ・女子は、Aの割合が8.1ポイント減少し、逆にEの割合が5.0ポイント増加している。C、Bの生徒をAに引き上げるための支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

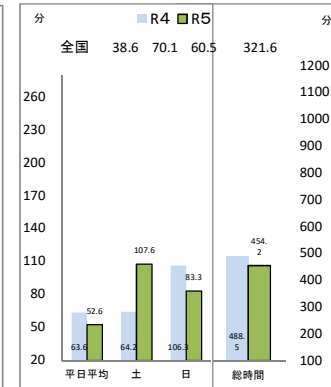
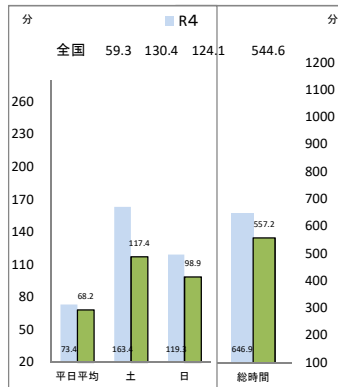
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



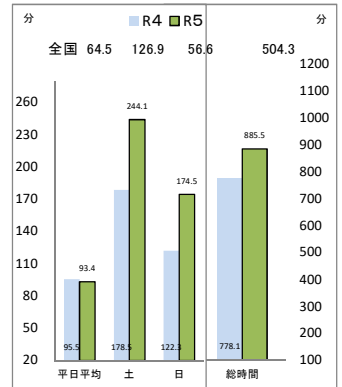
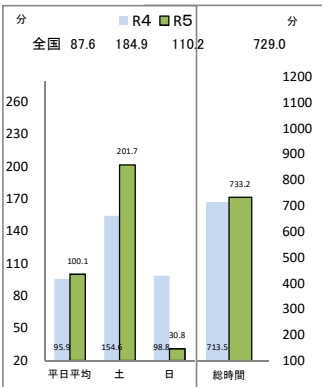
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〔現状及び課題〕
 ・男子は、全てにおいて昨年度よりも運動実施時間が減少している。しかし、総運動時間については、全国平均と比較しても大きな差はみられない。
 ・女子は、昨年度課題であった土曜日の運動時間が改善されている。また、総運動時間については全国平均よりも大きく上回っている。

〔現状及び課題〕
 ・男子の総運動時間は、全国平均と比較して「ほとんど差がない」結果であった。その主な要因は、日曜日の運動実施時間が全国平均よりも大きく下回っているためであり、今後は日曜日の運動時間の確保に向けた手立てが必要である。
 ・女子は、全てにおいて昨年度よりも運動実施時間が増加している。総運動時

【改善策】

【小学校】

・調査結果の分析を踏まえ、自校の課題を解決するための「体力アップ！チャレンジかごしま」の積極的な推進を図る。
 ・男女ともに体力・運動能力が低下しているため、更に児童一人一人が自らの課題解決に意欲的に取り組む教科体育の充実を図る。

【中学校】

・調査結果の分析を踏まえ、自校の課題を解決するための「体力アップ！チャレンジかごしま」の積極的な推進を図る。
 ・体力・運動能力を更に高めていくために、他者との協働を通して運動の楽しさや喜びを味わうことができる教科体育の充実を図る。

【共通、その他】

・生涯スポーツの観点から運動にも取り組めるように、地域やPTA、社会教育行政等と連携した取組の推進を図る。

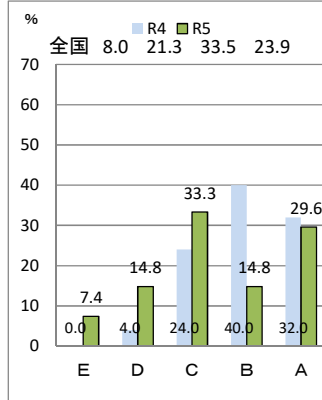
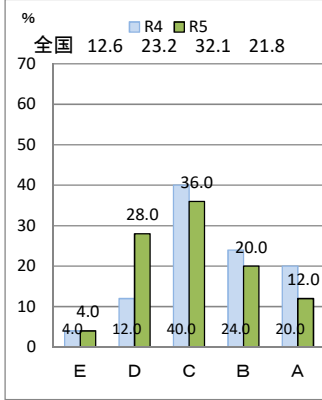
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

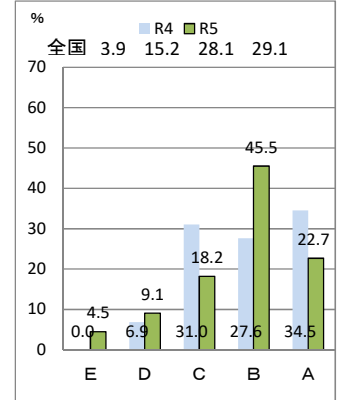
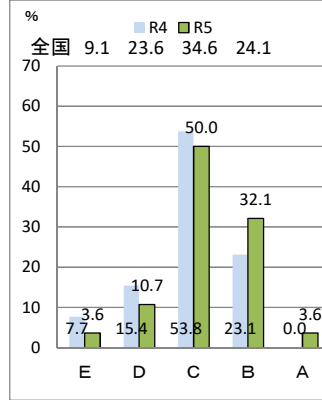
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が8.0ポイント、Bの割合が4.0ポイント減少し、Dの割合が16.0ポイント増加している。
- ・女子はAの割合が2.4ポイント、Bの割合が25.2ポイント減少している。
- ・男子、女子ともに総合体力評価の割合が減少している。運動量の確保等をして体力・運動能力を高めていきたい。

〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が3.6ポイント、Bの割合が9.0ポイントの増加となった。C、D、Eの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、Cの生徒をB、Aへ引き上げるための取組が必要である。
- ・女子はAの割合が11.8ポイント減少したが、Bの割合が17.9ポイントの増加となった。引き続き運動量の確保等をして更なる体力・運動能力を高めていきたい

【小学校 運動実施時間】

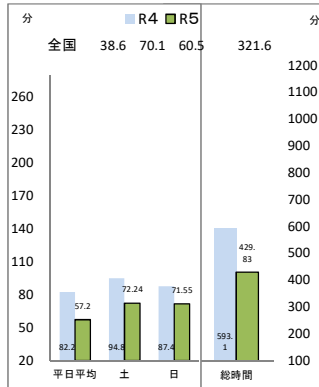
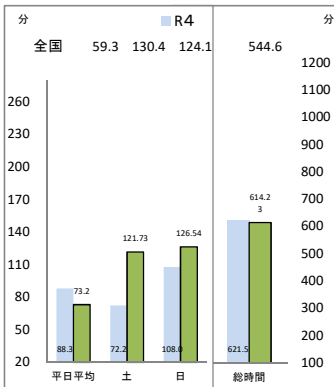
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

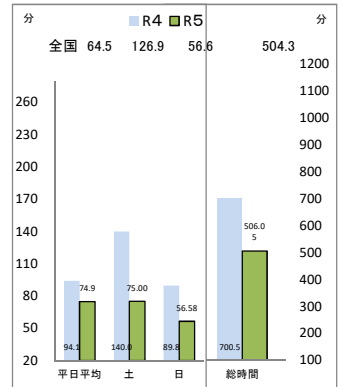
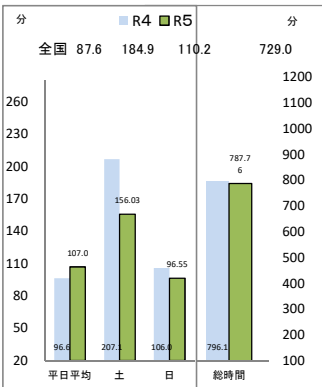
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総合運動時間は、男子は7.27分の減少、女子は、昨年度より163.23分の大幅な減少がみられる。
- ・運動時間の確保は、運動習慣の確立にもつながる。各学校における取組を、家庭や地域と連携を図りながら取り組ませることで、運動の習慣化を図るとともに、運動時間の確保に努めたい。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男子は8.34分の減少。女子も、194.45分の大幅な減少がみられる。
- ・総運動時間の減少に合わせて、運動時間の二極化が考えられる。各学校において、生徒の個別の運動時間を確認しながら、個に応じた指導の充実が求められる。

【改善策】

【小学校】

- ・体育主任を中心とした校内の体育指導の取組を強化し、体力アップ！チャレンジかごしま等への積極的な取組を推奨したい。

【中学校】

- ・運動習慣の二極化が懸念されるため、家庭でも取り組める運動等を紹介したり、保護者に意識を高めるような研修等を実施したい。

【共通・その他】

- ・運動時間の確保や運動の習慣化を図るために、学校・家庭・地域が一体となった取り組みが必要である。各学校の調査結果を保護者や地域住民へ周知するとともに、その改善策について協力を求め、連携した取組を行っていききたい。

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

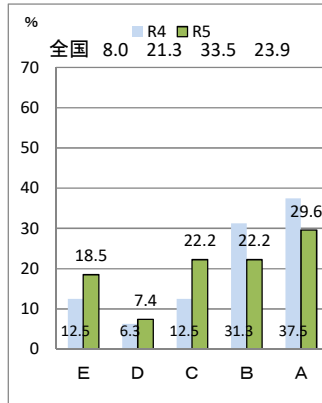
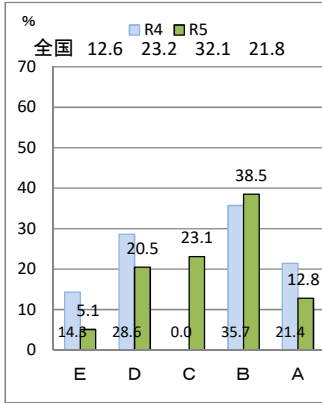
伊仙町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

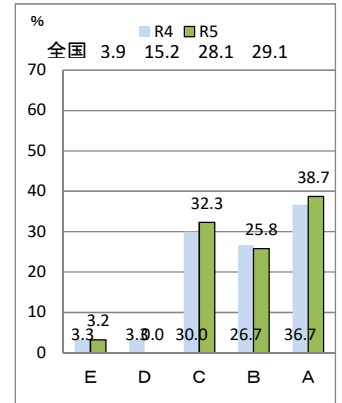
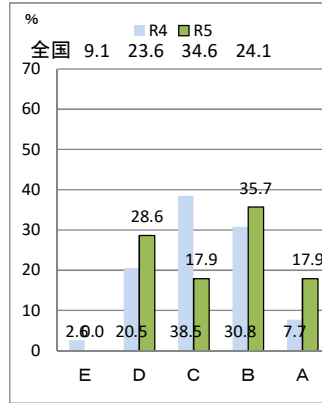
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- 男子はAの割合が8.6ポイント減少し、Bの割合が3ポイント増加している。
- 女子はAの割合が7.9ポイント減少し、Bの割合も9.1ポイント減少している。
- 男女ともに、E、Dの児童の体力向上を目指し、運動への興味関心

〈現状及び課題〉

- 男子はAの割合が10.2ポイント増加し、Bの割合も4.9ポイント増加している。
- 女子はAの割合が2ポイント増加し、Bの割合が0.9ポイント減少している。
- 男女ともにE、Dの生徒の体力向上を目指し、運動への興味関心を更に高めるような取組を充実させる必要がある。

【小学校 運動実施時間】

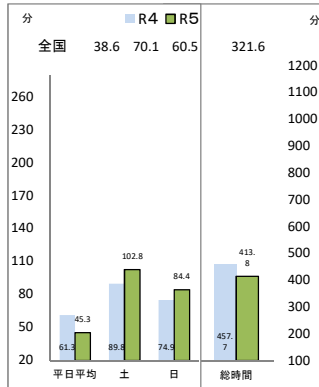
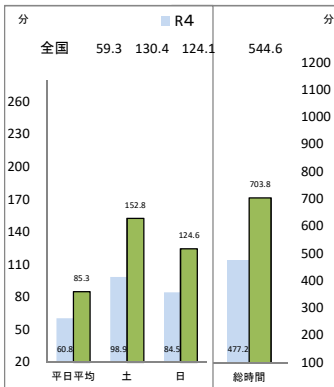
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

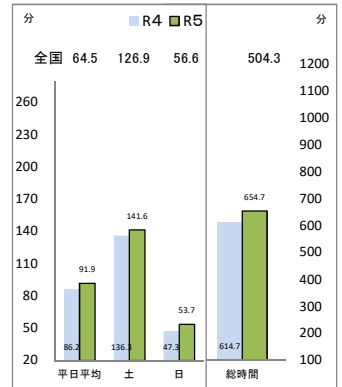
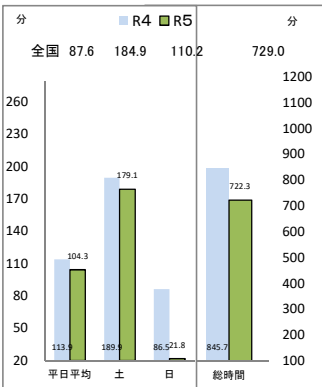
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- 男子の総運動時間は全国平均と比較すると長く、R4と比較しても、全体的に上回っている。
- 女子は、平日が短く、総運動時間は全国平均と比較すると上回っているがR4と比較すると短かった。
- 女子は、平日における運動時間の確保が必要である。

〈現状及び課題〉

- 男子はR4と比較すると日が64.7分も減少しているが、総運動時間は全国平均と比較すると長い。
- 女子は、R4と比較すると平日、土・日ともにほとんど差がみられず、総運動時間も全国平均と変わりない。
- 男子の週休日における運動時間確保のための手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- これまで各学校の実態に沿って取り組んできた朝の体力づくりの時間やICT機器を活用した、柔軟性を高める指導の重点化と継続的な指導

【中学校】

- 朝の体力づくりの時間などに積極的に参加する呼びかけや、生徒会を中心とした主体的な活動の推進

【その他】

- PTAや家庭教育学級で、各学校の「一校一運動」の紹介と啓発の充実
- 部活動がない休日にICT機器を活用し、家庭で取り組める運動の紹介と継続的な記録による評価

令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

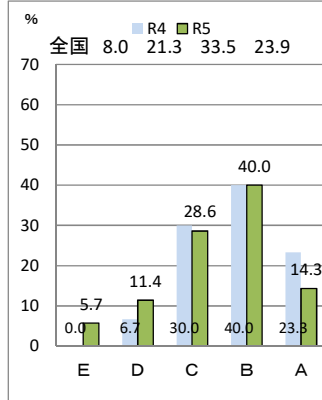
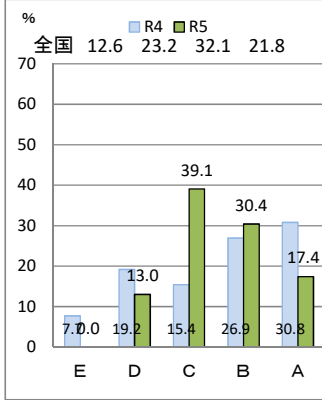
和泊町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

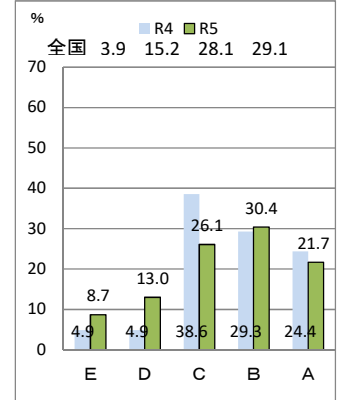
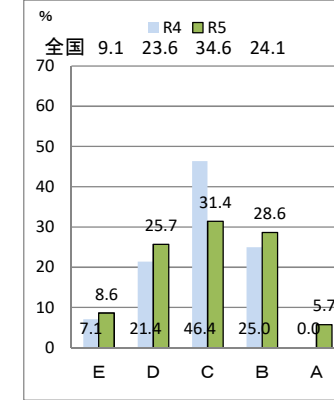
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はCの割合が23.7ポイント、Bの割合が3.5ポイント増加するとともに、Aの割合が13.4ポイント、Eの割合が7.1ポイント減少している。
- ・ 女子はEやDの割合が10.4ポイント増加し、Aの割合が9ポイント減少している。
- ・ 昨年度と比較すると中間層が多くなっているが、男子はA~Cにおいて、女子では特にBの割合が全国・県より高くなっている。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はAの割合が5.7ポイント、Bの割合が3.6ポイント増加するとともに、Cが15ポイント減少している。
- ・ 女子はAの割合が2.7ポイント、Cの割合が12.4ポイント減少するとともに、Eの割合が3.8ポイント、Dの割合が8.1ポイント増加している。
- ・ 男女ともに概ね全国・県の平均並みであるが、昨年度と比較すると下位層が増加している傾向にある。

【小学校 運動実施時間】

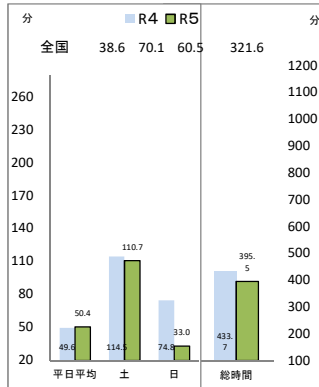
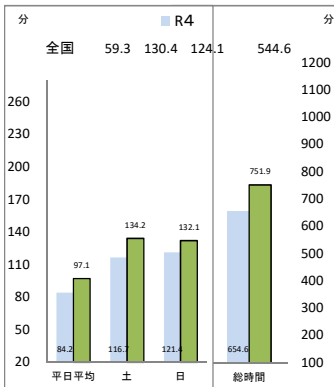
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

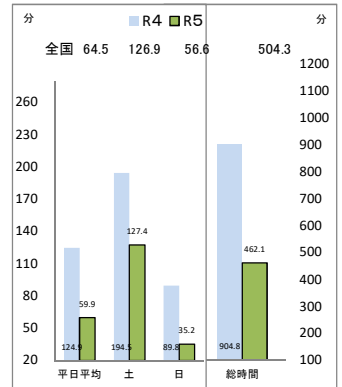
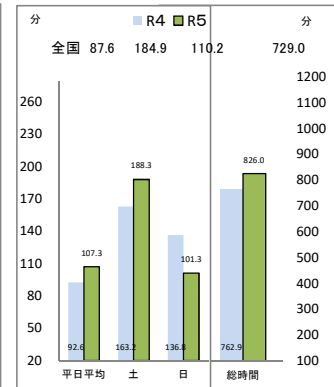
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較して男女ともに長く、男子はR4より長くなり、女子はわずかに短くなっている。
- ・ 男女ともに平日の運動時間が全国平均より長く、土・日は全国平均並みであることから、概ね満足できる状況である。質の向上に取り組む必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男子は長く、女子は短くなっている。R4と比べても男子は長く、女子は短くなっている。
- ・ 男子は平日の運動時間が全国平均より長く、一方で女子においては平日、土・日ともに短い。女子の運動時間が全国平均より短くなっており、量と質の確保と向上に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・ 体育授業における授業改善による運動への意欲の向上と体力づくりの質の向上

【中学校】

- ・ 運動時間確保のための、個に応じた運動時間や内容の具体的目標設定

【共通、その他】

- ・ 体育授業内外での一校一運動や「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組による運動への意欲向上
- ・ PTAや家庭教育学級を活用した運動を含めた健康教室の開催(外部講師の活用)

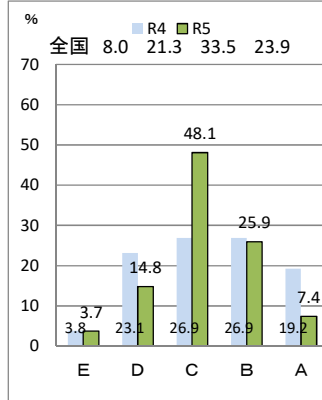
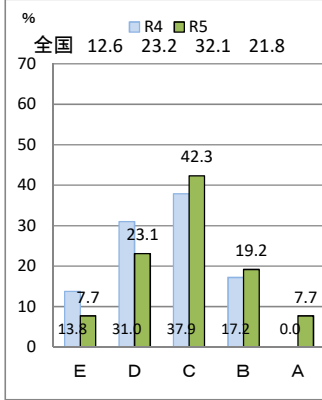
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

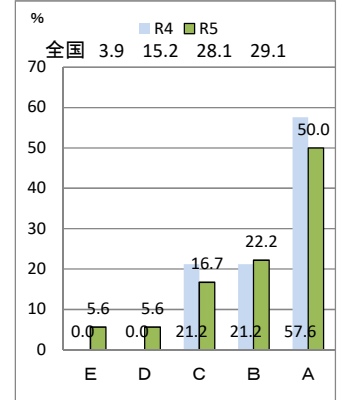
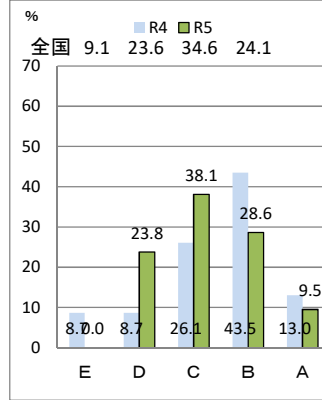
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子はEの割合が6.1ポイント、Dの児童の割合が7.9ポイント減少し、C・B・Aの割合が増加した。体力の向上が伺える。
- ・女子は、Dの割合が8.3ポイント減少したものの、Aの割合が11.8ポイント減少し、Cの児童が21.2ポイント増加した。
- ・男女ともにE・Dの児童の体力向上に向け、運動への興味・関心を高める手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はEの生徒がいなくなったが、Bの生徒が14.9ポイント減少し、Dの生徒が15.1ポイント、Cの生徒が12ポイント増加した。体力の向上が伺えるが、前回いなかったEの生徒が8.7ポイント増加している。
- ・女子は半数の生徒がAである。しかし、R4にいなかったE・Dの生徒が見られた。男女ともにE・Dの児童の体力向上に向け、運動への興味・関心を高める手立てが必要である。

【小学校 運動実施時間】

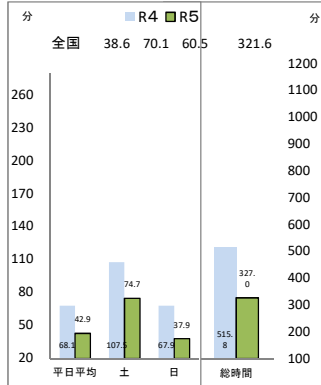
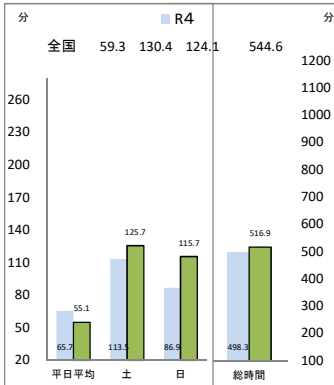
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

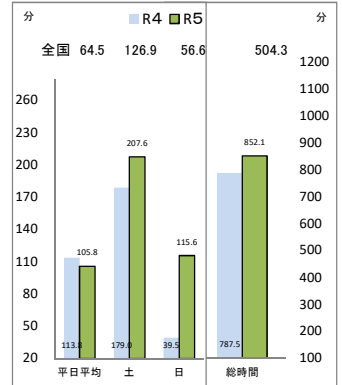
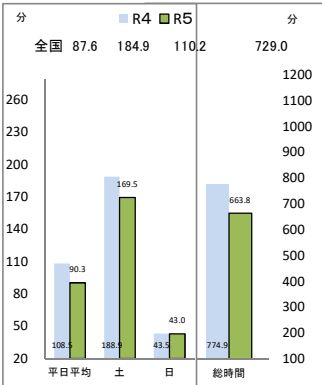
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男女とも「ほとんど差がない」結果であった。
- ・平日は、全国平均と比較して、男子は下回り、女子は上回っている。
- ・土・日曜日は、全国平均と比較して、男子は下回り、女子は土曜日のみ上回っている。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子が「ほとんど差がない」、女子が「長い」という結果であった。
- ・男女ともに、平日・土曜は全国平均を上回っているが、男子の日曜日の運動時間が下回った。日曜日は基本的に部活動を実施していないので、女子は、自主的な運動をしている生徒が多いことが分かる。

【改善策】

【小学校】

- ・生涯学習課、知名町体育協会、沖永良部スポーツクラブE LOVEと連携し、社会体育等の取組を充実させ、生涯スポーツにつながる体験活動の推進

【中学校】

- ・休日の運動部活動の地域移行及び沖永良部スポーツクラブE LOVEと連携・協力した外部指導員の人材確保

【共通・その他】

- ・小中連絡会における体力・運動能力調査の結果分析と中学校区単位で取り組む小・中共通の補強運動の設定
- ・PTA、家庭教育学級等で運動に関する研修会の開催や親子体力づくり等の推進

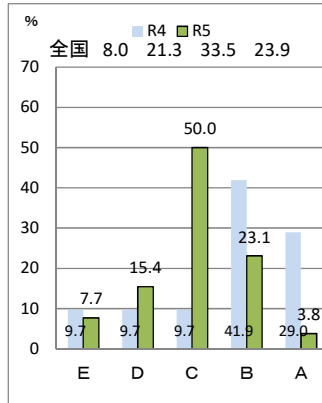
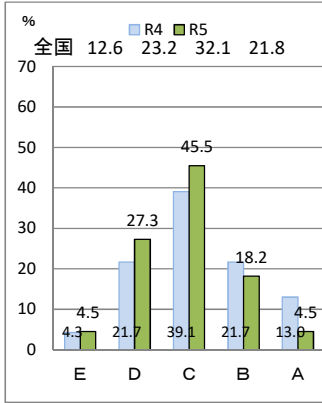
令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

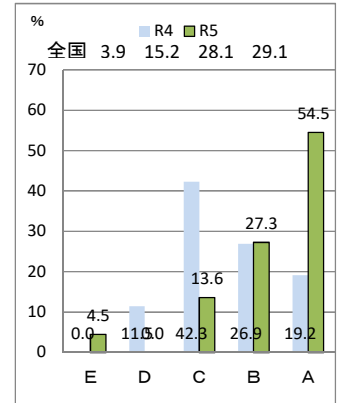
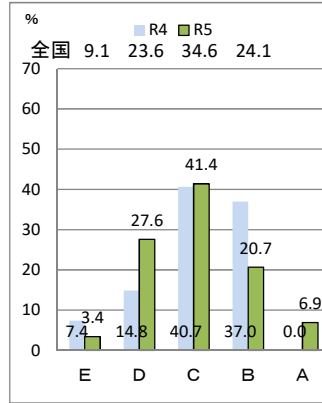
※グラフ内、上の数値は、令和5年度各総合評価の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下 中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男女共に、全国及び県の平均と比べて、Cの割合が高くA・Eの割合が低い。体力・運動能力の二極化の傾向はさほど顕著ではない。
- ・体力合計点は、男女共に県平均を上回った。また、全国平均と比べても同等かそれ以上の結果であった。
- ・男女共に、反復横跳びと20mシャトルランの結果が全国及び県の平均を上回った。その一方で、握力と50m走の結果は、男女共に全国及び県の平均を下回った。

〈現状及び課題〉

- ・体力合計点は、男女共に全国及び県の平均を上回った。特に女子は、全国の合計点を7ポイント近く上回っている。
- ・前回調査と比べて、男子はAとC・Dの割合が増え、女子はA・BとEの割合が増えた。男女共に体力・運動能力の二極化の傾向が見られる。
- ・女子は9つ全ての実技調査で全国及び県の平均を上回った。その一方で、男子は、長座体前屈、20mシャトルラン、立ち幅跳びの3つの調査で全国及び県の平均を下回った。

【小学校 運動実施時間】

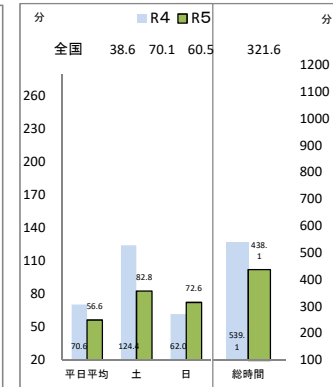
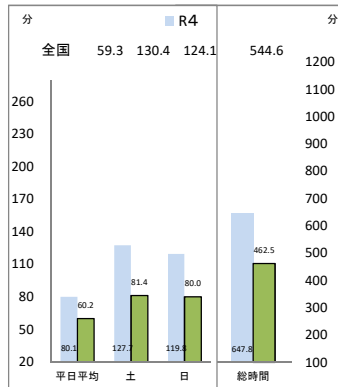
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和5年度運動実施時間の全国の平均を表す。



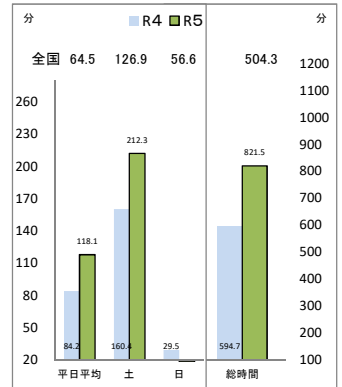
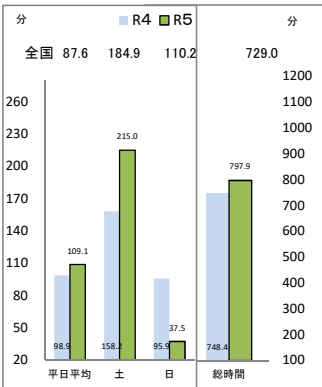
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・女子は1週間の総運動時間が前回調査から減ったが、依然として全国及び県の平均を上回ることができている。その一方で、男子は女子以上に1週間の総運動時間が減り、全国及び県の平均も下回った。
- ・体格調査では、男女共に「普通」の割合が全国及び県より高く、肥満ややの傾向は顕著ではない。しかし、運動やスポーツをすることが「好き」又は「やや好き」と答えた児童の割合は、男女共に全国及び県より低い。運動好きの児童を育てるための取組を進める必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男女共に、1週間の総運動時間が前回調査より長くなっており、全国及び県の平均も上回っている。
- ・体格調査では、女子の「普通」の割合が全国及び県より低く、やや肥満傾向にある。また、男子は、運動やスポーツをすることが「好き」又は「やや好き」と答えた生徒の割合が全国及び県より高かったが、女子は全国及び県より低かった。女子を中心に、運動好きの生徒を育てるための取組を進める必要がある。

【改善策】

【小学校】

・自校の「運動大好き“かごしまっ子”育成推進プラン」を見直し、課題が見られる運動能力の改善を目指した取組を具体的に計画し、推進する。

【中学校】

・教科体育の時間を一層充実させ、運動嫌いの生徒に体を動かすことの楽しさを味わわせたり、DやEの生徒の運動能力向上を図ったりする。

【共通・その他】

・町内全校で「体力アップ！チャレンジかごしま」に参加するとともに、それぞれの学校が、自校の課題に関連した種目を選択するようにする。